

第2章

調査結果

第2章 調査結果

1 障がい者調査

(1) 基本的な属性

ア 性別

問2 あなた(あて名の方)の性別はどちらですか。(○は1つ)

対象者の性別は、男性が50.1%、女性が49.3%である。

障がいの種類別にみると、難病では約3分の2(65.2%)が女性、発達障がいでは約4分の3(74.7%)が男性である。

<対象者の性別>

(%)

		男性	女性	無回答
対象者全員	n=797	50.1	49.3	0.6

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	男性	女性	無回答
身体障がい	n=294	52.7	47.3	—
知的障がい	n=124	68.5	31.5	—
精神障がい	n=308	51.9	47.4	0.6
難病	n=138	34.8	65.2	—
発達障がい	n=79	74.7	25.3	—
高次脳機能障がい	n=16	81.3	18.8	—
無回答	n=26	30.8	57.7	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 年齢

問3 年齢を教えてください。(8月1日現在)

対象者の年齢は、40代が26.5%、50代が23.3%となっており、平均年齢は45.7歳である。

障がいの種類別にみると、平均年齢は、身体障がい49.4歳、知的障がい35.0歳、精神障がい46.0歳である。

<対象者の年齢>

(%)

		19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答	平均
対象者全員	n=797	1.5	11.5	17.1	26.5	23.3	17.6	2.5	45.7歳

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	19歳以下	20代	30代	40代	50代	60歳以上	無回答	平均
身体障がい	n=294	0.7	8.5	11.2	22.8	29.9	24.8	2.0	49.4歳
知的障がい	n=124	7.3	31.5	20.2	25.0	10.5	3.2	2.4	35.0歳
精神障がい	n=308	0.3	8.4	19.5	31.2	25.0	13.3	2.3	46.0歳
難病	n=138	0.7	10.9	22.5	24.6	21.7	18.8	0.7	45.3歳
発達障がい	n=79	7.6	32.9	20.3	31.6	1.3	5.1	1.3	34.5歳
高次脳機能障がい	n=16	—	12.5	12.5	12.5	43.8	18.8	—	49.0歳
無回答	n=26	—	7.7	11.5	23.1	11.5	26.9	19.2	48.7歳

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ウ 居住地域

問4 住んでいる地域はどこですか。(○は1つ)

居住地域は、「下連雀」が19.8%と最も多く、次いで「上連雀」が18.6%で続いている。

＜居住地域＞ (%)

	井口	深大寺	野崎	大沢	上連雀	下連雀	牟礼	新川	北野	中原	井の頭	無回答
n=797	7.2	4.3	5.1	7.8	18.6	19.8	8.7	8.4	3.4	8.5	6.5	1.8

エ 住居形態

問5 現在の住居は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

住居形態は、「持ち家(一戸建て)」が35.3%、「持ち家(マンション)」が15.3%で、持ち家が約半数を占めている。

＜住居形態＞ (%)

	持ち家 (一戸建て)	持ち家 (マンション)	借家、民間 賃貸マンシ ョン(UR都 市機構等の 賃貸住宅を 含む)	民間賃 貸アパ ート(木 造など)	都営・市 営住宅	グルー プホー ム	社宅・寮	その他	無回答
n=797	35.3	15.3	13.6	17.9	10.5	2.8	1.8	2.0	0.9

オ 同居者

問6 あなた(あて名の方)は、どなたといっしょに暮らしていますか。(○はいくつでも)

同居者は、「親」が39.0%と最も多く、「配偶者(夫もしくは妻)」が32.7%で続いている。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは83.9%が「親」と同居し、27.4%が「兄弟姉妹」と同居している。また、精神障がいの28.2%は「ひとり暮らし」である。

＜同居者＞ (%)

	ひとり 暮らし	配偶者 (夫し くは妻)	子ども	親	兄弟 姉妹	他の 親族	友人・ 知人	施設や グルー プホー ム、寮 の職員 や仲間	その他	無回答
対象者全員 n=797	20.2	32.7	20.3	39.0	13.2	1.9	0.9	3.4	1.3	0.3

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=294	17.3	43.5	25.5	32.3	10.9	1.4	0.7	3.1	1.7	0.3
知的障がい	n=124	2.4	1.6	—	83.9	27.4	1.6	—	11.3	—	0.8
精神障がい	n=308	28.2	23.7	14.0	40.3	13.3	2.6	1.3	2.9	1.9	—
難病	n=138	18.1	52.9	36.2	21.7	6.5	2.9	1.4	—	—	0.7
発達障がい	n=79	7.6	6.3	—	77.2	30.4	3.8	—	6.3	—	—
高次脳機能障がい	n=16	12.5	43.8	18.8	50.0	6.3	6.3	—	—	12.5	—
無回答	n=26	19.2	26.9	30.8	26.9	3.8	3.8	—	7.7	—	3.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

年齢別にみると、「ひとり暮らし」の割合は、50代では24.2%、60歳以上では26.4%である。

＜同居者／年齢別＞

(%)

		ひとり暮らし	配偶者 (夫もしくは妻)	子ども	親	兄弟 姉妹	その他の 親族	友人・ 知人	施設や グループホーム、寮 の職員 や仲間	その他	無回答
19歳以下	n=12	—	—	—	100.0	58.3	8.3	—	—	—	—
20代	n=92	7.6	3.3	—	84.8	34.8	2.2	1.1	2.2	2.2	—
30代	n=136	21.3	27.9	16.9	43.4	16.9	2.9	2.2	2.9	0.7	—
40代	n=211	18.5	26.5	19.9	46.4	10.0	3.3	0.5	4.3	1.4	—
50代	n=186	24.2	45.7	29.0	23.1	6.5	0.5	1.1	3.2	2.2	—
60歳以上	n=140	26.4	52.1	28.6	11.4	6.4	—	—	2.9	—	—
無回答	n=20	20.0	30.0	15.0	25.0	5.0	—	—	10.0	—	10.0

カ 記入者

問1 この用紙(調査票)に記入されるのはどなたですか。(○は1つ)

今回の調査票の記入については、約6割が「あて名のご本人様が記入した」(61.1%)と回答している。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは約4割が「あて名の方が回答できないので別の方が回答した」(39.5%)とし、「あて名のご本人様が記入した」のは約2割(20.2%)である。

＜今回の調査票の記入者＞

(%)

		あて名の方ご本人 様が記入した	あて名の方から 回答を聞いて別 の方が代筆した	あて名の方が回答 できないので別 の方が回答した	無回答
対象者全員	n=797	61.1	8.4	9.3	21.2

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=294	58.8	12.2	7.8	21.1
知的障がい	n=124	20.2	16.9	39.5	23.4
精神障がい	n=308	69.2	5.5	4.5	20.8
難病	n=138	64.5	6.5	5.8	23.2
発達障がい	n=79	35.4	11.4	30.4	22.8
高次脳機能障がい	n=16	25.0	31.3	12.5	31.3
無回答	n=26	65.4	3.8	3.8	26.9

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

(2) 障がいの状況

ア 所持している手帳等の種類

問7 お持ちの手帳等は、どれですか。(〇はいくつでも)

対象者のうち、身体障害者手帳を所持している人は 36.9%、愛の手帳を所持している人は 15.6%、精神障害者保健福祉手帳もしくは自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証を所持している人は 38.6%、特定医療費(指定難病)受給者証もしくはマル都医療券を所持している人は 17.3%である。

＜所持している手帳等の種類＞ (%)

身体障がい	身体障害者手帳1級	身体障害者手帳2級	身体障害者手帳3級	身体障害者手帳4級	身体障害者手帳5級	身体障害者手帳6級				
	n=797	13.2	6.9	4.5	8.5	2.3	1.5	36.9		
知的障がい	愛の手帳1度	愛の手帳2度	愛の手帳3度	愛の手帳4度						
	n=797	0.5	3.6	5.5	5.9	15.6				
精神障がい	精神障害者保健福祉手帳1級	精神障害者保健福祉手帳2級	精神障害者保健福祉手帳3級	自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証						
	n=797	1.1	14.7	9.7	22.7	38.6(手帳所持・精神通院の重複あり)				
					手帳あり・精神通院あり 76人(9.5%)		手帳あり・精神通院なし 127人(15.9%)		手帳なし・精神通院あり 105人(13.2%)	
難病	特定医療費(指定難病)受給者証	マル都医療券					無回答			
	n=797	15.2	3.9					3.3		
			17.3(指定難病・マル都医療券の重複あり)							

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

問8で尋ねている発達障がい・高次脳機能障がいの状況も含めて、障がいの重複状況をみると、身体障がい(身体障害者手帳所持者)のうち知的障がい(愛の手帳所持者)もある人は 7.8%である。また、知的障がい(愛の手帳所持者)のうち発達障がいと診断されたことがある人は 42.7%である。さらに、難病(特定医療費(指定難病)受給者証またはマル都医療券)のうち身体障がい(身体障害者手帳所持者)は 26.8%である。

＜障がいの重複状況＞ (%)

		身体障がい	知的障がい	精神障がい	難病	発達障がい	高次脳機能障がい	無回答
対象者全員	n=797	36.9	15.6	38.6	17.3	9.9	2.0	3.3

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=294		7.8	5.8	12.6	3.1	3.4	—
知的障がい	n=124	18.5		8.1	4.0	42.7	0.8	—
精神障がい	n=308	5.5	3.2		1.9	8.8	2.6	—
難病	n=138	26.8	3.6	4.3		2.2	1.4	—
発達障がい	n=79	11.4	67.1	34.2	3.8		1.3	—
高次脳機能障がい	n=16	62.5	6.3	50.0	12.5	6.3		—
無回答	n=26	—	—	—	—	—	—	—

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 身体障害者手帳に記載されている障がいの種類

副問7-1 手帳に記載されている障がいは、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

※ 問7で「身体障害者手帳を持っている(選択肢1~6)」と回答した人

身体障害者手帳に記載されている障がいの種類は、「肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害など)」が 49.3%と最も多く、「内部機能障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、大腸など)」が 31.0%で続いている。

＜身体障害者手帳に記載されている障がいの種類＞

(%)

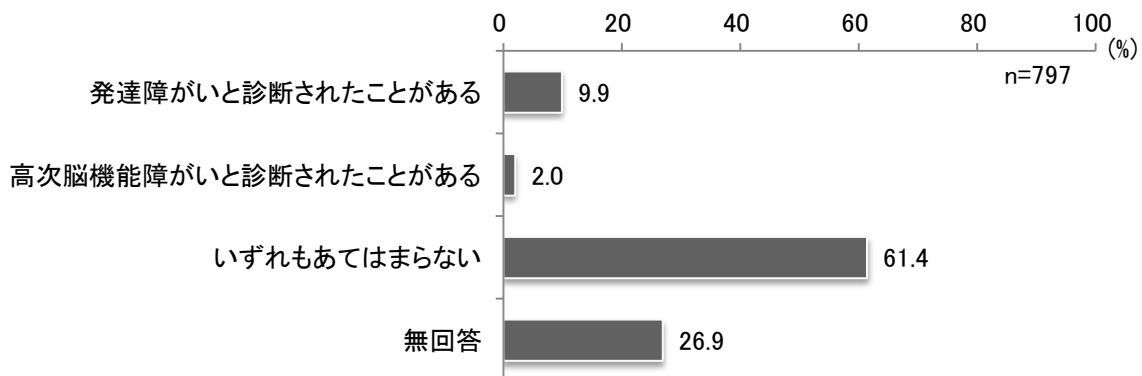
	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由(上肢、下肢、体幹、運動機能障害など)	内部機能障害(心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、大腸など)	無回答
n=294	7.1	8.5	0.7	2.4	49.3	31.0	4.4

ウ 発達障がい・高次脳機能障がいの有無

問8 次のうち、あてはまるものに〇をつけてください。(〇はいくつでも)

「発達障がいと診断されたことがある」人は9.9%、「高次脳機能障がいと診断されたことがある」人は2.0%である。

＜発達障がい・高次脳機能障がいの有無＞



エ 発達障がいの内容

副問8-1 診断されたのは次のどれですか。(〇はいくつでも)

※ 問8で「発達障がいと診断された(選択肢1)」と回答した人

発達障がいの診断内容は、「自閉症(自閉症スペクトラム)」が43.0%と最も多く、「その他の広汎性発達障がい」が24.1%と続いている。

＜発達障がいの内容＞ (%)

	自閉症(自閉症スペクトラム)	アスペルガー症候群	その他の広汎性発達障がい	注意力欠如多動性障害(AD/HD)	学習障害(LD)	その他の発達障がい	無回答
n=79	43.0	12.7	24.1	12.7	6.3	22.8	6.3

発達障がいの診断内容の重複状況をみると、「自閉症(自閉症スペクトラム)」と回答した34人のうち、6人は「その他の広汎性発達障がい」、2人は「注意力欠如多動性障害(AD/HD)」が重複している。

＜発達障がいの内容／重複の状況＞ (人)

n=79	自閉症(自閉症スペクトラム)(n=34)	アスペルガー症候群(n=10)	その他の広汎性発達障がい(n=19)	注意力欠如多動性障害(AD/HD)(n=10)	学習障害(LD)(n=5)	その他の発達障がい(n=18)
自閉症(自閉症スペクトラム)	(34)	1	6	2	1	1
アスペルガー症候群		(10)	3	4	1	0
その他の広汎性発達障がい			(19)	3	0	1
注意力欠如多動性障害(AD/HD)				(10)	1	0
学習障害(LD)					(5)	1
その他の発達障がい						(18)

※ 重複の場合は、それぞれにカウント

オ 高次脳機能障がいの内容

副問8-2 差し支えなければ、診断された「障がいの種類(記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい、社会的行動障がい等)」をご記入ください。(自由記入)

※ 問8で「高次脳機能障がいと診断された(選択肢2)」と回答した人

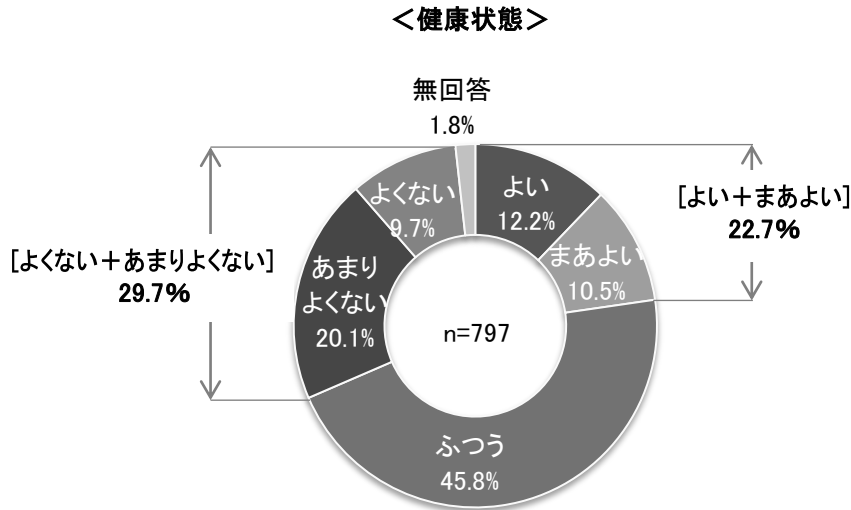
高次脳機能障がいの診断内容としては、15件の記入(「記憶障害」「遂行機能障害」「記銘力障害」「見当識障害」「注意障害」)があった。

(3) 健康状態・医療の状況

ア 健康状態

問9 全般的にいて、あなた(あて名の方)の現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

健康状態については、約3割が、「よくない」(9.7%)もしくは「あまりよくない」(20.1%)と回答している。



障がいの種類別にみると、「よくない」もしくは「あまりよくない」と回答した人の割合は、精神障がいでは40.9%、難病では32.6%、身体障がいでは26.5%、知的障がいでは11.3%となっている。

<健康状態/障がいの種類別> (%)

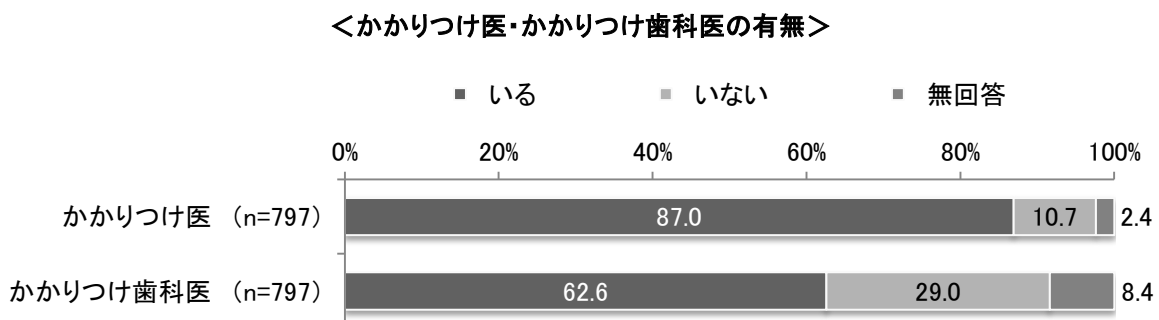
	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答	よくない + あまりよくない
身体障がい (n=294)	13.6	10.9	48.3	19.4	7.1	0.7	26.5
知的障がい (n=124)	24.2	7.3	55.6	8.1	3.2	1.6	11.3
精神障がい (n=308)	7.5	10.4	39.6	26.0	14.9	1.6	40.9
難病 (n=138)	8.7	13.8	44.9	21.7	10.9	—	32.6
発達障がい (n=79)	25.3	11.4	46.8	13.9	2.5	—	16.5
高次脳機能障がい (n=16)	12.5	12.5	50.0	25.0	—	—	25.0
無回答 (n=26)	3.8	15.4	34.6	15.4	7.7	23.1	23.1

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ かかりつけ医・かかりつけ歯科医の有無

問10 健康相談や治療をしてくれる身近な医師(かかりつけ医)はいますか。(○は、かかりつけ医、かかりつけ歯科医、それぞれ1つ)

かかりつけ医が「いる」人は87.0%、かかりつけ歯科医が「いる」人は62.6%である。



ウ 受療状況

問 11 あなた(あて名の方)は、現在、医師の治療を受けていますか。(○は1つ)

85.2%は「定期的に通院している」状態で、「とくに治療はしていない」人は1割未満(9.3%)である。

障がいの種類別にみると、精神障がいと難病では「定期的に通院している」人は9割を超えて(精神障がい94.2%、難病93.5%)いる。

<受療状況>

(%)

	定期的に通院している	自宅で訪問看護や往診を受けている	入院している	その他	とくに治療はしていない	無回答
対象者全員 n=797	85.2	1.3	2.1	1.3	9.3	0.9

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	76.5	3.1	3.7	2.4	13.6	0.7
知的障がい n=124	71.0	—	0.8	0.8	25.8	1.6
精神障がい n=308	94.2	0.3	2.9	0.6	1.3	0.6
難病 n=138	93.5	2.9	1.4	—	1.4	0.7
発達障がい n=79	82.3	—	1.3	1.3	15.2	—
高次脳機能障がい n=16	81.3	—	6.3	—	12.5	—
無回答 n=26	92.3	—	—	—	—	7.7

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

エ 医療的ケアの必要性

問 12 あなた(あて名の方)は、現在、次のような医療的ケアを受けていますか。(○はいくつでも)

選択肢としてあげている項目のうち最も多くの人を受けているのは、「服薬管理」(36.1%)、次いで「透析」(3.9%)、「ストマ(人工肛門・人工膀胱)」(2.1%)と続いている。なお、何らかの医療的ケアを受けている人は、47.8%である。

<医療的ケアの必要性>

(%)

	気管切開	人工呼吸器(レスピレーター)	吸入	吸引	胃ろう・腸ろう	鼻腔経管栄養
n=797	0.9	0.5	1.1	1.3	1.3	0.3

	中心静脈栄養(IVH)	透析	在宅酸素	カテーテル留置	ストマ(人工肛門・人工膀胱)	服薬管理
n=797	0.5	3.9	0.3	0.9	2.1	36.1

	その他	医療的ケアは受けていない	無回答
n=797	7.2	36.9	15.3

【再掲】

何らかの医療的ケアを受けている	47.8
医療的ケアは受けていない	36.9

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

- ・ 在宅自己注射
- ・ 血液検査
- ・ 電気除細動
- ・ 経腸栄養
- ・ 膀胱洗浄、カテーテル消毒、摘便
- ・ 植込み型除細動器(ICD)
- ・ CRT-D(心臓再同期療法)
- ・ インスリン注射
- ・ コルセット着用
- ・ CPAP(シーパップ)
- ・ 完腸・排便コントロール
- ・ カテーテルによる導尿
- ・ ワーファリン効果フォロー

オ 医療的ケアを受けていることで困っていること

副問 12-1 医療的ケアを受けていることで、困っていることはありますか。差し支えなければ、困っていることをお書きください。(自由記入)

※ 問 12 で「医療的ケアを受けている(選択肢 1~13)」と回答した人

医療的ケアを受けていることで困っていることとしては、具体的に以下のような記入があった。

＜医療的ケアを受けていることで困っていること(自由記入)＞

<p>＜薬の服用に関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬の量が多いのではないかと感じる。薬の種類が多くて困る。(40 代女性、精神) ・ 減薬のタイミングがわからない。減薬を考えることが苦しい。(30 代男性、精神) ・ 薬の効果はあると思うが、本人が通院出来ていないので今の治療薬がベストか不明。(50 代女性、身体) ・ 薬の飲み忘れ(40 代男性、精神) ・ 気分が落ちこみがちで不安感が非常に高いが、薬の処方の変更がないため、どうしたら良いかわからない。(30 代男性、精神) ・ 毎回処方箋をもらわなければならないのが大変。(40 代男性、身体) ・ 今飲んでる薬は一生飲み続けなければいけないのか。(50 代男性、精神) ・ 抗うつ薬を服用しているが、公開されていない副作用があるのではと懸念している。(30 代男性、精神) ・ 薬を数種類服用しているが、間違えて同じ薬を飲んでしまう事がある。(50 代女性、身体) ・ 急いで家を出た時、頓服薬を忘れてしまうことがある。(30 代女性、精神) ・ 親に薬を管理してもらっているが、定期薬ではない薬も全て親管理のため、急な体調不良のときにすぐ薬が飲めず辛い思いをしたことがある。(20 代女性、精神) ・ 薬の管理ができないので親が管理している。けれど高齢で限界を感じている。(50 代男性、知的・精神・難病) ・ 現段階ではまだ視力が残っているので、内服や点眼は基本自己ケアできるが、将来、失明した場合自己管理できるかどうかの不安。(40 代女性、身体、難病) ・ 現在はないが、骨折したときや、点滴のための薬を一人では取りに行けず(点滴がダンボール2箱、1ヶ月に使うので車でないと不可能)主人がいない時は困ってしまう。(40 代女性、身体) 	19 件
<p>＜薬の副作用に関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 薬の副作用が気になる。つらい。(40 代男性、精神) ・ 薬の副作用で、疲れやすく、最近はずせをひきやすい。(30 代女性、難病) ・ 睡眠薬の種類が制限されてから、早朝覚醒が多くなった。(40 代男性、精神) 	7 件
<p>＜通院に関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医院にかよるのがたいへん。病院が遠くて、行きにくい。(60 代男性、身体) ・ 家族がいないと医者へ行けない。一人では通院できない。(40 代女性、身体・難病・高次) ・ 体調によって通院が(徒歩10分)できない時がある。(女性、精神) ・ 交通費が高い。(50 代女性、精神) ・ 診察に行くときに、職場の休みが取りにくい。(40 代男性、精神・発達) ・ かかりつけ医が三鷹市外なこと。(50 代女性、精神) ・ 近くでないので、通院できる回数が制限される。(女性 50 代、精神) ・ 現在は、まだ通院しているが、後々動けなくなったときに不安。(60 代女性、難病) ・ ひどく体調が悪くなってしまうと、病院に行くことすら困難なことが多い。(30 代女性、精神) 	15 件

<ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅から1km 弱の距離の医院に通院しているが、肢体不自由(上肢2級、下肢4級)なので、タクシー券が頂けず、通院するのが大変。(50 代男性、身体・高次) ・ 心房細動が起こるたび都内の大学病院で治療や入院をするが、その度にタクシー通院や一人で入院の準備はとても苦勞する。(50 代女性、身体) 	
<p>＜医療にかかる費用に関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療費が高い。薬代が高い。治療費が高い。(40 代女性、難病) ・ 自立支援医療を受けないと薬代等のお金が高くかかる。(20 代男性、精神) ・ 薬、治療費が高額。定期的に飲む薬の量も多いためなかなか費用をおさえられない。(30 代女性、難病) 	7 件
<p>＜症状の改善・悪化に関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神科に通院しているが、投薬治療以外の道が見えないこと。(30 代女性、精神) ・ 症状が改善されない。薬をのんでもなかなか良くならない。(60 代女性、精神) ・ 具合が悪いときは動くのが大変。(50 代女性、身体) ・ 一生病院に通わないといけない。(30 代男性、身体) ・ 体温調整が難しい。(20 代男性、身体・難病) ・ 抵抗力が無いので、すぐに病気をもらう、治りにくい。(30 代女性、身体・難病) ・ 薬をこの先何年飲めば終わるのか先が見えない。(60 代男性、精神・発達) ・ 仕事のため受診時間を確保しづらく、治療を先伸ばしにし、病状を悪化させること。(20 代男性、難病) 	9 件
<p>＜医療器具等の取扱いに関すること＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストマ交換がめんどろ。ストマから漏れることがある。(50 代男性、身体・難病) ・ カテーテルうまく使えないときもある。(40 代女性、身体) ・ 酸素ボンベが重い。(50 代女性、身体・難病) 	3 件
<p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 病気(現象)に囚われていること。(30 代男性、精神) ・ 引越先の病院を紹介してもらえなかった。(50 代女性、精神) ・ 肢体不自由で障害者手帳を申請したが、視覚障害も進み、医療的ケアの今後が心配。(60 代男性、身体) ・ 親が医療ケアをできなくなったときが心配。(30 代男性、身体) 	4 件

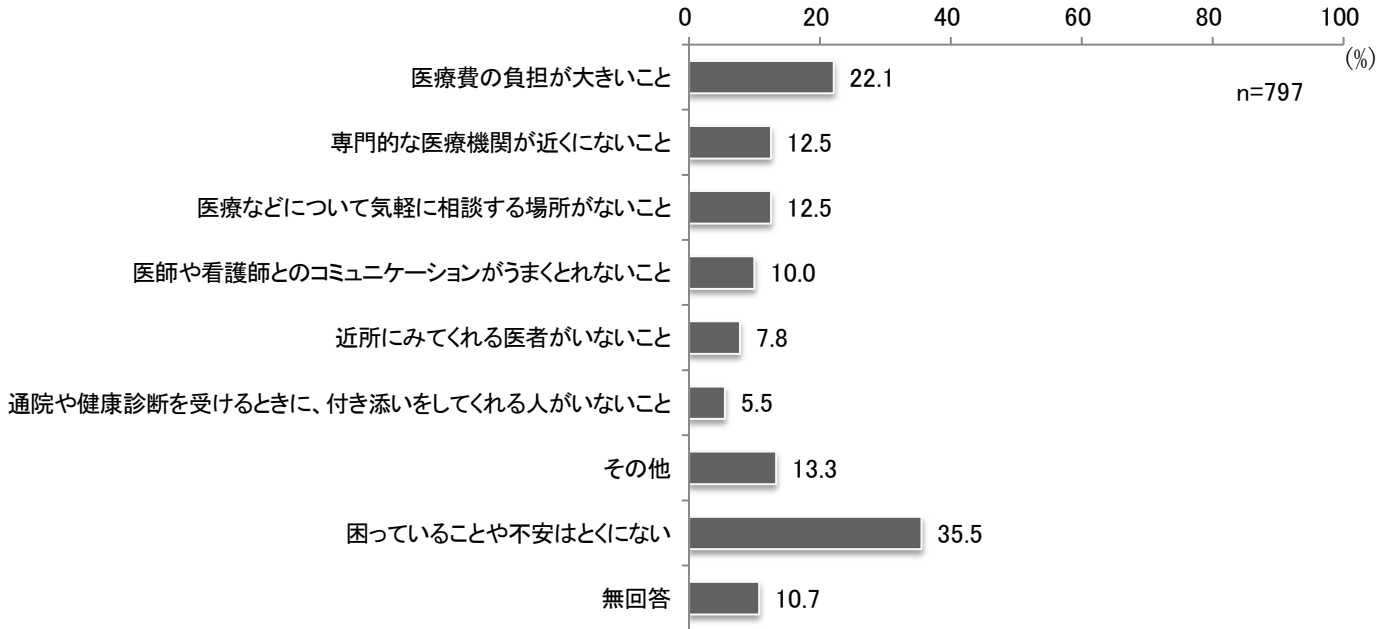
※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

カ 医療について困っていること・不安に感じること

問 13 医療について困っていることや不安を感じることはありますか。(〇はいくつでも)

35.5%の人は、医療について「困っていることや不安はとくにない」と回答しているが、困っていることや不安としては、「医療費の負担が大きいこと」が22.1%と最も多くあげられている。

＜医療について困っていること・不安に感じること＞



障がいの種類別にみると、難病では「医療費の負担が大きいこと」が30.4%と他の障がいに比べて高い。また、知的障がいと発達障がいでは「医師や看護師とのコミュニケーションがうまくとれないこと」(知的障がい21.8%、発達障がい27.8%)と「専門的な医療機関が近くにないこと」(知的障がい21.0%、発達障がい26.6%)の2項目がそれぞれ2割を超え、他の障がいに比べて高くなっている。

＜医療について困っていること・不安に感じること／障がいの種類別＞

(%)

		医療費の負担が大きいこと	専門的な医療機関が近くにないこと	医療などについて気軽に相談する場所がないこと	医師や看護師とのコミュニケーションがうまくとれないこと	近所にみてくれる医者がないこと	通院や健康診断を受けるときに、付き添いをしてくれる人がいないこと	その他	困っていることや不安はとくにない	無回答
身体障がい	n=294	19.4	13.6	11.6	6.8	7.1	6.5	12.9	41.5	8.2
知的障がい	n=124	17.7	21.0	12.1	21.8	8.1	5.6	14.5	27.4	12.1
精神障がい	n=308	22.1	8.4	14.3	10.1	7.1	6.2	14.9	33.1	13.3
難病	n=138	30.4	16.7	12.3	8.0	10.1	5.8	14.5	34.1	5.1
発達障がい	n=79	21.5	26.6	12.7	27.8	11.4	8.9	15.2	26.6	8.9
高次脳機能障がい	n=16	12.5	12.5	12.5	6.3	6.3	—	31.3	56.3	—
無回答	n=26	15.4	11.5	—	7.7	7.7	3.8	3.8	34.6	26.9

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

身体障がいのうち、聴覚障がいについてみると、25 人のうち 8 人(32.0%)は「医師や看護師とのコミュニケーションがうまくとれないこと」、4 人(16.0%)は「通院や健康診断を受けるときに、付き添いをしてくれる人がいないこと」をあげている。

＜医療について困っていること・不安に感じること／聴覚障がい＞ (%)

		医療費の負担が大きいこと	専門的な医療機関が近くにないこと	医療などについて気軽に相談する場所がないこと	医師や看護師とのコミュニケーションがうまくとれないこと	近所にみてる医師がいないこと	通院や健康診断を受けるときに、付き添いをしてくれる人がいないこと	その他	困っていることや不安はとくにない	無回答
聴覚障がい	n=25	20.0	12.0	12.0	32.0	8.0	16.0	16.0	36.0	4.0

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

＜医療に係る費用に関すること＞

- ・ 持病以外の病気にかかったときの医療費の負担が大きいこと。(40 代女性、精神)
- ・ カウンセリングが高い。(20 代女性、精神・発達)
- ・ 心理のカウンセリングに保険が使えないこと。(40 代男性、精神)
- ・ 今度、医療費の自己負担が大きく(増えて)なっていくであろうことが心配。(30 代女性、難病)
- ・ タクシー代が高額であること。(50 代女性、身体)

＜通院に関すること＞

- ・ 通っている病院が遠い。(20 代男性、知的・発達)
- ・ フルタイムで仕事をしているが、仕事帰りに行ける病院がないこと。(30 代女性、精神)
- ・ 高齢になったときに、遠くまで通院できるかどうか。(40 代女性、難病)
- ・ 将来的に車イスを使用せざるを得なくなったとき、電車を使って通院できるか不安である。(50 代男性、身体・難病)
- ・ 通院にあたり、電車等のれず不便。(30 代女性、精神)
- ・ 親が居なくなったとき、通院や健康診断を受けるとき、付き添いをしてくれる人がいないこと。(19 歳以下男性、知的・発達)
- ・ 精神疾患なので精神的によほど安定してないと病院に行く気力が出ないこと。(男性、精神)
- ・ 10年以上、担当して頂いている先生が遠い(都内)の医院に移動してしまい、通院が大変なこと。(50 代女性、精神)

＜医療機関に関すること＞

- ・ 車椅子で入れる医療機関が近所に少ない。(40 代男性、身体)
- ・ 総合的な医者が近くにいない。(40 代男性、身体)
- ・ リハビリをしてくれる施設が近くにない。(60 代女性、難病)
- ・ 医者、看護師のテクニック不足。(男性、身体・知的・難病)
- ・ 体調が悪くなったときかかりつけ医が休みだった場合、どこでみてもらえば良いのかわからないこと。(20 代女性、難病)

＜医療機関や治療の情報に関すること＞

- ・ 引越しの後の医療機関の情報がわからない。(20代女性、精神)
- ・ 自分に合った病院、薬局を見つけられるか不安。(50代女性、難病)
- ・ 健康診断(市のもの)を受ける時に車椅子と状態を話してやってもらえるかどうかを聞かないとならない。(60代女性、身体)

<症状の改善・悪化に関すること>

- ・ 治療法がないこと。(20代女性、身体・難病)
- ・ 入退院を繰り返していること。安定した状態にならないこと。(40代男性、知的・精神・発達)
- ・ 薬もきちんと飲んでいるのに、どうしても具合が悪くなってしまうので、いつまで続くのか常に不安。(50代女性、精神)
- ・ 処方されている薬の効果が感じられなく、薬の変更がないので不安。(30代男性、精神)
- ・ 難病のためそもそも治療がない。日本での認可がおいていない治療が早く受けられるように。(40代女性、身体・難病)
- ・ 以前手術したところから腹膜が開いて小腸ヘルニアになっているが手術した病院では「再手術しない」と言われて困っている。(50代女性、身体)

<その他>

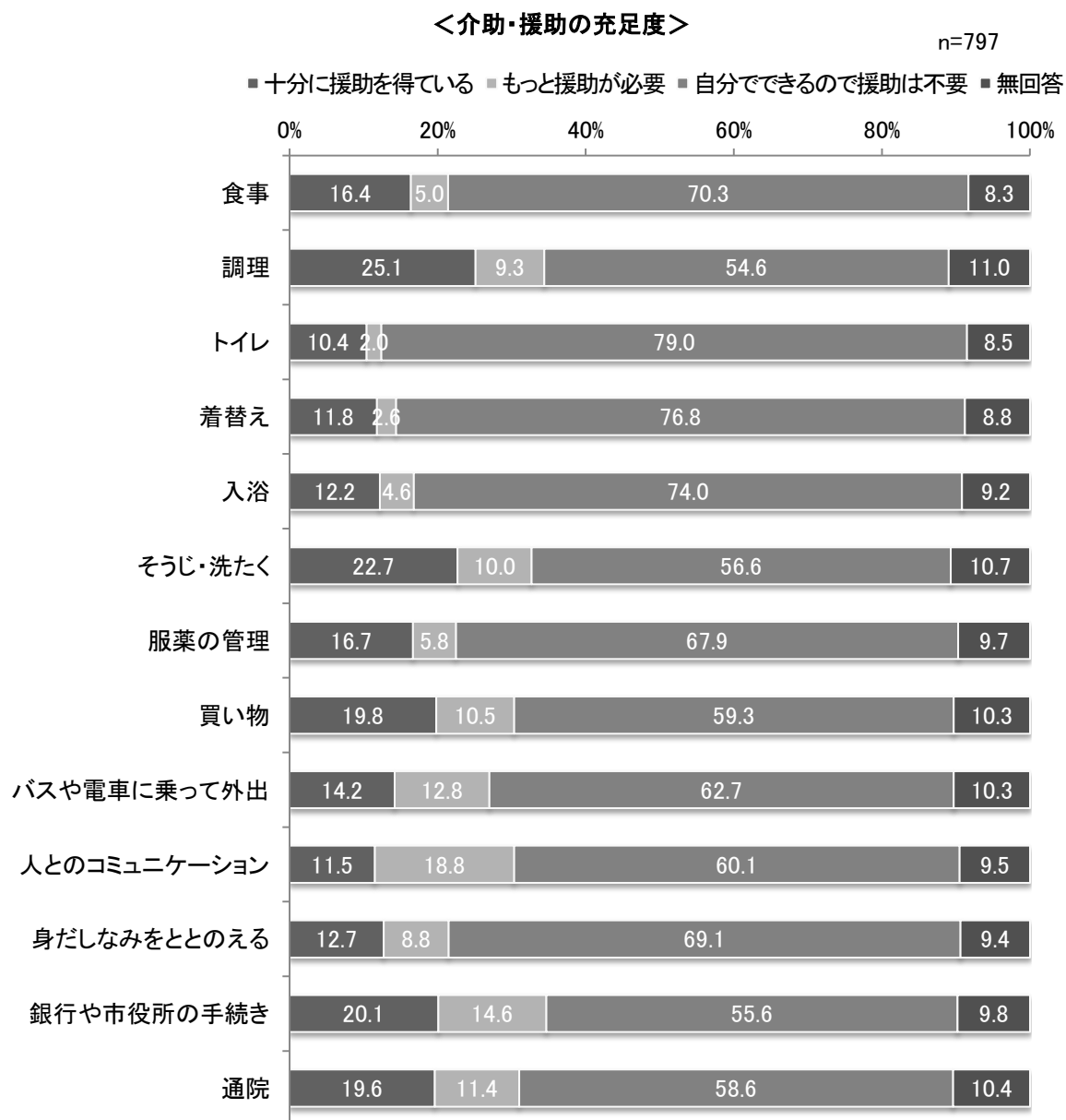
- ・ 科ごとに違う病院にかからなければならず、個人としての情報が散逸してしまうのが困る。それぞれで検査すると、費用と時間のムダを感じる。(40代女性、難病)
- ・ 入院できる期間に期限があり、転々としなくてはならない。(40代男性、身体・高次)
- ・ 緊急入院した時に身の回りのことを頼める人がいない。(60代女性、身体)
- ・ 公立のリワークプログラム説明会を近くで行っていない。(40代女性、精神)
- ・ 交通費の立て替えや書類の提出がどうしてもスムーズにできない。(60代女性、精神)
- ・ 子どもがまだ小さく、一緒に連れて行かなければいけないが、長時間に及ぶこともあり院内に託児サービスがあればいい。(30代女性、難病)
- ・ 気になる症状があっても、生保なので追い目を感じ受診をためらってしまう。(40代女性、精神)

(4) 介助・援助の状況

ア 介助・援助の充足度

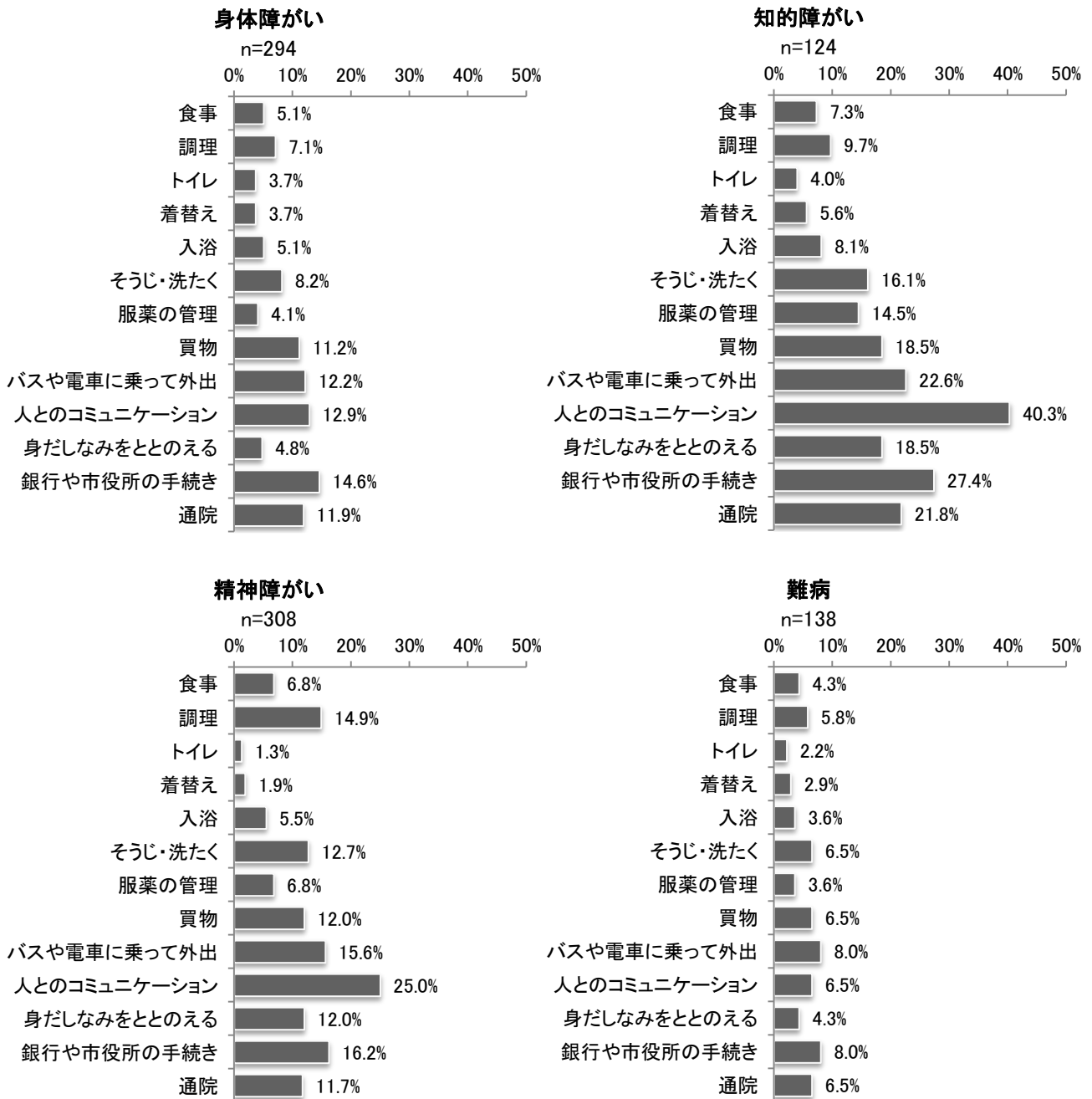
問 14 あなた(あて名の方)は、次の項目について援助を要するときに、まわりの人から十分に援助を得ることができていますか。もっと援助が必要と思いますか。①～⑬のそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

日常生活における介助・援助の充足度をみると、充足度が最も低いのは「人とのコミュニケーション」で、18.8%が「もっと援助が必要」と回答している。



障がいの種類別にみると、知的障がいでは、約4割(40.3%)が「人とのコミュニケーション」について「もっと援助が必要」な状況となっている。

＜介助・援助の充足度 [もっと援助が必要な人の割合] /障がいの種類別＞



「その他、援助が不足していること」としては、具体的に以下のような記入があった。

<その他、援助が不足していること(自由記入)>

<p><日常生活に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庭木の剪定とか。もう少し細めにキレイにしたいが一人ではできない。(40代女性、身体) ・ 生活の様々な面で電話の対応が出来ないこと。(60代女性、身体) ・ 買物も付き添いが必要。(60代男性、精神) ・ 重い物を運ぶとき。(60代女性、身体) ・ だいたい買物は、ネットスーパー等だが、買い忘れのときに困る。(60代女性、難病) ・ 子どもの世話(40代女性、身体・難病) ・ 通学時のつきそい(19歳以下男性、知的・発達) 	8件
<p><金銭的な援助に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お金の援助が欲しい。(20代男性、精神) ・ 金銭的に苦しい。(40代男性、精神・発達) ・ 精神科以外の病院代がはらえなくて通院できないこと。(20代女性、精神) ・ 治療費の負担が大きく、仕事が辞められない。(50代女性、難病) ・ タクシー代と医療費の援助。(50代女性、身体) 	7件
<p><相談・情報入手・コミュニケーションに関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 悩みの相談。(20代男性、知的・発達) ・ 他には入る情報が簡単に入らない。目に見える情報がほしい。(40代女性、身体) ・ 他人とのコミュニケーション(20代男性、精神・高次) ・ うつなので人と話したり、相談がしたい。(60代女性、精神) ・ 昼間1人でいる時の話し相手がいたらよい。(60代男性、精神) ・ 発達障害に対する相談窓口が限られていて、相談がそこのできるのかわかりづらい。(30代男性、精神・発達) 	6件
<p><サービス利用、各種手続きに関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1人で外出できないので、移動支援や通院を増して欲しい。(30代女性、身体) ・ 訪問入浴が4回/月なので、もう少し増えてくれると嬉しい。(20代女性、身体・知的) ・ 毎月援助の必要量が一定ではないが、ガイヘルパーが不足することがある。(40代男性、身体) ・ 労災申請など複雑な手続きの援助。(40代女性、精神) ・ 福祉の手続き、税金申請などしくみが理解できない。(40代男性、精神・発達) 	5件
<p><バリアフリー環境に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 降雪時の道路、歩きにくい。(40代男性、難病) ・ 道路の整備(点字ガイドにそって歩けないことが多い。自転車の駐輪、白杖の無理解。)(40代女性、身体・難病) ・ 足が悪いので公共施設の和式トイレは使えない。(30代男性、身体) 	3件
<p><障がいに対する理解に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兄弟の自分に対する理解がたりない。(30代男性、精神) ・ 公共交通機関を利用するとき、優先座席を利用できないことがある。(50代女性、身体) ・ 「ふつうにする」ためにすごく労力を使っているのに「できる」から「サボるな」と思われる。(40代女性、精神) 	3件
<p><就労に関すること></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労、転職。(40代女性、精神) 	2件

<ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者に対する企業への法的是正、基準の明示。(30代男性、精神) 	
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行動に不安があるので社会でのトラブルを避けるために援助が必要。(50代男性、知的・精神・難病) ・ 急に具合が悪くなったときの対処。(60代男性、精神) 	2件

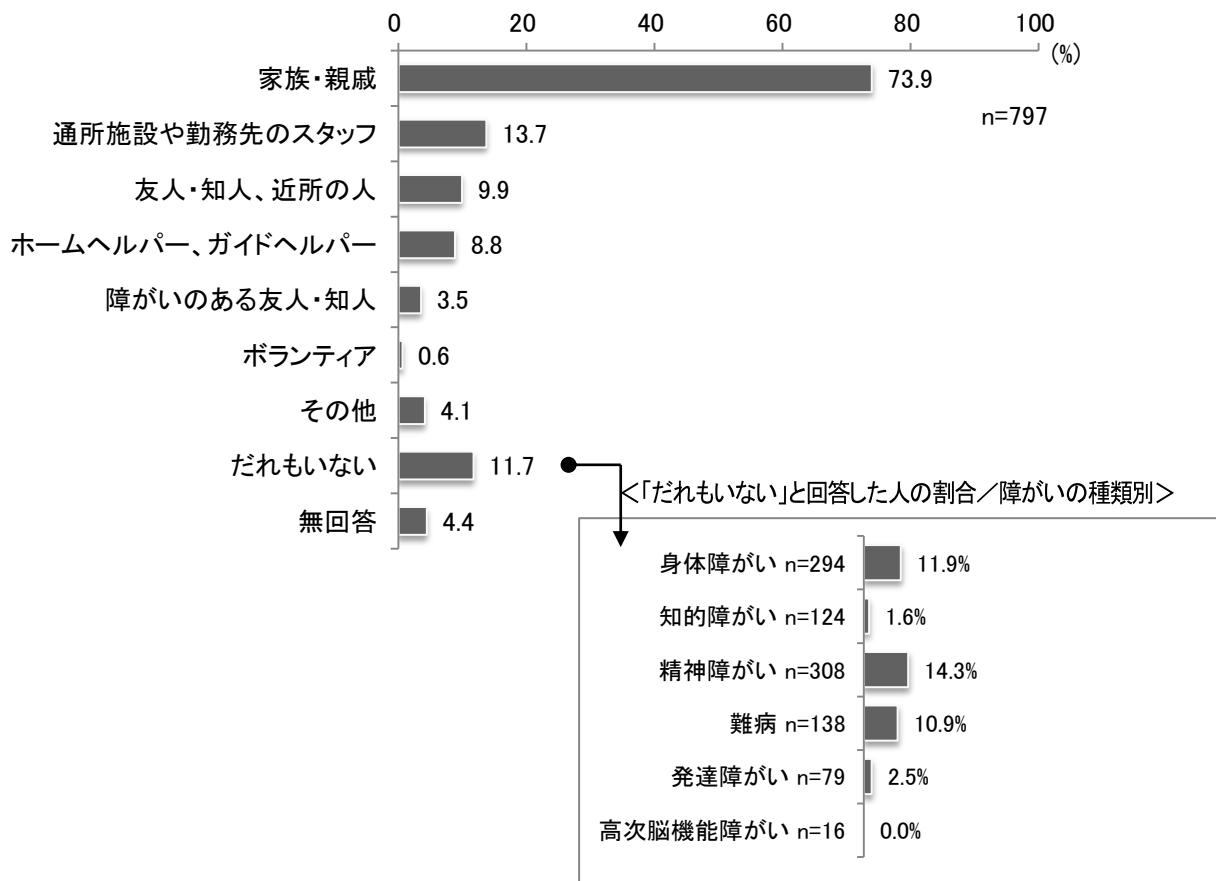
※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

イ 日常生活における介助・援助者

問 15 日常生活で、介助やちょっとした手助けが必要なときに、手助けしてくれる人がいますか。それはだれですか。(〇はいくつでも)

日常生活で介助や手助けをしてくれる人としては、「家族・親戚」をあげる人が73.9%と最も多く、「通所施設や勤務先のスタッフ」が13.7%で続いている。なお、「だれもない」と回答した人が約1割(11.7%)みられる。障がいの種類別にみると、「だれもない」と回答した人の割合は、精神障がい者が14.3%と最も高い。

<日常生活における介助・援助者>



ウ 介助・援助が受けられなくなった経験

問 16 あなた(あて名の方)を主に介助・援助している方の急な病気や外出で、介助・援助が受けられなくなったことがありますか。(○は1つ)

主な介助・援助者の病気や外出等で介助・援助が受けられなくなったことが「ある」人は 14.3%である。障がいの種類別にみると、受けられなかったことが「ある」人の割合は、知的障がいでは 25.0%、発達障がいでは 26.6%と、身体障がいや精神障がいに比べて高くなっている。

＜介助・援助が受けられなくなった経験＞ (%)

		ある	ない	覚えていない・わからない	無回答
対象者全員	n=797	14.3	69.0	9.4	7.3

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=294	16.7	65.6	8.8	8.8
知的障がい	n=124	25.0	61.3	9.7	4.0
精神障がい	n=308	12.3	68.8	12.0	6.8
難病	n=138	11.6	76.1	5.8	6.5
発達障がい	n=79	26.6	59.5	12.7	1.3
高次脳機能障がい	n=16	31.3	56.3	12.5	—
無回答	n=26	15.4	69.2	3.8	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

エ 代わりの介助・援助者

問 16-1 そのとき、代わりに介助・援助してくれる人は見つかりましたか。(○は1つ)

※ 問 16 で「介助・援助を受けられなくなったことがある(選択肢 1)」と回答した人

代わりに介助・援助してくれる人が「いずれも見つからなかった」と回答した人が 28.9%、「見つかったこともあるし、見つからなかったこともある」が 43.9%となっており、合わせると7割を超える人が代わりの介助・援助が見つからなかった経験があることがわかる。

障がいの種類別にみると、精神障がいでは 38 人中 20 人が「いずれも見つからなかった」(52.6%)と回答しており、半数を超えている。

＜代わりの介助・援助者＞ (%)

		いずれのときも見つかった	見つかったこともあるし、見つからなかったこともある	いずれも見つからなかった	覚えていない・わからない	無回答
対象者全員	n=114	24.6	43.9	28.9	1.8	0.9

【障がいの種類別集計】

身体障がい	n=49	34.7	55.1	10.2	—	—
知的障がい	n=31	41.9	35.5	19.4	—	3.2
精神障がい	n=38	13.2	28.9	52.6	5.3	—
難病	n=16	18.8	62.5	12.5	6.3	—
発達障がい	n=21	33.3	33.3	33.3	—	—
高次脳機能障がい	n=5	20.0	40.0	40.0	—	—
無回答	n=4	—	50.0	50.0	—	—

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

オ 代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応

副問 16-2 「見つからなかった(こともある)」とお答えの方におききます。そのときはどのように対応しましたか。差し支えなければ、そのときの状況をお書きください。(自由記入)

※ 問 16 で「介助・援助を受けられなくなったことがある(選択肢 1)」と回答した人

代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応としては、具体的に以下のような記入があった。

<代わりの介助・援助者が見つからなかったときの対応(自由記入)>

<p><一人で何とかした、無理して何とかした、がまんした></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一人で過ごした。我慢した。自分で何とかした。(30 代女性、知的) ・ 介護者の帰宅を待った。自分でできる範囲でやった。(60 代女性、身体) ・ 近くのスーパーなどでお弁当などを買って食べた。自炊はしなかった。(20 代女性、精神) ・ 自分でなんとかした。例えば、天井の蛍光灯が切れて片手でなんとか交換した。(50 代男性、精神) ・ 食事はデリバリーで、他家事はやらなかった。(50 代女性、精神) ・ 自力で頑張った。できないことは次の援助にまわした。(40 代男性、身体) ・ 一人で入院、退院の手続きを行った。 	34 件
<p><予定を変更・断念した></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外出(急な葬式)を断念。(20 代男性、身体・知的) ・ その日処理をすることを止めた。(50 代女性、精神) ・ 自分でタクシーを使い通院した。受診日を変更してもらるか病院に連絡した。(30 代女性、精神・発達) ・ 通院をあきらめ、病院の予約を別日に電話で変えてもらった。(20 代女性、難病) ・ 外出したい時は、キャンセルした。(20 代女性、身体・知的・発達) ・ 送りむかえてもらっているの、作業所を休んだ。(30 代男性、知的・発達) ・ 親がすべての用事をキャンセルした。(20 代男性、身体・知的) 	8 件
<p><医療機関等に頼んだ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 救急車をよんだ。入院した。(50 代女性) ・ てんかんでまったくわからなかったときに救急車を頼んだことが何回かある。(50 代男性、身体・高次) ・ 救急車で病院に処置してもらい、後日、かかりつけ医に通った。(女性、精神) 	7 件
<p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まだコンビニの宅配サービスがないときに、動けないことを伝えて、商品をすぐに配達してもらった。(40 代女性、精神) ・ 市役所の方に相談して、なごみの一時泊り等で過ごした。(40 代男性、知的) 	2 件

※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

(5) 福祉サービスの利用について

ア 福祉サービスの充足度

問 17 あなた(あて名の方)は、現在、必要だと思うサービスを、十分利用できていると思いますか。(○は1つ)

現在、必要だと思うサービスを「十分、利用できていると思う」人は 24.1%、「利用できているが、十分ではないと思う」人は 17.8%、「ほとんど利用できていないと思う」人は 6.5%である。

なお、「現在、サービスは利用していない(必要がない)」、「その他」、「わからない」、「無回答」を除いた対象者でみると、福祉サービスの利用者のうち「十分、利用できていると思う」人は約半数(49.7%)であることがわかる。

＜福祉サービスの充足度＞ (%)

	現在、サービスは利用していない(必要がない)	十分、利用できていると思う	利用できているが、十分ではないと思う	ほとんど利用できていないと思う	その他	わからない	無回答
対象者全員 n=797	34.9	24.1	17.8	6.5	2.0	10.5	4.1

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	37.1	23.5	21.1	3.7	3.1	6.1	5.4
知的障がい n=124	21.8	31.5	25.8	8.1	1.6	8.1	3.2
精神障がい n=308	28.9	26.9	16.9	9.4	1.3	13.0	3.6
難病 n=138	50.7	15.9	11.6	4.3	2.2	13.8	1.4
発達障がい n=79	19.0	35.4	22.8	10.1	2.5	10.1	—
高次脳機能障がい n=16	18.8	37.5	6.3	12.5	18.8	6.3	—
無回答 n=26	30.8	26.9	15.4	3.8	—	11.5	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

「現在、サービスは利用していない(必要がない)」、「その他」、「わからない」、「無回答」を除く	十分、利用できていると思う	利用できているが、十分ではないと思う	ほとんど利用できていないと思う
対象者全員 n=386	49.7	36.8	13.5

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=142	48.6	43.7	7.7
知的障がい n=81	48.1	39.5	12.3
精神障がい n=164	50.6	31.7	17.7
難病 n=44	50.0	36.4	13.6
発達障がい n=54	51.9	33.3	14.8
高次脳機能障がい n=9	66.7	11.1	22.2
無回答 n=12	58.3	33.3	8.3

精神障がいについて、精神障害者保健福祉手帳の所持者と、手帳を所持せずに自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者に分けてみると、自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者では 43.8%が「現在、サービスは利用していない(必要がない)」と回答している。

＜福祉サービスの充足度／精神障がい(手帳のあり・なし別)＞ (%)

	現在、サービスは利用していない(必要がない)	十分、利用できていると思う	利用できているが、十分ではないと思う	ほとんど利用できていないと思う	その他	わからない	無回答
精神障害者保健福祉手帳所持 n=203	21.2	30.5	18.7	12.3	1.5	12.8	3.0
自立支援医療費のみ n=105	43.8	20.0	13.3	3.8	1.0	13.3	4.8

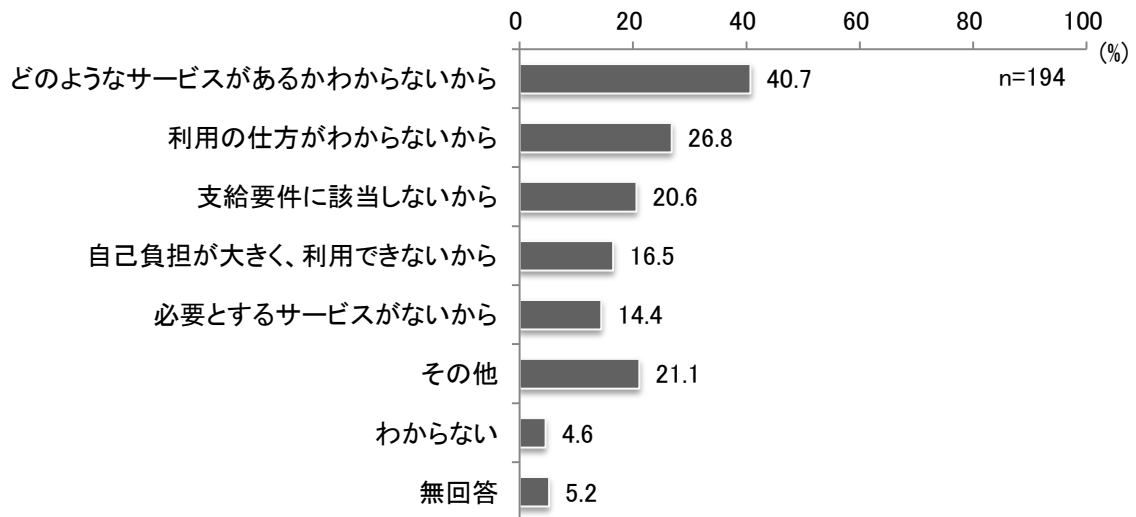
イ 必要なサービスを十分利用できていない理由

副問 17-1 必要だと思うサービスを、十分、利用できていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

※ 問 17 で「十分、利用できていない(選択肢 3,4)」と回答した人

必要なサービスを十分利用できていない理由としては、「どのようなサービスがあるかわからないから」が 40.7%と最も多く、次いで「利用の仕方がわからない」が 26.8%で続いている。

＜必要なサービスを十分利用できていない理由＞



障がいの種類別にみると、精神障がいでは「必要とするサービスがないから」という理由をあげた人の割合が 17.3%と、他の障がいに比べて高くなっている。

＜必要なサービスを十分利用できていない理由／障がいの種類別＞ (%)

	どのようなサービスがあるかわからないから	利用の仕方がわからないから	支給要件に該当しないから	自己負担が大きく、利用できないから	必要とするサービスがないから	その他	わからない	無回答
身体障がい n=73	35.6	19.2	17.8	15.1	9.6	27.4	5.5	2.7
知的障がい n=42	40.5	26.2	11.9	9.5	9.5	28.6	7.1	4.8
精神障がい n=81	45.7	33.3	22.2	18.5	17.3	18.5	3.7	6.2
難病 n=22	31.8	31.8	22.7	31.8	9.1	22.7	4.5	9.1
発達障がい n=26	34.6	26.9	23.1	19.2	15.4	23.1	11.5	3.8
高次脳機能障がい n=3	66.7	66.7	—	33.3	33.3	33.3	—	—
無回答 n=5	60.0	20.0	20.0	—	40.0	—	—	20.0

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

精神障がいについて、精神障害者保健福祉手帳の所持者と、手帳を所持せずに自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者に分けてみると、自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者では、18人中8人(44.4%)が「利用の仕方がわからないから」、7人(38.9%)が「自己負担が大きく、利用できないから」を理由としてあげている。

＜必要なサービスを十分利用できていない理由／精神障がい(手帳のあり・なし別)＞ (%)

		どのようなサービスがあるかわからないから	利用の仕方がわからないから	支給要件に該当しないから	自己負担が大きく、利用できないから	必要とするサービスがないから	その他	わからない	無回答
精神障害者保健福祉手帳所持	n=63	46.0	30.2	22.2	12.7	15.9	19.0	4.8	6.3
自立支援医療費のみ	n=18	44.4	44.4	22.2	38.9	22.2	16.7	—	5.6

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

＜サービス提供基盤の面から＞

- ・ 状態が重く、ショートステイの受入れ先がなかなかない。(60代女性、身体)
- ・ 遠い施設で、電車も利用しなければならず、自力では行くことができない。(40代女性、身体・難病)

＜サービス支給決定量の面から＞

- ・ 支給量が少ない。(40代男性、身体・知的・難病)
- ・ タクシー券が少ない。(50代女性、身体・精神)
- ・ 一番利用したい時期(小学校低学年)に受給者証が、もらえなかった。(19歳以下男性、知的・発達)

＜サービスの質的な面から＞

- ・ いろいろなサービスがあるが質的に向上させたいことも多い。(男性、身体)
- ・ 猫がいるとそうじのヘルパーは頼めないとされた。(50代女性、精神)
- ・ サービス提供者の認識不足。(40代女性、身体)

＜サービスの利用手続きの面から＞

- ・ 申請・手続きがしにくい。(40代女性、身体・難病)
- ・ 事前の予約が必要なので一番必要なときに受けられない。(40代男性、身体)
- ・ 市役所の受付時間と自分の行きたい時間が一致しない。日中は働いているため。(20代女性、身体)
- ・ 利用したいが、市役所が平日しか開いていない。(40代男性、身体)
- ・ 利用するときは至急なので間に合わない。(50代男性、身体)
- ・ 短期入所を申し込んでもなかなか受けてもらえない。(19歳以下女性、知的)
- ・ 休日、通訳者との連絡がとれない。(30代女性、身体)

＜その他＞

- ・ 体調が安定しないから。(30代女性、精神)
- ・ 体調、心調が不安定で一部又は短時間しか利用できていない。(40代男性、知的・精神・発達)
- ・ こだわりが多くサービスを受けられない。(30代女性、知的・発達)
- ・ 家族はデイサービス利用して欲しいが、本人は利用したらない。(60代男性、精神)

ウ 新たに創設されるサービスの利用意向

問 18 あなた(あて名の方)は、次のようなサービスがあったら、利用してみたいと思いますか。①～③のサービスそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

① 地域生活を支援する新たなサービス(自立生活援助)

グループホームなどを利用していた方が、ひとり暮らしを始めたときに、そのお宅を定期的に訪問し、ふだんの生活に何か問題が起きていないかなどを確認し、必要な助言や医療機関などとの連絡調整を行います。

「自立生活援助」については、55.5%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

<[自立生活援助]の利用意向>

(%)

	必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員 n=797	55.5	9.9	22.5	12.2

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	55.8	9.2	22.1	12.9
知的障がい n=124	57.3	3.2	22.6	16.9
精神障がい n=308	53.2	14.0	20.5	12.3
難病 n=138	63.8	7.2	22.5	6.5
発達障がい n=79	62.0	5.1	25.3	7.6
高次脳機能障がい n=16	68.8	12.5	6.3	12.5
無回答 n=26	34.6	7.7	34.6	23.1

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

② 就労定着に向けた支援を行う新たなサービス(就労定着支援)

一般就労した障がいのある方で、環境の変化などにより心身に問題が起きている方に対して、相談を受け必要な助言をしたり、会社や関係機関などとの連絡調整を行います。

「就労定着支援」については、56.2%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

<[就労定着支援]の利用意向>

(%)

	必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員 n=797	56.2	8.8	21.3	13.7

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	55.1	7.8	22.4	14.6
知的障がい n=124	46.8	3.2	27.4	22.6
精神障がい n=308	59.7	10.7	17.5	12.0
難病 n=138	55.8	11.6	21.0	11.6
発達障がい n=79	60.8	5.1	21.5	12.7
高次脳機能障がい n=16	75.0	12.5	12.5	—
無回答 n=26	42.3	11.5	26.9	19.2

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

現在の就労状況別にみると、現在、アルバイト、パート、嘱託、契約社員などで働いている人では、71.3%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

＜[就労定着支援]の利用意向／就労状況別＞ (%)

	必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
会社・団体などの社員・職員 n=154	68.2	8.4	16.9	6.5
アルバイト、パート、嘱託、契約社員など n=143	71.3	4.2	14.0	10.5
作業所などの福祉施設 n=86	51.2	5.8	23.3	19.8
自営業 n=17	52.9	23.5	5.9	17.6
内職など、自宅で仕事 n=8	62.5	12.5	12.5	12.5
家業の手伝い n=14	28.6	21.4	21.4	28.6
その他 n=25	48.0	8.0	20.0	24.0
働いていない n=335	49.0	11.0	26.9	13.1
無回答 n=23	30.4	0.0	17.4	52.2

③ 重度訪問介護の訪問先の拡大

重度の障がいによりホームヘルプを利用している方が、病院に入院したときも、状態をよく知っているヘルパーに引き続き入院先に支援に入ってもらい、ニーズを病院の人に伝えるなどの支援を行います。

「重度訪問介護」については、53.2%が「必要になったら、利用してみたい」と回答している。

障がいの種類別にみると、「必要になったら、利用してみたい」と回答した人の割合は、身体障がいでは58.5%、難病では64.5%である。

＜[重度訪問介護の訪問先の拡大]の利用意向＞ (%)

	必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
対象者全員 n=797	53.2	7.0	25.2	14.6

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	58.5	6.5	22.4	12.6
知的障がい n=124	48.4	2.4	27.4	21.8
精神障がい n=308	50.0	9.4	25.6	14.9
難病 n=138	64.5	7.2	21.0	7.2
発達障がい n=79	55.7	3.8	30.4	10.1
高次脳機能障がい n=16	56.3	12.5	25.0	6.3
無回答 n=26	34.6	7.7	26.9	30.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

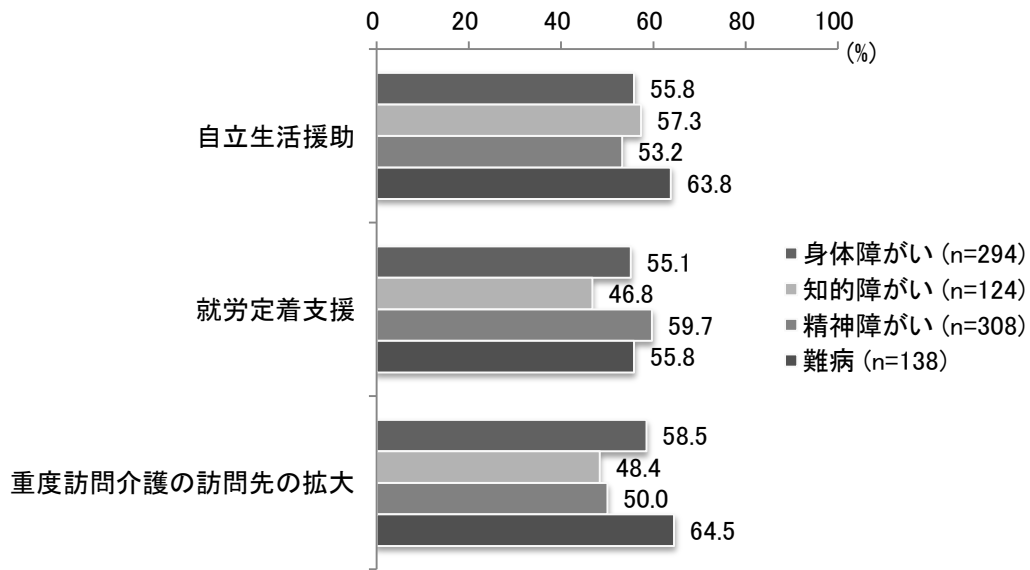
身体障がいと知的障がいの重複者(身体障害者手帳と療育手帳の両方を所持している者)についてみると、23人中16人(69.6%)が「必要になったら、利用してみたい」と回答しており、「利用したくない」と回答した者はいなかった。

＜[重度訪問介護の訪問先の拡大]の利用意向／身体障がいと知的障がいの重複者＞ (%)

	必要になったら、 利用してみたい	利用したくない	わからない	無回答
身体・知的障がい[重複] n=23	69.6	—	17.4	13.0

<新たに創設される3つサービスの利用意向(障がいの種類別整理)>

～「必要になったら、利用してみたい」と回答した人の割合～

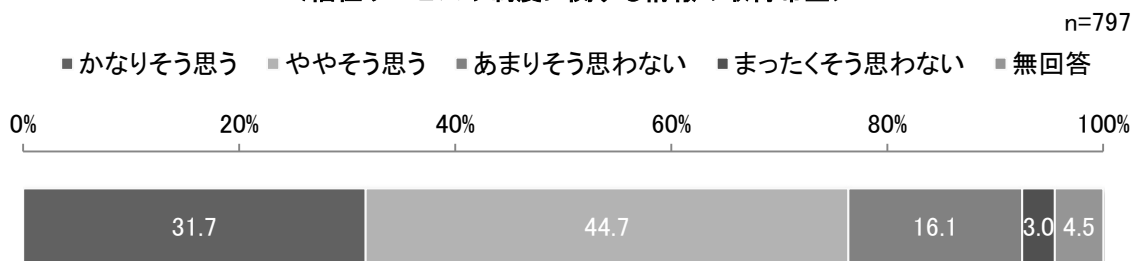


エ 福祉サービスや制度に関する情報の取得希望

問 19 障がい福祉サービスや制度について、もっと知りたいと思いますか。(〇は1つ)

障がい福祉サービスや制度についてもっと知りたいと思うかと尋ねたところ、31.7%が「かなりそう思う」、44.7%が「ややそう思う」と回答しており、合わせると7割を超える人がさらに情報の取得を希望していることがわかる。

＜福祉サービスや制度に関する情報の取得希望＞



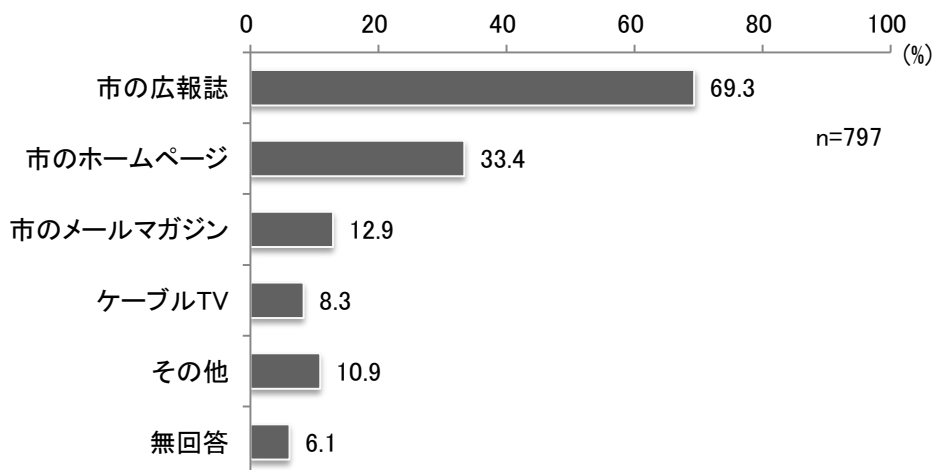
オ 便利だと思う情報取得方法

問 20 市から障がい福祉サービスや制度についての情報をお知らせする手段として、どれが便利ですか。(〇はいくつでも)

便利だと思う情報取得方法は、「市の広報誌」をあげる人が 69.3%と最も多く、次いで「市のホームページ」が 33.4%で続いている。

「その他」としては、具体的に「(個人的に)郵送」、「ダイレクトメール」、「アプリ」、「対面(直接)」、「病院経由」、「冊子の配布」などの記入があった。

＜便利だと思う情報取得方法＞



参考：「要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査」の結果から

調査概要

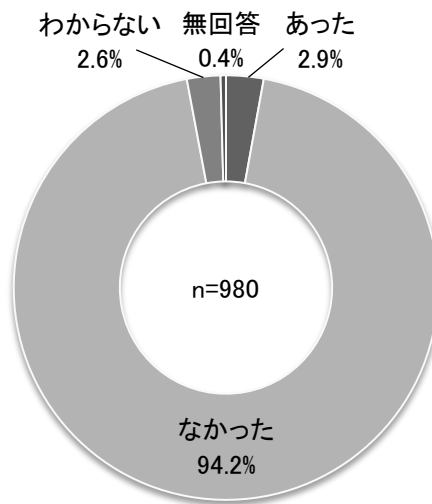
調査目的：高齢者計画・第七期介護保険事業計画(平成30年度～32年度)策定に向けて、要支援・要介護認定者及び介護者の意見や実態を把握するため。
 調査対象：要支援及び要介護認定者 約1,400人
 調査時期：平成28年9月～11月
 調査方法：訪問面接調査

「要支援・要介護認定者と介護者の生活と福祉に関する実態調査」では、65歳になるまでの障がい福祉サービス利用経験と、65歳以降のサービス利用について質問をしており、その結果を紹介する。

問 65歳になるまでに、障がい福祉サービスを利用したことがありましたか。障がい福祉サービスとは、三鷹市の障がい者支援課に申請して利用する介護や就労支援などのサービスです。

対象者980人のうち、65歳になるまでに障がい福祉サービスを利用したことがある人は28人(2.9%)である。

<65歳になるまでの障がい福祉サービス利用状況>



問 65歳以降、サービス利用に関して、次のような問題がありましたか。

65歳以降に、「使いたいサービスや施設が利用できなくなった」人は28人中2人(7.1%)、「利用回数や利用時間を減らさざるを得なくなった」人は4人(14.3%)、「障がい特性を理解した対応が受けられなくなった」人は2人(7.1%)、「経済的な負担が増えた」人は7人(25.0%)、「家族の負担が増えた」人は8人(28.6%)である。

<サービス利用の際の問題点の有無>

		あった	なかった	わからない
a 使いたいサービスや施設が利用できなくなった	n=28	2 (7.1%)	23 (82.1%)	3 (10.7%)
b 利用回数や利用時間を減らさざるを得なくなった	n=28	4 (14.3%)	22 (78.6%)	2 (7.1%)
c 障がい特性を理解した対応が受けられなくなった	n=28	2 (7.1%)	22 (78.6%)	4 (14.3%)
d 経済的な負担が増えた	n=28	7 (25.0%)	19 (67.9%)	2 (7.1%)
e 家族の負担が増えた	n=28	8 (28.6%)	18 (64.3%)	2 (7.1%)

その他の問題点としては、具体的に、「介護保険をもっと使えたらよい」、「65歳になる前は障害福祉サービスが使えたが65歳になると介護保険に切り替わるので「これからはケアマネジャーのいる介護施設にお願いして下さい」とホームの人に言われた」、「今まではお風呂の介護サービス(障害者向け)も受けられていたのに今は受けられない」などの記入があった。

(6) 就労について

ア 就労状況

問 21 あなた(あて名の方)は、現在、収入のある仕事をしていますか。(○はいくつでも)

現在、「会社・団体などの社員・職員として働いている」人は19.3%、「アルバイト、パート、嘱託、契約社員などで働いている」人は17.9%で、42.0%は「働いていない」状況である。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは36.3%が「作業所などの福祉施設で働いている」状況である。

＜就労状況＞ (%)

	会社・団体などの社員・職員として働いている	アルバイト、パート、嘱託、契約社員などで働いている	作業所などの福祉施設で働いている	自営業をして働いている	内職など、自宅で仕事をしている	家業の手伝いをしている	その他	働いていない	無回答
対象者全員 n=797	19.3	17.9	10.8	2.1	1.0	1.8	3.1	42.0	2.9

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	会社・団体などの社員・職員として働いている	アルバイト、パート、嘱託、契約社員などで働いている	作業所などの福祉施設で働いている	自営業をして働いている	内職など、自宅で仕事をしている	家業の手伝いをしている	その他	働いていない	無回答
身体障がい	n=294	27.9	13.9	5.8	3.7	1.7	1.7	2.0	40.8	4.1
知的障がい	n=124	8.1	15.3	36.3	—	—	1.6	5.6	29.8	3.2
精神障がい	n=308	12.7	17.9	11.0	1.9	1.0	1.6	3.6	49.4	2.3
難病	n=138	23.9	24.6	0.7	1.4	0.7	0.7	—	47.1	0.7
発達障がい	n=79	8.9	21.5	29.1	—	—	—	7.6	30.4	2.5
高次脳機能障がい	n=16	12.5	18.8	6.3	—	—	—	12.5	50.0	—
無回答	n=26	3.8	15.4	3.8	—	—	7.7	7.7	46.2	15.4

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 就労意向

副問 21-1 収入のある仕事につくことを希望していますか。(○は1つ)

※ 問 21 で「働いていない(選択肢 8)」と回答した人

現在働いていない人のうち、51.0%の人は今後働くことを「ときに希望がしていない」が、14.9%は「現在、仕事を探したり、開業の準備をしている」、26.0%は「希望しているが、仕事を探している」状況であり、合わせると約4割の人には就労希望があることがわかる。

年齢別にみると、「現在、仕事を探したり、開業の準備をしている」人の割合は、20代では27.6%、30代では23.5%となっている。

＜就労意向／年齢別＞ (%)

	現在、仕事を探したり、開業の準備をしている	希望しているが、仕事を探していない	とくに希望はしていない	無回答
対象者全員 n=335	14.9	26.0	51.0	8.1
19歳以下 n=7	28.6	14.3	28.6	28.6
20代 n=29	27.6	20.7	41.4	10.3
30代 n=51	23.5	35.3	37.3	3.9
40代 n=81	13.6	30.9	43.2	12.3
50代 n=83	14.5	24.1	56.6	4.8
60歳以上 n=74	4.1	17.6	73.0	5.4
無回答 n=10	20.0	40.0	20.0	20.0

ウ 仕事の頻度

副問 21-2 どのくらいの頻度で収入のある仕事をしていますか。(○は1つ)

※ 問 21 で「働いている(選択肢 1~7)」と回答した人

仕事の頻度としては、「週4日以上」が 65.8%を占めている。

仕事の種類別にみると、会社・団体などの社員・職員では「週4日以上」が 83.1%だが、作業所などの福祉施設では「週4日以上」は 62.8%で、「週2~3回」が約2割(19.8%)を占めている。

＜仕事の頻度／仕事の種類別＞

(%)

		週4日以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	無回答
対象者全員	n=439	65.8	14.4	1.1	3.2	1.1	14.4
会社・団体などの社員・職員	n=154	83.1	3.9	—	3.2	—	9.7
アルバイト、パート、嘱託、契約社員など	n=143	66.4	23.1	2.1	2.1	2.1	4.2
作業所などの福祉施設	n=86	62.8	19.8	2.3	1.2	0.0	14.0
自営業	n=17	52.9	29.4	—	—	5.9	11.8
内職など、自宅で仕事	n=8	12.5	12.5	12.5	37.5	12.5	12.5
家業の手伝い	n=14	14.3	7.1	—	—	—	78.6
その他	n=25	20.0	4.0	—	8.0	—	68.0

エ 仕事の満足度

副問 21-3 あなた(あて名の方)は、現在の仕事について、どの程度満足していますか。以下の項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。複数の仕事をされている場合は、主な仕事1つについてご回答ください。(○は①~④のそれぞれに1つずつ)

※ 問 21 で「働いている(選択肢 1~7)」と回答した人

[仕事の内容]に関する満足度は、「満足している」が 36.2%、「どちらかといえば満足している」が 38.5%となっており、合わせると7割を超える人がほぼ現状に満足している状況がうかがえる。

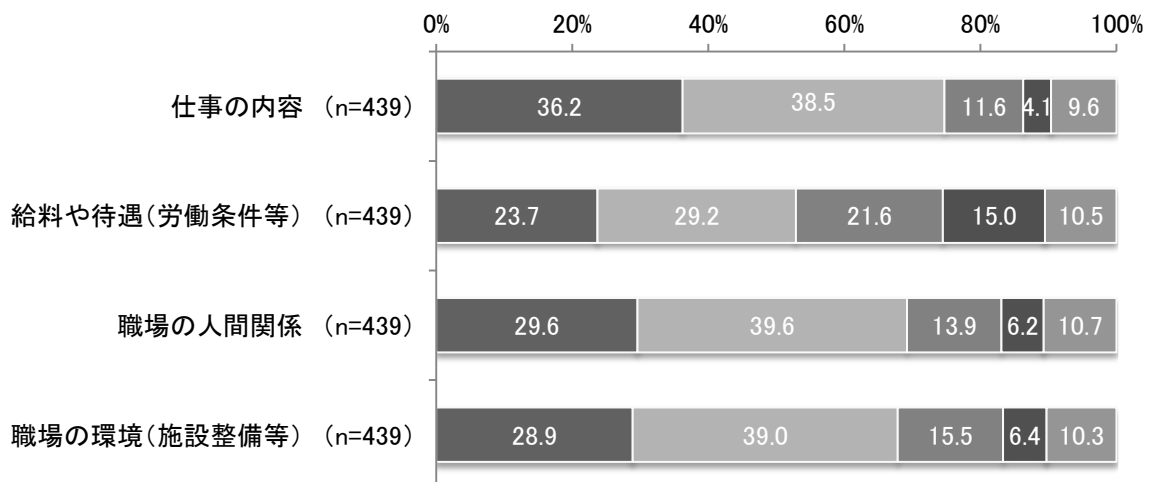
[給料や待遇(労働条件等)]に関する満足度は、「満足している」が 23.7%、「どちらかといえば満足している」が 29.2%となっており、合わせると5割を超える人がほぼ現状に満足している状況がうかがえる。

[職場の人間関係]に関する満足度は、「満足している」が 29.6%、「どちらかといえば満足している」が 39.6%となっており、合わせると約7割の人がほぼ現状に満足している状況がうかがえる。

[職場の環境(施設整備等)]に関する満足度は、「満足している」が 28.9%、「どちらかといえば満足している」が 39.0%となっており、合わせると約7割の人がほぼ現状に満足している状況がうかがえる。

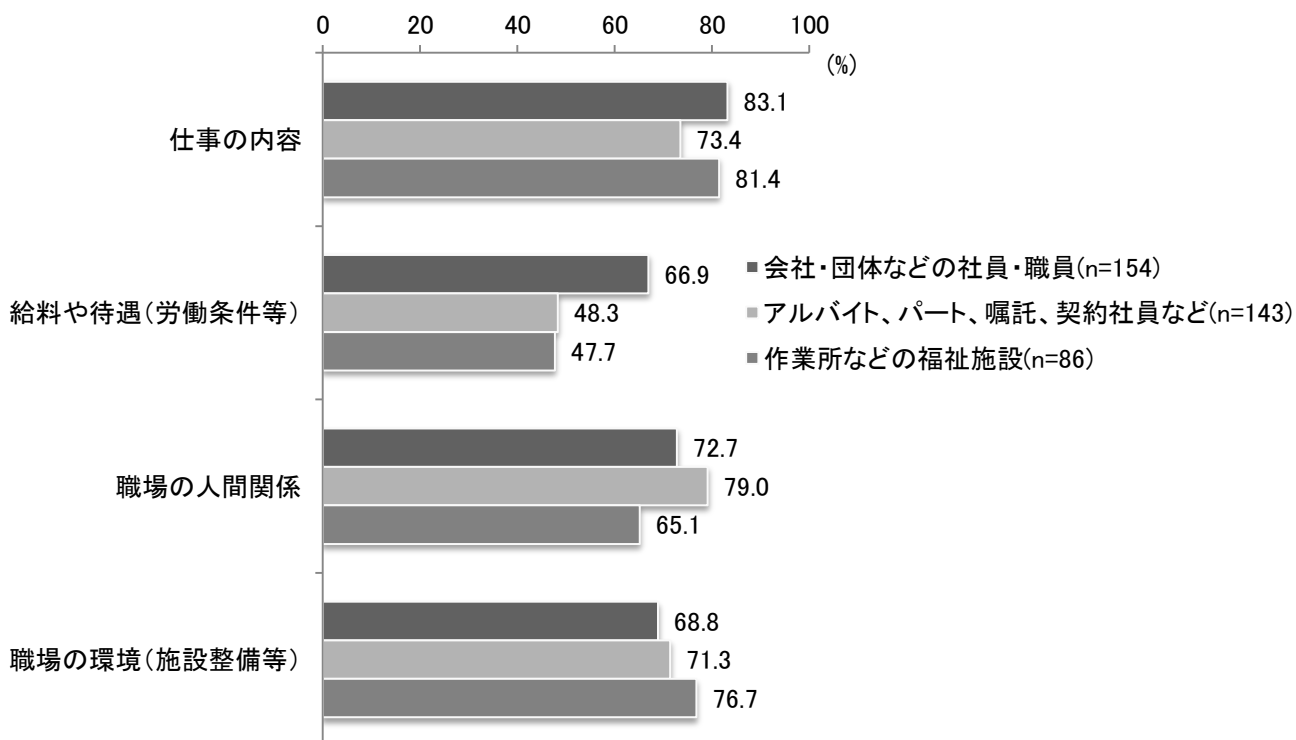
＜仕事の満足度＞

■ 満足している ■ どちらかといえば満足している ■ どちらかといえば不満足である ■ 不満足である ■ 無回答



「会社・団体などの社員・職員」、「アルバイト、パート、嘱託、契約社員など」、「作業所などの福祉施設」について仕事の満足度を比較してみると、[給料や待遇(労働条件等)]では「会社・団体などの社員・職員」の満足度が最も高いが、[職場の環境(施設整備等)]では「作業所などの福祉施設」の満足度が最も高いことがわかる。

＜「満足している」または「どちらかといえば満足している」人の割合／仕事の種類別＞



オ 就労継続意向

副問 21-4 あなた(あて名の方)は、現在の仕事を今後も続けたいと思いますか。(○は1つ)
 ※ 問 21 で「働いている(選択肢 1~7)」と回答した人

今後も「現在の仕事を続けたい」と考えている人が 55.8%であり、「現在の仕事とは別の仕事をしたい」と回答した人は 11.8%である。

仕事の種類別にみると、作業所などの福祉施設で働いている人のうち約6割は「現在の仕事を続けたい」(59.3%)と考えているが、約1割は「現在の仕事とは別の仕事をしたい」(11.6%)と回答している。

＜就労継続意向／仕事の種類別＞ (%)

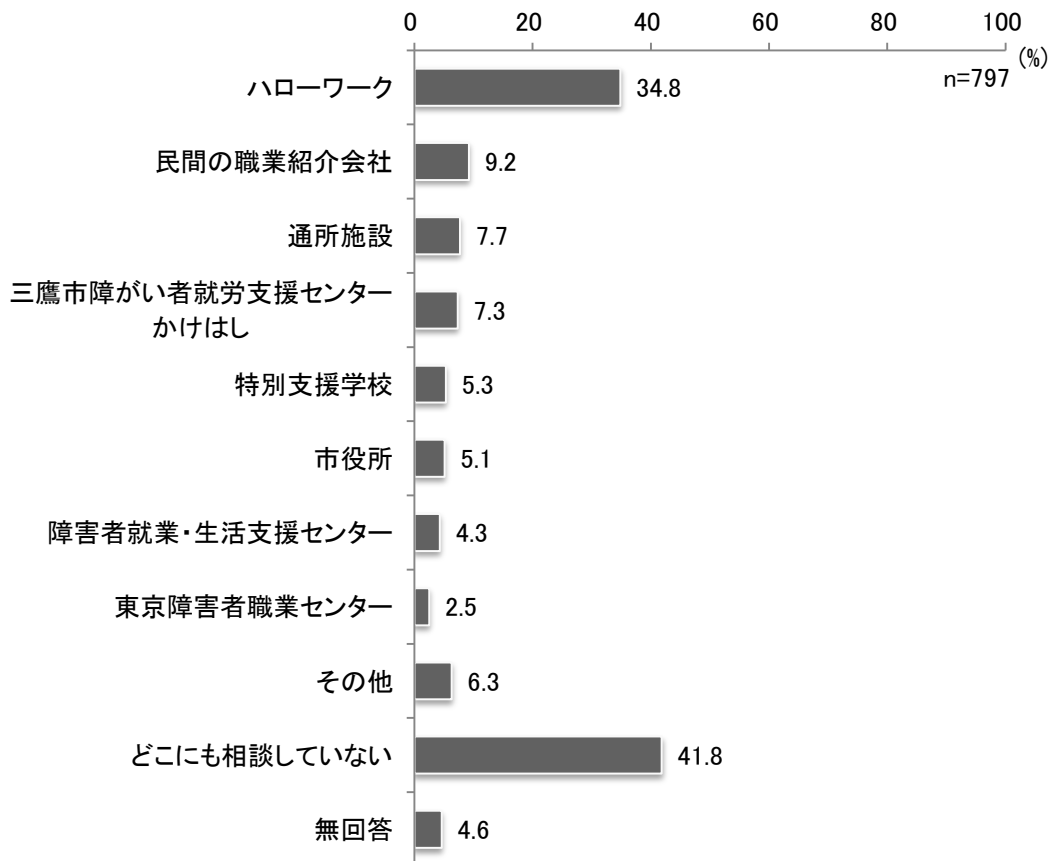
	現在の仕事を続けたい	現在の仕事とは別の仕事をしたい	わからない	その他	無回答
対象者全員 n=439	55.8	11.8	21.0	3.6	7.7
会社・団体などの社員・職員 n=154	58.4	9.1	24.7	3.9	3.9
アルバイト、パート、嘱託、契約社員など n=143	59.4	16.8	18.9	2.8	2.1
作業所などの福祉施設 n=86	59.3	11.6	19.8	5.8	3.5
自営業 n=17	82.4	—	—	5.9	11.8
内職など、自宅で仕事 n=8	50.0	12.5	25.0	—	12.5
家業の手伝い n=14	21.4	7.1	14.3	—	57.1
その他 n=25	16.0	8.0	24.0	4.0	48.0

カ 就労に関する相談場所

問 22 あなた(あて名の方)は、就労に関して、以下のところに相談したり、支援を受けたことがありますか。
(○はいくつでも)

就労に関する相談を受けたところとしては、「ハローワーク」をあげる人が 34.8%と最も多く、次いで「民間の職業紹介会社」(9.2%)、「通所施設」(7.7%)、「三鷹市障がい者就労支援センター」(7.3%)と続いている。

<就労に関する相談場所>

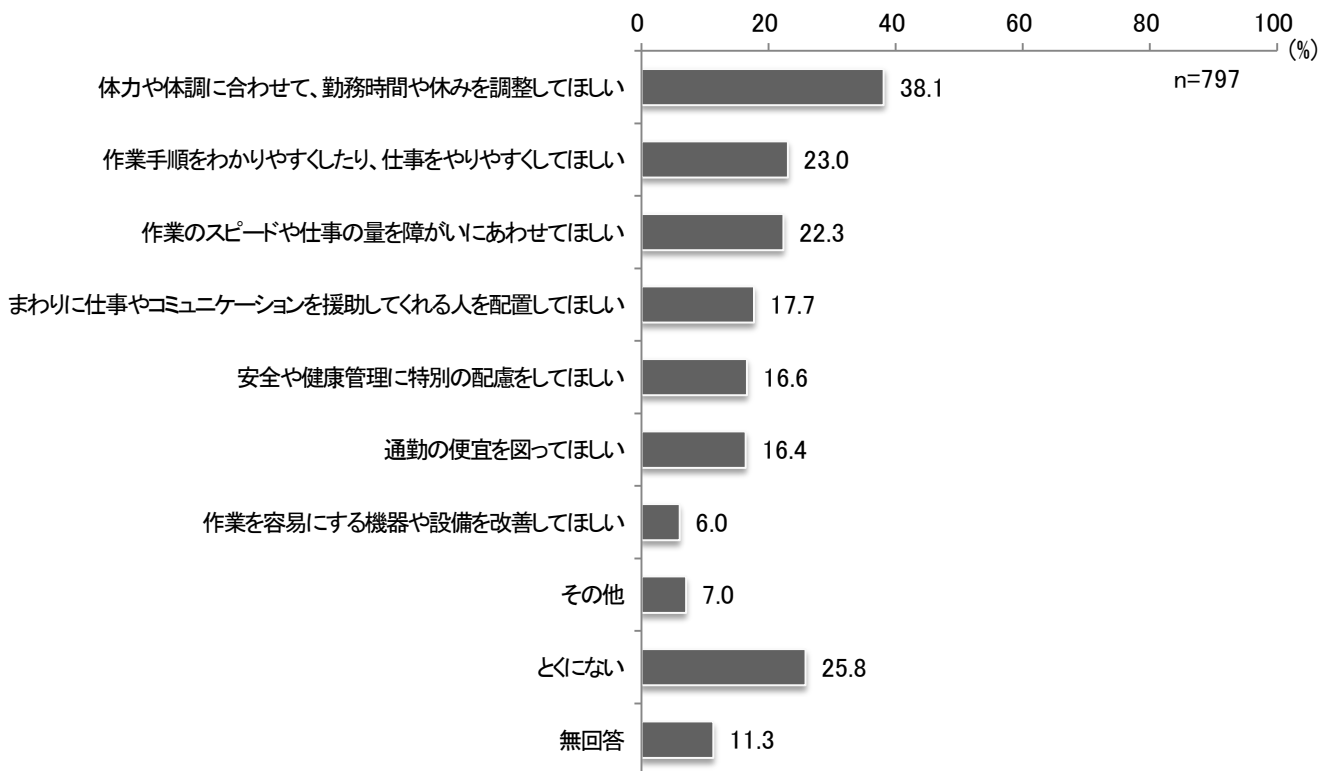


キ 会社や職場に配慮してほしいこと

問 23 あなた(あて名の方)が働きつづけるために、会社や職場にどのような配慮をしてほしいと思いますか。
(〇はいくつでも)

会社や職場に配慮してほしいこととしては、「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整してほしい」が 38.1%と最も多く、次いで「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくしてほしい」(23.0%)、「作業のスピードや仕事の量を障がいにあわせてほしい」(22.3%)と続いている。

<会社や職場に配慮してほしいこと>



障がいの種類別にみると、知的障がいでは「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくしてほしい」が47.6%と最も多く、次いで「作業のスピードや仕事の量を障がいにあわせてほしい」(33.1%)、「まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置してほしい」(32.3%)と続いている。

＜会社や職場に配慮してほしいこと／障がいの種類別＞

(%)

		体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整してほしい	作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくしてほしい	作業のスピードや仕事の量を障がいにあわせてほしい	まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置してほしい	安全や健康管理に特別の配慮をしてほしい
身体障がい	n=294	33.3	14.6	19.0	15.3	15.3
知的障がい	n=124	25.8	47.6	33.1	32.3	21.0
精神障がい	n=308	43.5	28.6	26.9	21.4	19.8
難病	n=138	44.2	8.7	9.4	3.6	10.1
発達障がい	n=79	36.7	54.4	46.8	38.0	29.1
高次脳機能障がい	n=16	25.0	50.0	56.3	31.3	25.0
無回答	n=26	30.8	11.5	11.5	7.7	11.5

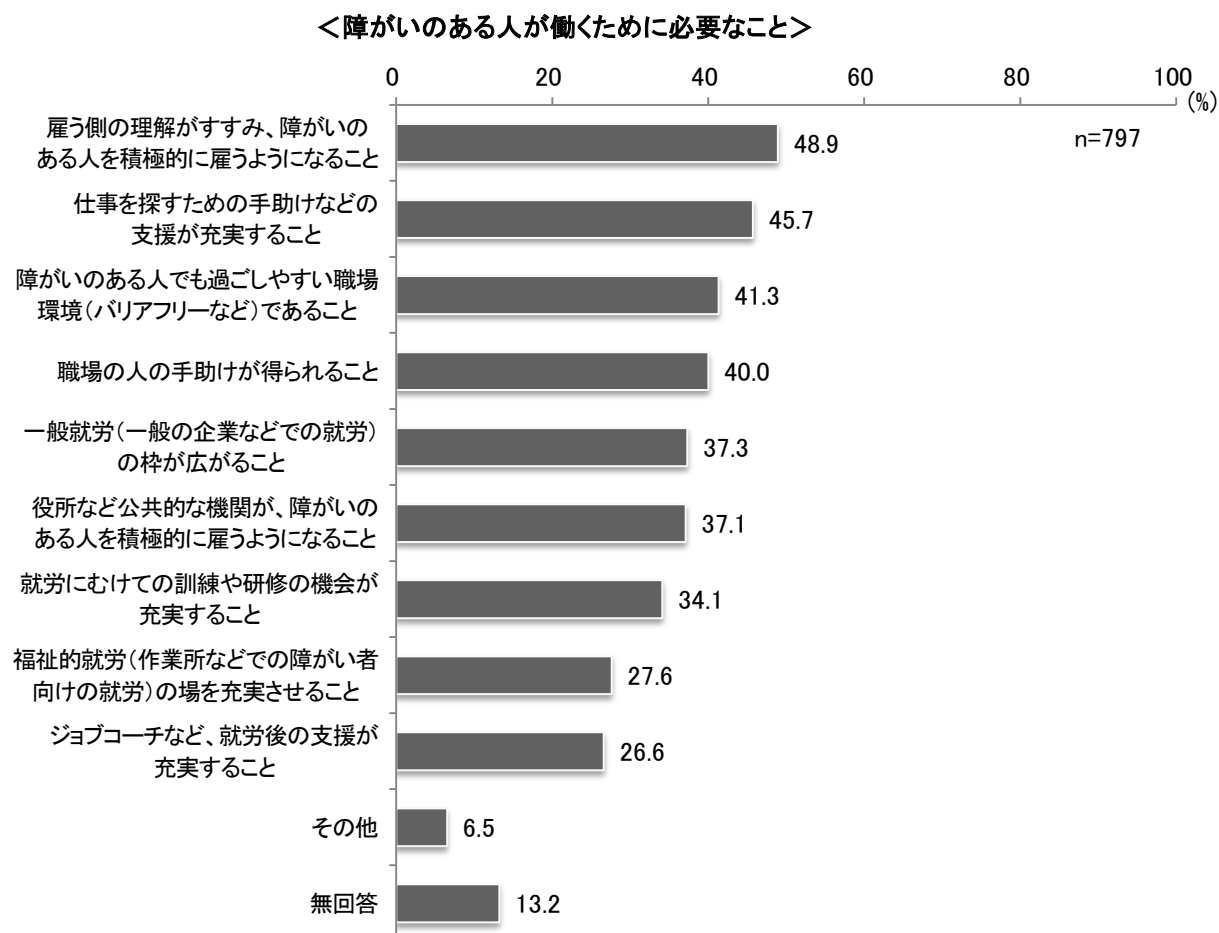
		通勤の便宜を図ってほしい	作業を容易にする機器や設備を改善してほしい	その他	とくにない	無回答
身体障がい	n=294	19.4	8.2	6.8	30.6	12.6
知的障がい	n=124	8.9	8.1	5.6	16.9	12.1
精神障がい	n=308	18.8	4.9	7.5	20.1	12.3
難病	n=138	10.9	2.2	5.8	35.5	8.0
発達障がい	n=79	13.9	12.7	8.9	6.3	7.6
高次脳機能障がい	n=16	25.0	12.5	18.8	25.0	6.3
無回答	n=26	3.8	3.8	7.7	23.1	30.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ク 障がいのある人が働くために必要なこと

問 24 障がいのある人が働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

障がいのある人が働くために必要なこととしては、「雇う側の理解がすすみ、障がいのある人を積極的に雇うようになること」が 48.9%と最も多く、次いで「仕事を探すための手助けなどの支援が充実すること」(45.7%)、「障がいのある人でも過ごしやすい職場環境(バリアフリーなど)であること」(41.3%)と続いている。



障がいの種類別にみると、知的障がいでは「職場の人の手助けが得られること」が 51.6%と最も多い。発達障がいと診断された人についてみると、「職場の人の手助けが得られること」が必要と回答した人は約7割(68.4%)にのぼる。

＜障がいのある人が働くために必要なこと／障がいの種類別＞

(%)

		雇う側の理解がすすみ、障がいのある人を積極的に雇うようになること	仕事を探すための手助けなどの支援が充実すること	障がいのある人でも過ごしやすい職場環境(バリアフリーなど)であること	職場の人の手助けが得られること	一般就労(一般の企業などでの就労)の枠が広がること	市役所など公共的な機関が、障がいのある人を積極的に雇うようになること
身体障がい	n=294	47.6	46.9	47.6	35.0	41.2	38.1
知的障がい	n=124	44.4	42.7	38.7	51.6	29.0	34.7
精神障がい	n=308	49.4	47.4	33.1	39.6	37.0	34.7
難病	n=138	53.6	45.7	48.6	39.9	35.5	39.1
発達障がい	n=79	64.6	68.4	58.2	68.4	51.9	49.4
高次脳機能障がい	n=16	50.0	68.8	56.3	56.3	68.8	56.3
無回答	n=26	26.9	23.1	34.6	26.9	19.2	19.2

		就労にむけての訓練や研修の機会が充実すること	福祉的就労(作業所などでの障がい者向けの就労)の場を充実させること	ジョブコーチなど、就労後の支援が充実すること	その他	無回答
身体障がい	n=294	31.6	20.1	23.5	5.8	14.3
知的障がい	n=124	31.5	52.4	36.3	4.0	12.1
精神障がい	n=308	34.7	28.2	30.5	9.4	13.6
難病	n=138	37.0	27.5	21.7	7.2	12.3
発達障がい	n=79	44.3	53.2	50.6	7.6	3.8
高次脳機能障がい	n=16	68.8	43.8	56.3	—	6.3
無回答	n=26	34.6	11.5	3.8	—	30.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ク 自主製品に関するアイデア等

問 25 三鷹市では、工賃アップを図るため、駅前にアンテナショップ(星と風のカフェ)を設けるなど、障がい者就労施設等の自主製品などの販売を進めています。今後、さらに販売を増やしていくには、どのような自主製品があればよいと思いますか。「こういうものを作ったら売れるだろうな」というアイデアがあれば自由にお書きください。(自由記入)

障がい者就労支援施設等の自主製品の販売を今後、さらに増やしていくためのアイデア等としては、具体的に以下のような記入があった。

<自主製品に関するアイデア等(自由記入)>

<p><食品></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パン(作りたて、焼き立て) ・ 三鷹産の卵を使ったパン、プリン ・ 三鷹で作られた食材を使用して調理されたもの ・ 地元の野菜や果物を使ったジャムなど ・ 食品であれば「添加物なし」「国産素材」など ・ キウイワイン、キウイジャム、キウイを使ったデザートパン ・ あたためずに食べられるスープカレー ・ 日々の食事の副食物(惣菜、おにぎり、ミニ弁当、パン類など) ・ おむすびとジュース、カレーライスとサンドイッチ ・ イートインコーナーでCoffeeやパンケーキ、軽食 ・ クラフトビール 	17 件
<p><お菓子・デザート></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ スイーツ、クッキー、ケーキ ・ ジブリとタイアップしたケーキ、菓子、 ・ ドーナッツやクッキー、パウンドケーキ ・ 季節感があふれるお菓子 	12 件
<p><野菜・花></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ とれたて野菜 ・ めずらしい野菜、ハーブ ・ ポット苗 ・ 地元産の無農薬野菜 ・ 花や野菜 ・ 生花 ・ 無農薬の有機野菜 ・ 農作物 	8 件
<p><日用品、文房具、雑貨等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日用品、文房具、 ・ 雨がっぱ ・ 袖口カバー布地orビニール ・ コースター、テーブルクロス ・ 箸置き、御守り、お箸 ・ 花のアレンジメント ・ 革小物(ペンケースや名刺入れなど) ・ コースター・写真立て ・ くつみがき、エチケットブランなど ・ 自転車のカバー(防犯用) ・ 季節の品物(木のXmasツリーなど) ・ 雑貨など(かわいい物)、観用植物など ・ タオル加工 ・ 人・動物のフィギア、絵皿 	17 件
<p><アクセサリ、手芸品等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アクセサリや雑貨 ・ 「運気UP」といったパワーのある石などを加工して、身につけるもの ・ オーダーメイドのパワーストーン ・ 雑貨(ビーズやレジン等を使った)アクセサリ ・ 若い人むけデザインかわいい安いアクセサリ、 ・ クロスステッチ等の手芸物、手芸品 	10 件

<p>＜服・バッグ等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 衣服、Tシャツ ・ 洋服ブランドの立ち上げ ・ 小物、ポーチ、トートバッグ ・ ニット製品(帽子やマフラーセーター) ・ エコバッグ 	9 件
<p>＜美術品、工芸品＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絵、イラスト、アート ・ ジブリとの連携商品、コラボした限定品 ・ ジュエリー 	7 件
<p>＜化粧品、石けん、アロマ等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 無添加の化粧品(ハンドクリームとか化粧水など) ・ ロウソク、アロマ関係のものや雑貨など ・ 身体や顔も洗えるせっけん、手の荒れない石けん ・ 果物の香りの入浴剤 ・ 三鷹産のハーブを栽培して、それを利用した商品を作る。石けん、ハーブティー等 	6 件
<p>＜子ども用の衣類、おもちゃ等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供用の衣類、おもちゃ、ぬいぐるみ等 ・ 小学校、幼稚園、保育園を対象とした子どもの遊具かざり物、運動具、そうじ具など ・ デザイン性の高いベビー用品 	5 件
<p>＜スマートフォン関連品＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オリジナルデザインのスマホケース、または軽い七宝のケース ・ スマホカバーとかケース、キャラクターグッズなど 	5 件
<p>＜障がい者・高齢者向けの製品等＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害者手帳のサイズにあう手帳カバー ・ 障がい者交流を目的としたSNSアプリ ・ 電車、バス持ち運べるような車いす ・ 血栓をふせぐためのグッズ ・ 公設窓口にある、筆談のプレート ・ 携帯アプリ(障害に必要なサービスが提供されている所がGPSでわかるなど) ・ ADHDの人が忘れものや片付けのために使えるもちもの(ポーチやかばんなど) ・ 高齢者用便利でおしゃれなステッキ 	8 件
<p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手作りの心のこもったもの ・ 時代に合った若い方達にも受け入れてもらえるもの ・ かわいい星風マークがついたもの ・ 各人の職歴を活かしたアウトプットの選択肢 ・ 市役所発行の専用商品券やポイント制度の導入 ・ スマホアプリ ・ Lineスタンプ ・ 手作りパソコン ・ 障がい者の自伝本 ・ 製品などなくサービスの提供 	10 件

※ ひとりの記入内容で複数の内容が含まれている場合には、それぞれにカウント

(7) 収入について

ア 主な収入

問 26 現在、あなた(あて名の方)の主な収入はどれですか。(○は1つ)

主な収入は、「給与」が 38.0%と最も多く、次いで「年金」が 21.7%で続いている。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは「工賃」が 24.2%と他の障がいに比べて高く、精神障がいでは「生活保護」が 13.3%と他の障がいに比べて高い。また、主な収入は「とくにない」と回答した人が、難病では 18.1%、精神障がいでは 14.9%とそれぞれ1割以上みられる。

＜主な収入＞ (%)

	給与	工賃	事業収入	財産収入	年金	福祉手当	生活保護	その他	とくにない	無回答
対象者全員 n=797	38.0	6.9	1.0	0.5	21.7	4.3	8.3	2.8	12.0	4.5

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	44.6	3.7	1.0	0.7	25.9	5.8	5.1	2.0	7.5	3.7
知的障がい n=124	29.0	24.2	—	—	27.4	7.3	1.6	1.6	3.2	5.6
精神障がい n=308	27.9	6.5	1.6	1.0	24.4	1.9	13.3	3.6	14.9	4.9
難病 n=138	48.6	1.4	—	0.7	14.5	7.2	4.3	2.2	18.1	2.9
発達障がい n=79	32.9	21.5	—	—	15.2	3.8	6.3	2.5	10.1	7.6
高次脳機能障がい n=16	37.5	—	6.3	—	25.0	12.5	—	6.3	6.3	6.3
無回答 n=26	15.4	3.8	3.8	—	11.5	7.7	23.1	3.8	19.2	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 給与・工賃の額

副問 26-1 あなた(あて名の方)の給与または工賃は、1ヶ月あたりどれくらいですか。(○は1つ)

※ 問 26 で「給与・工賃を得ている(選択肢 1,2)」と回答した人

給与・工賃の額は、1万円未満が 11.2%、1万円～10万円が 27.9%、11万円～20万円が 28.2%、21万円以上が 29.9%となっている。

＜給与・工賃の額＞ (%)

	1万円未満	1万円～3万円	4万円～5万円	6万円～7万円	8万円～10万円	11万円～15万円	16万円～20万円	21万円～25万円	26万円以上	無回答
n=358	11.2	8.1	4.2	3.4	12.3	15.1	13.1	10.9	19.0	2.8
(再掲)	1万円～10万円 27.9				11万円～20万円 28.2		21万円以上 29.9			

問 26 で回答のあった給与・工賃別にみると、「工賃」の場合は1万円未満が 56.4%、1万円～3万円が 32.7%となっており、合わせると1ヶ月あたり3万円未満の工賃の人が約9割を占めていることがわかる。

＜給与・工賃の額／給与・工賃別＞ (%)

	1万円未満	1万円～3万円	4万円～5万円	6万円～7万円	8万円～10万円	11万円～15万円	16万円～20万円	21万円～25万円	26万円以上	無回答
給与 n=303	3.0	3.6	4.6	4.0	14.2	17.5	15.2	12.9	22.1	3.0
工賃 n=55	56.4	32.7	1.8	—	1.8	1.8	1.8	—	1.8	1.8

ウ 収入総額

問27 あなた(あて名の方)の収入(給与、手当等合わせて)は、1ヶ月あたりどれくらいですか。ご家族の収入は含めないでお答えください。(○は1つ)

1ヶ月の収入総額は、1万円未満が5.9%、1万円～10万円が26.7%、11～20万円が21.8%、21万円以上が15.7%となっている。

<収入総額>

(%)

	1万円 未満	1万円～ 3万円	4万円～ 5万円	6万円～ 7万円	8万円～ 10万円	11万円～ 15万円	16万円～ 20万円	21万円～ 25万円	26万円 以上	無回答
n=797	5.9	5.3	3.4	7.3	10.8	13.3	8.5	5.6	10.0	16.3
(再掲)	1万円～10万円 26.7				11万円～20万円 21.8		21万円以上 15.7			
										収入はない 13.6

(8) 社会活動等について

ア 日中の主な過ごし場所

問 28 あなた(あて名の方)は、平日の日中はどこにすることが多いですか。(○はいくつでも)

平日の日中は、「自宅」にいる人は 50.1%と最も多く、次いで「職場(勤務先、アルバイト先など)」が 34.5%で続いている。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは「障がい者の通所施設」にいる人が 54.8%と最も多い。また、精神障がいでは、平日の日中は「自宅」で過ごすことが多い人が約6割(60.1%)にのぼる。

＜日中の主な過ごし場所＞ (%)

	障がい者の通所施設	デイケア施設	職場(勤務先、アルバイト先など)	自営業の仕事先	自宅	その他	無回答
対象者全員 n=797	14.6	4.4	34.5	2.5	50.1	7.8	2.6

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	10.9	1.0	38.4	3.7	44.2	10.2	2.7
知的障がい n=124	54.8	0.8	21.0	1.6	25.8	4.8	0.8
精神障がい n=308	11.7	9.1	29.5	1.6	60.1	6.5	3.6
難病 n=138	1.4	1.4	43.5	2.2	54.3	8.7	2.2
発達障がい n=79	34.2	5.1	31.6	1.3	31.6	8.9	5.1
高次脳機能障がい n=16	6.3	12.5	31.3	—	50.0	6.3	6.3
無回答 n=26	15.4	11.5	15.4	3.8	73.1	11.5	3.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

精神障がいについて、精神障害者保健福祉手帳の所持者と、手帳を所持せずに自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者に分けてみると、自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証のみを所持している者では 41.0%が「職場(勤務先、アルバイト先など)」で平日の日中を過ごしている。

＜日中の主な過ごし場所／精神障がい(手帳のあり・なし別)＞ (%)

	障がい者の通所施設	デイケア施設	職場(勤務先、アルバイト先など)	自営業の仕事先	自宅	その他	無回答
精神障害者保健福祉手帳所持 n=203	13.8	11.8	23.6	1.5	61.1	7.4	4.4
自立支援医療費のみ n=105	7.6	3.8	41.0	1.9	58.1	4.8	1.9

「その他」としては、具体的に「病院」、「学校」、「図書館」、「スポーツクラブ」、「カフェ」、「公園」などの記入があった。

イ 施設や作業所から自宅に帰るまでにしたいこと

副問 28-1 施設や作業所などで過ごしたあと、自宅に帰るまでに、何かしたいことはありますか。
(〇はいくつでも)

※ 問 28 で「通所施設、デイケア施設にいる(選択肢 1,2)」と回答した人

施設や作業所などで過ごしたあとは、44.8%の人が「すぐに自宅に帰りたい」と回答しているが、26.9%は「友だちと一緒に話したり、買い物などをして過ごしたい」、18.6%は「習い事やスポーツなどをしたい」と回答している。

障がいの種類別にみると、精神障がいでは「友だちと一緒に話したり、買い物などをして過ごしたい」(32.2%)や「ひとりでまちをぶらぶらしたい」(22.0%)が他の障がいに比べて高くなっている。

＜施設や作業所から自宅に帰るまでにしたいこと＞ (%)

	すぐに自宅に帰りたい	友だちと一緒に話したり、買い物などをして過ごしたい	習い事やスポーツなどをしたい	ひとりでまちをぶらぶらしたい	その他	無回答
対象者全員 n=145	44.8	26.9	18.6	12.4	6.2	15.9

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=35	34.3	28.6	17.1	2.9	14.3	20.0
知的障がい n=68	51.5	19.1	19.1	5.9	7.4	16.2
精神障がい n=59	40.7	32.2	20.3	22.0	5.1	11.9
難病 n=4	50.0	25.0	25.0	—	—	25.0
発達障がい n=30	50.0	26.7	23.3	16.7	6.7	6.7
高次脳機能障がい n=3	66.7	33.3	—	—	—	—
無回答 n=6	—	33.3	—	16.7	—	66.7

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ウ 1年間の活動状況

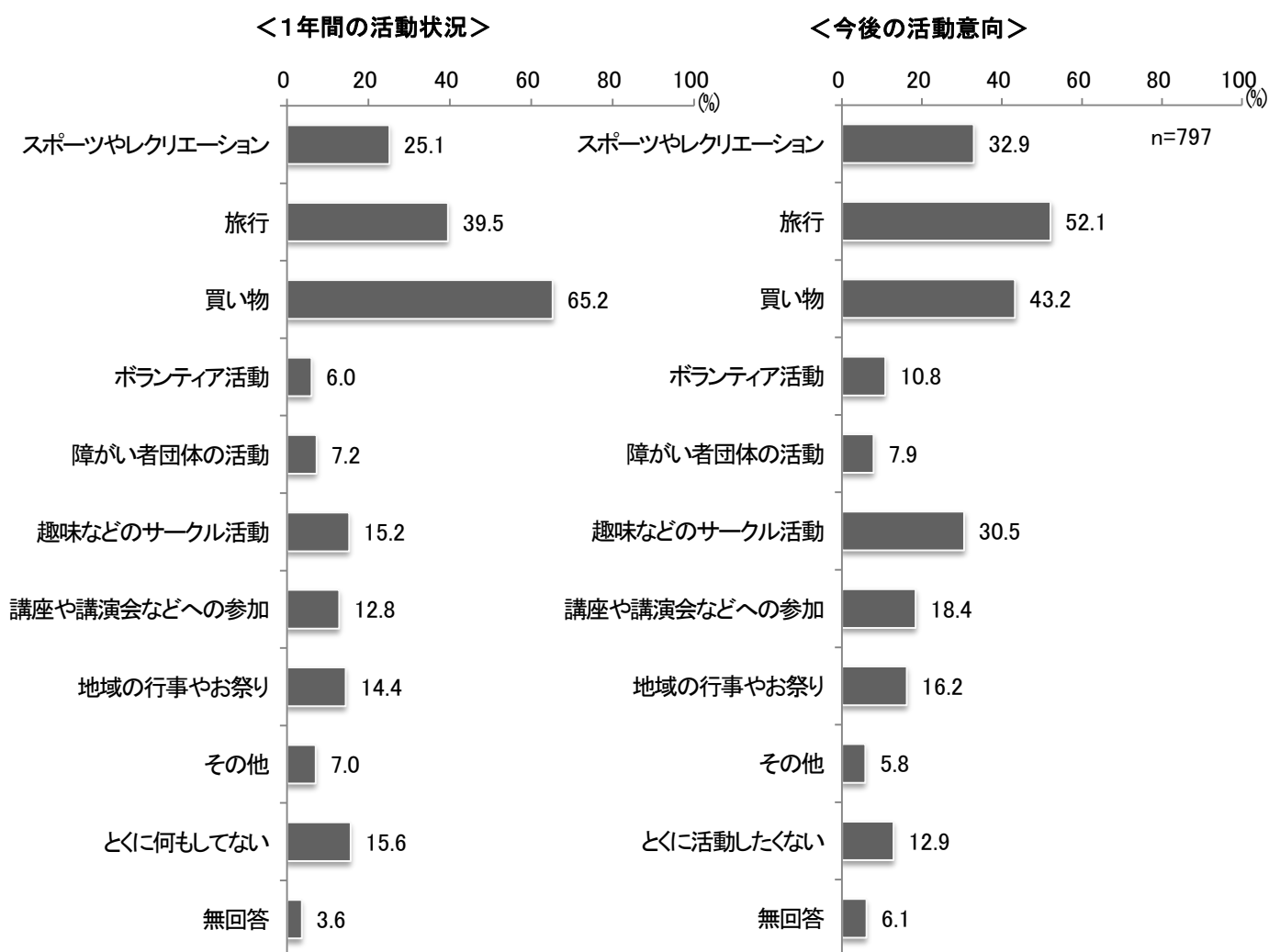
問 29 あなた(あて名の方)は、この1年くらいの間に、次のような活動をしましたか。(〇はいくつでも)

1年くらいの間に行った活動としては、「買い物」が 65.2%と最も多く、次いで「旅行」(39.5%)、「スポーツやレクリエーション」(25.1%)と続いており、「とくに何もしていない」人は 15.6%である。

エ 今後の活動意向

問 30 あなた(あて名の方)は、これからどのような活動をしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

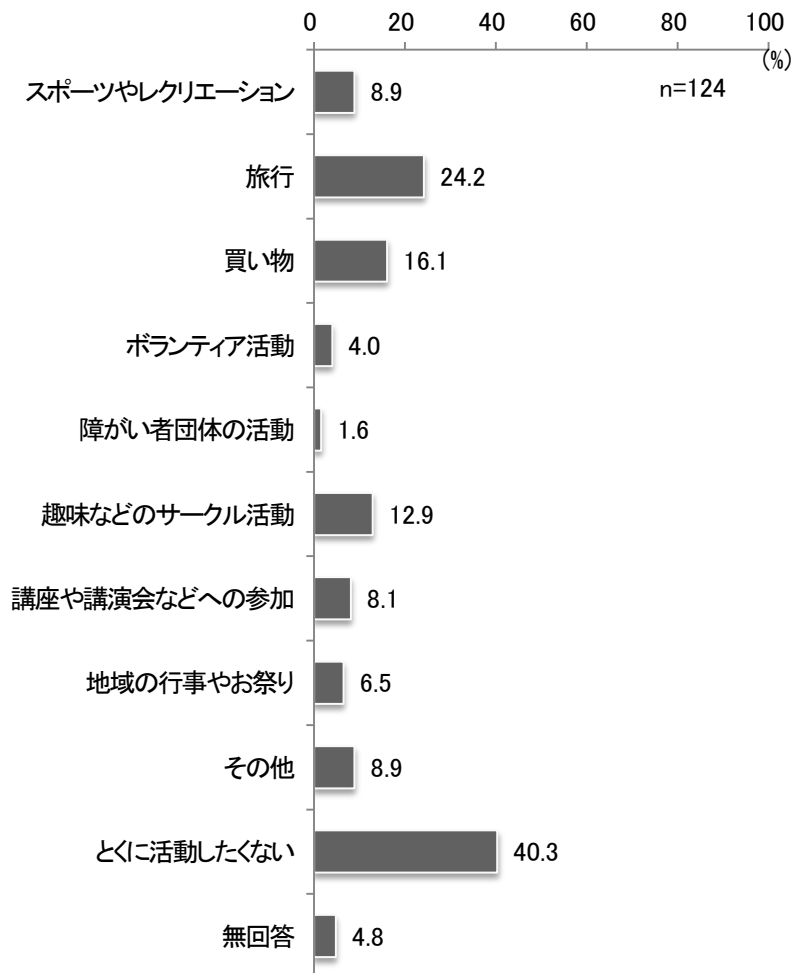
今後行いたい活動としては、「旅行」が 52.1%と最も多く、次いで「買い物」(43.2%)、「スポーツやレクリエーション」(32.9%)と続いており、「とくに活動したくない」人は 12.9%である。



実際の活動状況と今後の活動意向を比較してみると、「買い物」を除き、いずれの項目も活動意向が活動状況を上回っており、意向があるにもかかわらず実際には活動できていない人が多くいる状況がうかがえる。両者のかい離が最も大きいのは「趣味などのサークル活動」で、30.5%の人は活動したいと考えているが、実際この1年に活動した人は約半分の 15.2%にとどまっている。

また、この1年間にとくに何も活動していない人について、今後の活動意向をみると、約4割は今後も「とくに活動したくない」(40.3%)と回答しているが、「旅行」に行きたいと回答した人が 24.2%、「買い物」に行きたいが 16.1%、「趣味などのサークル活動」に参加したいが 12.9%いるなど、何らかの活動をしたいと考えている人も多くみられる。

＜今後の活動意向/1年間の活動を「とくに何もしていない」人＞

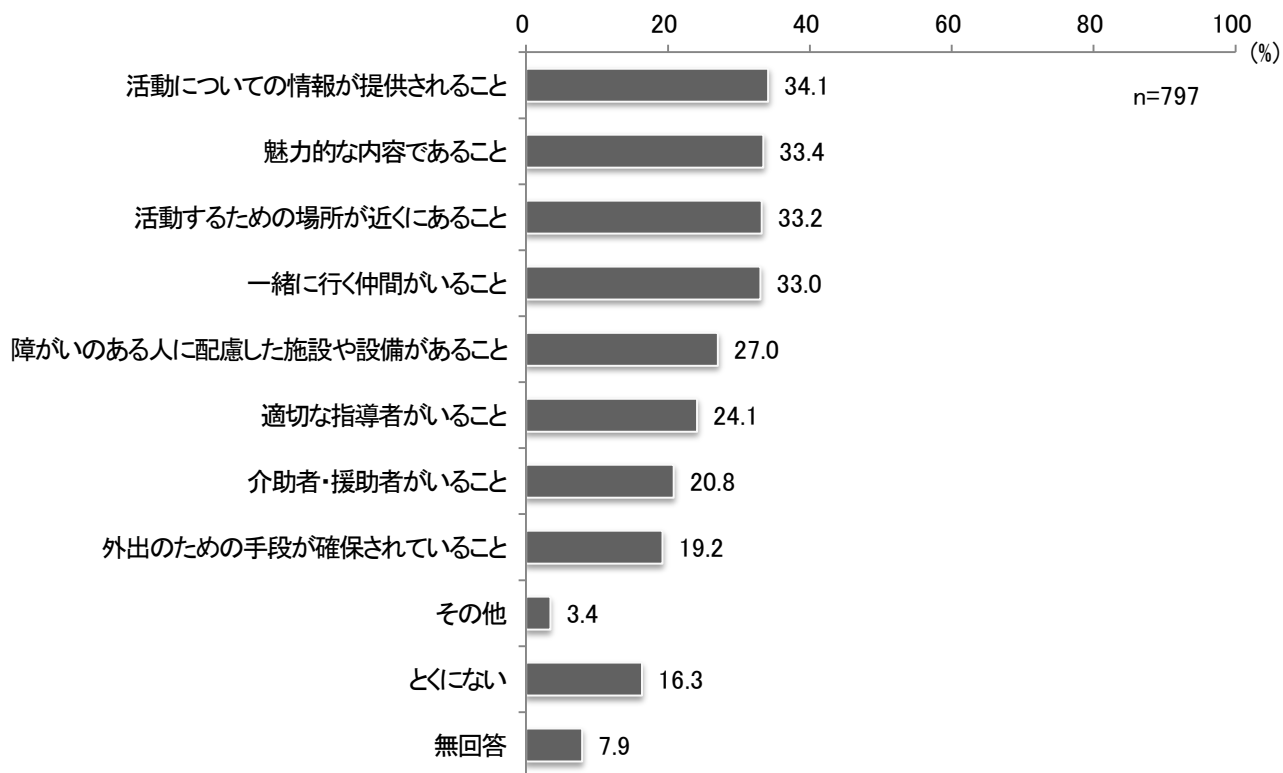


オ 活動をするために必要な支援

問 31 問 30 のような活動をするために、どのような支援が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

希望する活動をするために必要な支援としては、「活動についての情報が提供されること」をあげる人が34.1%と最も多く、次いで「魅力的な内容であること」(33.4%)、「活動するための場所が近くにあること」(33.2%)と続いている。

<活動をするために必要な支援>



障がいの種類別にみると、知的障がいでは「介助者・援助者がいること」(50.8%)と「適切な指導者がいること」(50.0%)の2項目をあげる人がそれぞれ約5割と特に多くなっている。

＜活動をするために必要な支援／障がいの種類別＞

(%)

		活動についての情報が提供されること	魅力的な内容であること	活動するための場所が近くにあること	一緒に行く仲間がいること	障がいのある人に配慮した施設や設備があること	適切な指導者がいること
身体障がい	n=294	35.4	33.0	29.3	29.9	33.3	20.7
知的障がい	n=124	37.9	33.1	39.5	40.3	45.2	50.0
精神障がい	n=308	31.5	35.1	34.4	35.4	19.8	24.4
難病	n=138	36.2	32.6	34.8	31.9	22.5	15.9
発達障がい	n=79	43.0	39.2	43.0	44.3	49.4	53.2
高次脳機能障がい	n=16	43.8	31.3	50.0	37.5	56.3	50.0
無回答	n=26	15.4	15.4	11.5	15.4	23.1	7.7

		介助者・援助者がいること	外出のための手段が確保されていること	その他	とくにない	無回答
身体障がい	n=294	24.1	24.8	1.7	17.3	6.8
知的障がい	n=124	50.8	29.0	—	6.5	7.3
精神障がい	n=308	14.6	14.3	6.8	15.6	10.4
難病	n=138	14.5	20.3	2.9	18.8	3.6
発達障がい	n=79	45.6	29.1	—	7.6	10.1
高次脳機能障がい	n=16	37.5	25.0	—	6.3	6.3
無回答	n=26	15.4	7.7	—	30.8	19.2

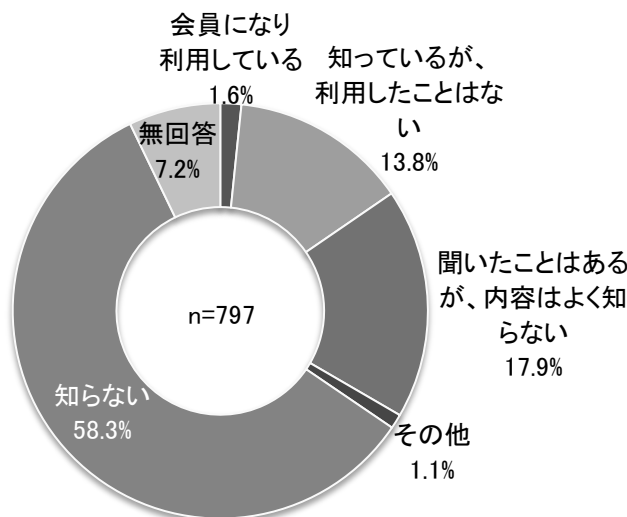
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

カ 福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況

問 32 おひとりでの移動が困難で、公共交通機関を利用するの外出が難しい方を対象に、ドア・ツー・ドアの外出支援として、福祉有償運送（ハンディキャブ）サービスがあることを知っていますか。（○は1つ）

福祉有償運送（ハンディキャブ）については、「知らない」人が約6割（58.3%）であり、17.9%は「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」、13.8%は「知っているが、利用したことはない」と回答している。

＜福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況＞



障がいの種類別にみると、身体障がいでは既に「会員になり利用している」人が 3.4%、「知っているが、利用したことはない」人が 18.7%、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」人が 19.0%である。

＜福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況／障がいの種類別＞ (%)

	会員になり利用している	知っているが、利用したことはない	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	その他	知らない	無回答
身体障がい n=294	3.4	18.7	19.0	1.7	51.4	5.8
知的障がい n=124	1.6	24.2	21.8	1.6	44.4	6.5
精神障がい n=308	0.3	8.8	14.6	0.3	67.9	8.1
難病 n=138	1.4	17.4	19.6	0.7	57.2	3.6
発達障がい n=79	1.3	16.5	22.8	—	55.7	3.8
高次脳機能障がい n=16	—	18.8	25.0	—	56.3	—
無回答 n=26	3.8	3.8	11.5	3.8	53.8	23.1

身体障害者手帳に記載されている障がいの種類別にみると、肢体不自由では既に「会員になり利用している」人が 6.9%いる。

＜福祉有償運送（ハンディキャブ）の認知状況／身体障がいの種類別＞ (%)

	会員になり利用している	知っているが、利用したことはない	聞いたことはあるが、内容はよく知らない	その他	知らない	無回答
視覚障害 n=21	—	38.1	14.3	0.0	42.9	4.8
聴覚障害 n=25	—	8.0	12.0	0.0	76.0	4.0
平衡機能障害 n=2	—	—	—	—	100.0	—
音声・言語・そしゃく機能障害 n=7	—	—	—	—	85.7	14.3
肢体不自由（上肢、下肢、体幹、運動機能障害など） n=145	6.9	20.0	20.7	3.4	44.8	4.1
内部機能障害（心臓、腎臓、肝臓、呼吸器、大腸など） n=91	1.1	19.8	22.0	—	50.5	6.6

※ 無回答は省略、複数の障がいがある場合はそれぞれにカウント

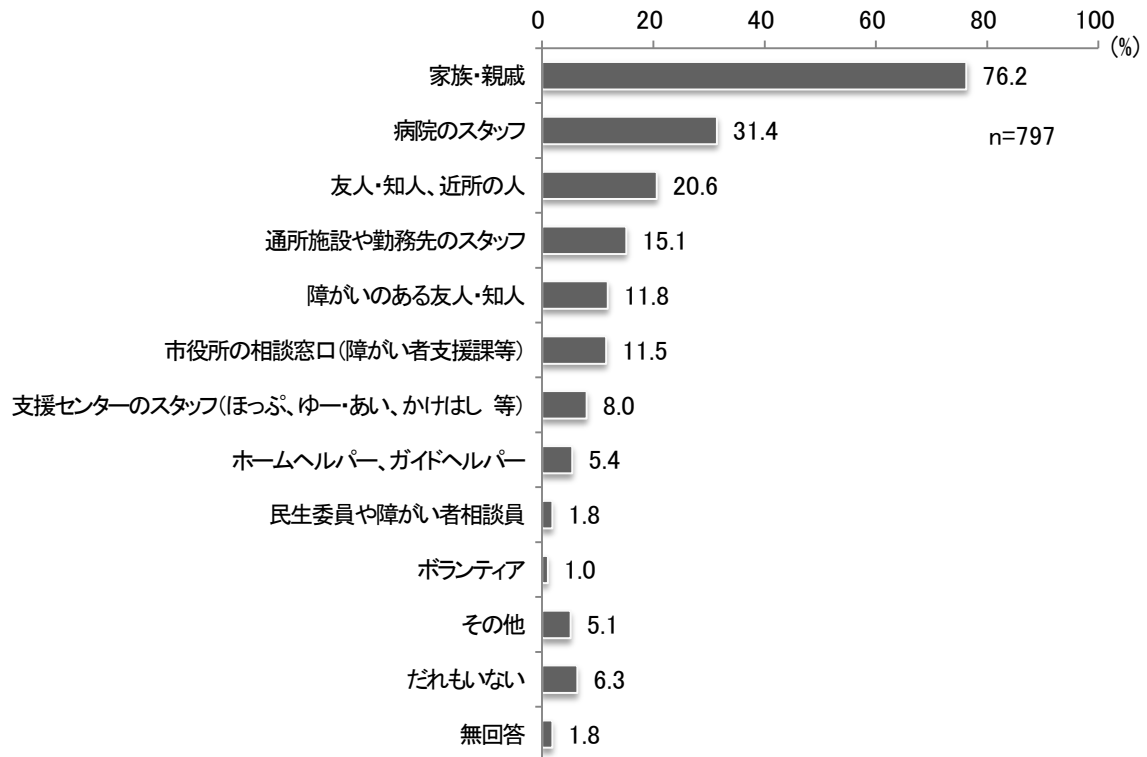
(9) 相談等について

ア 相談にのってくれる人

問 33 あなた(あて名の方)が、日常生活や障がいのことなどで困ったときに、相談にのってくれる人はいますか。それはだれですか。(〇はいくつでも)

困ったときに相談にのってくれる人としては、「家族・親戚」が 76.2%と最も多く、次いで「病院のスタッフ」(31.4%)、「友人・知人、近所の人」(20.6%)と続いている。

<相談にのってくれる人>



障がいの種類別にみると、いずれの障がいでも「家族・親戚」をあげる人が最も多いが、知的障がいでは「通所施設や勤務先のスタッフ」が47.6%、精神障がいでは「病院のスタッフ」が44.5%と、他の障がいに比べて高くなっている。

＜相談にのってくれる人／障がいの種類別＞

(%)

		家族・親戚	病院のスタッフ	友人・知人、近所の人	市役所の相談窓口(障がい者支援課等)	障がいのある友人・知人	通所施設や勤務先のスタッフ	ホームヘルパー、ガイドヘルパー
身体障がい	n=294	75.9	27.6	24.1	13.6	12.2	9.2	8.5
知的障がい	n=124	87.9	9.7	6.5	16.9	5.6	47.6	12.1
精神障がい	n=308	70.8	44.5	18.8	12.3	15.3	15.9	2.6
難病	n=138	84.8	33.3	29.0	5.1	5.1	5.1	4.3
発達障がい	n=79	87.3	29.1	13.9	16.5	11.4	39.2	10.1
高次脳機能障がい	n=16	87.5	31.3	25.0	6.3	6.3	25.0	18.8
無回答	n=26	53.8	19.2	19.2	—	7.7	3.8	7.7

		支援センターのスタッフ(ほっふ、ゆーあい、かけはし等)	民生委員や障がい者相談員	ボランティア	その他	だれもない	無回答
身体障がい	n=294	5.1	2.4	0.7	4.4	8.5	2.4
知的障がい	n=124	19.4	2.4	1.6	5.6	2.4	1.6
精神障がい	n=308	9.7	1.6	1.3	6.5	5.2	1.6
難病	n=138	0.7	—	—	5.8	3.6	—
発達障がい	n=79	24.1	1.3	2.5	10.1	1.3	1.3
高次脳機能障がい	n=16	—	—	—	6.3	—	—
無回答	n=26	3.8	—	—	—	19.2	7.7

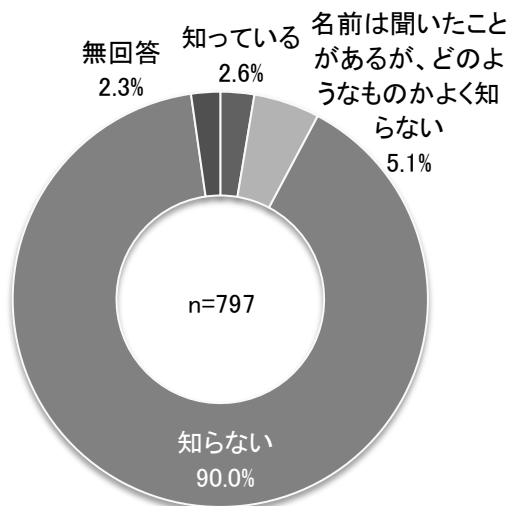
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 「基幹相談支援センター」の認知状況

問34 三鷹市では、障がいの種別、年齢にかかわらず、総合的な相談を行い、必要に応じて、地域の相談機関との連携、専門機関への紹介を行う「基幹相談支援センター」を今年4月に開設しました。あなたは、この「基幹相談支援センター」のことを知っていますか。(○は1つ)

基幹相談支援センターを「知っている」人は2.6%で、9割は「知らない」(90.0%)と回答している。

＜「基幹相談支援センター」の認知状況＞



(10) 情報入手等について

ア パソコンやスマートフォン等の利用状況

問 35 あなたは、情報を入手するために、パソコンやスマートフォン、携帯電話などを利用していますか。
(○はいくつでも)

「パソコンを利用して、情報を入手している」人は 42.7%、「スマートフォンを利用して、情報を入手している」人は 40.4%である。

障がいの種類別にみると、身体障がいと難病では約半数が「パソコンを利用して、情報を入手している」(身体障がい 48.3%、難病 50.0%)状況である。

<パソコンやスマートフォン等の利用状況> (%)

	パソコンを利用して、情報を入手している	スマートフォンを利用して、情報を入手している	携帯電話(スマートフォン以外)を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	わからない	無回答
対象者全員 n=797	42.7	40.4	8.5	16.4	14.4	4.6

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	パソコンを利用して、情報を入手している	スマートフォンを利用して、情報を入手している	携帯電話(スマートフォン以外)を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	わからない	無回答
身体障がい	n=294	48.3	42.9	8.2	14.6	12.2	5.1
知的障がい	n=124	20.2	12.9	6.5	37.1	27.4	5.6
精神障がい	n=308	38.0	37.7	10.1	17.2	15.3	4.5
難病	n=138	50.0	57.2	6.5	10.1	9.4	3.6
発達障がい	n=79	34.2	31.6	8.9	29.1	13.9	2.5
高次脳機能障がい	n=16	37.5	25.0	12.5	25.0	25.0	—
無回答	n=26	42.3	30.8	15.4	3.8	23.1	7.7

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

身体障がいのうち、聴覚障がいについてしてみると、25 人のうち 15 人(60.0%)は「スマートフォンを利用して、情報を入手している」ことがわかる。

<パソコンやスマートフォン等の利用状況／聴覚障がい> (%)

	パソコンを利用して、情報を入手している	スマートフォンを利用して、情報を入手している	携帯電話(スマートフォン以外)を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	わからない	無回答
聴覚障がい n=25	40.0	60.0	—	16.0	12.0	4.0

年齢別にみると、20 代の約5割(51.1%)、30 代の約6割(60.3%)は、「スマートフォンを利用して、情報を入手している」ことがわかる。

<パソコンやスマートフォン等の利用状況／年齢別> (%)

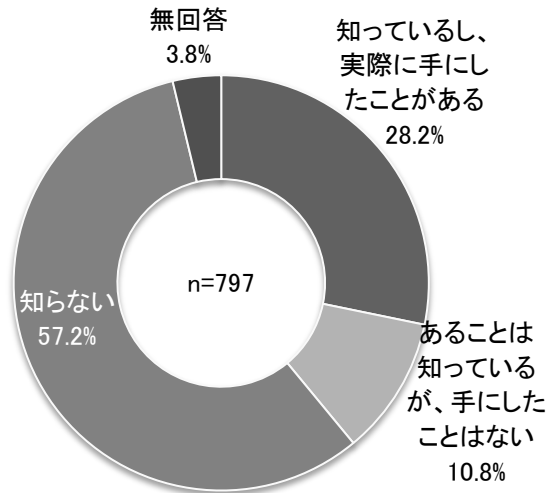
年齢別	n	パソコンを利用して、情報を入手している	スマートフォンを利用して、情報を入手している	携帯電話(スマートフォン以外)を利用して、情報を入手している	パソコンなどを利用して情報を得ることはない	わからない	無回答
19歳以下	n=12	16.7	33.3	—	58.3	—	—
20代	n=92	44.6	51.1	6.5	13.0	14.1	4.3
30代	n=136	47.1	60.3	7.4	11.8	8.1	2.2
40代	n=211	47.9	40.3	7.6	10.4	18.5	4.7
50代	n=186	38.7	34.9	11.8	22.0	13.4	3.8
60歳以上	n=140	35.7	24.3	10.0	20.7	18.6	6.4
無回答	n=20	50.0	25.0	—	20.0	5.0	20.0

イ 「障がい者のためのしおり」の認知状況

問 36 障がいのある方を対象にした制度やサービスなどについて、市がまとめた冊子「障がい者のためのしおり」を知っていますか。(○は1つ)

「障がい者のためのしおり」を「知っているし、実際に手にしたことがある」人は 28.2%で、57.2%は「知らない」と回答している。

＜「障がい者のためのしおり」の認知状況＞



障がいの種類別にみると、精神障がいでは約7割が「知らない」(70.8%)と回答している。

＜「障がい者のためのしおり」の認知状況/障がいの種類別＞

(%)

		知っているし、実際に手にしたことがある	あることは知っているが、手にしたことはない	知らない	無回答
身体障がい	n=294	48.6	13.9	33.7	3.7
知的障がい	n=124	33.9	12.9	49.2	4.0
精神障がい	n=308	16.6	8.4	70.8	4.2
難病	n=138	21.0	10.9	67.4	0.7
発達障がい	n=79	38.0	10.1	50.6	1.3
高次脳機能障がい	n=16	56.3	12.5	31.3	0.0
無回答	n=26	15.4	0.0	73.1	11.5

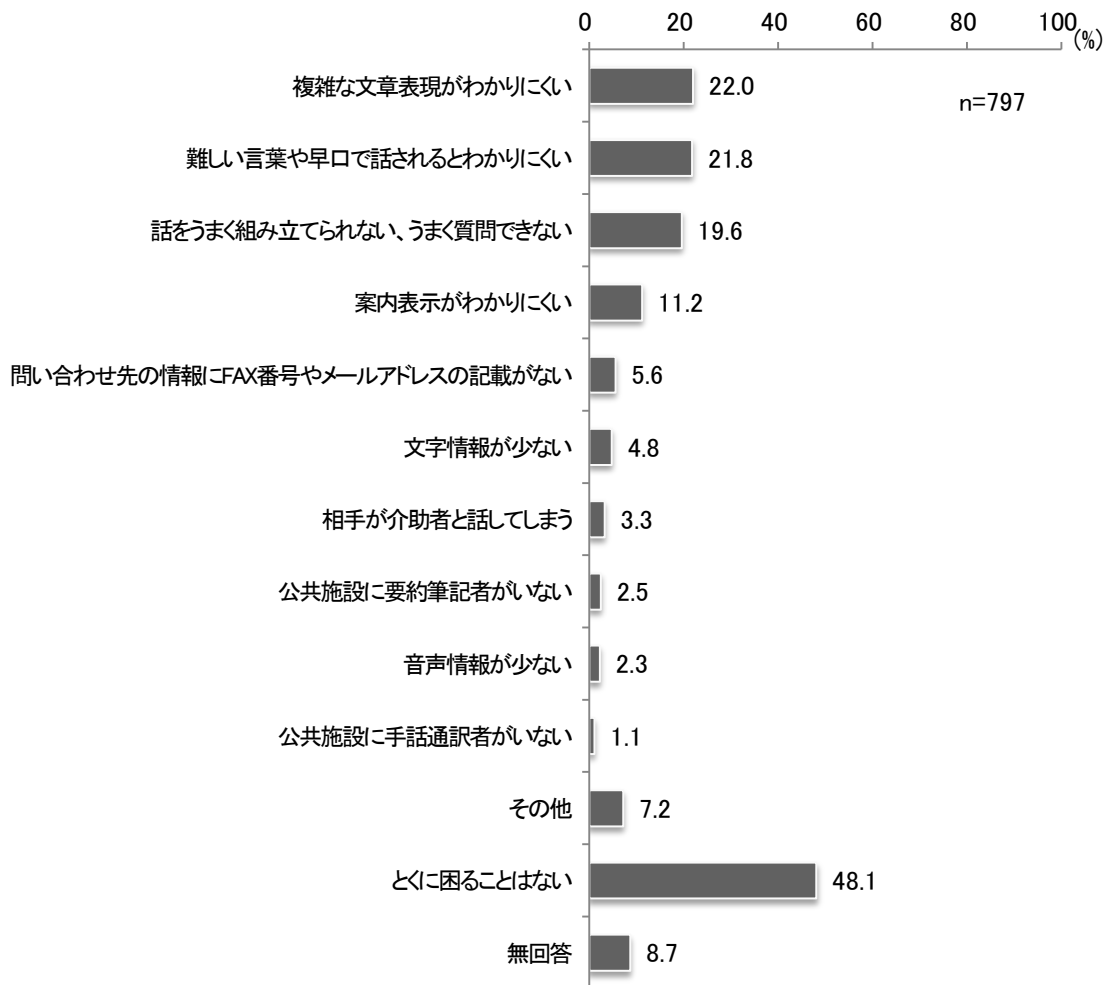
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ウ 情報入手やコミュニケーションをとる上で困ること

問 37 あなた(あて名の方)は、情報入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることはありますか。
(○はいくつでも)

情報入手したり、コミュニケーションをとる上で困ることとしては、「複雑な文章表現がわかりにくい」(22.0%)、「難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい」(21.8%)、「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」(19.6%)がそれぞれ約2割あげられている。

＜情報入手やコミュニケーションをとる上で困ること＞



障がいの種類別にみると、知的障がいでは「話をうまく組み立てられない、うまく質問できない」(54.0%)と「複雑な文章表現がわかりにくい」(53.2%)をあげる人がそれぞれ半数以上となっている。

＜情報入手やコミュニケーションをとる上で困ること／障がいの種類別＞ (%)

		複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	案内表示がわかりにくい	問い合わせ先の情報にFAX番号やメールアドレスの記載がない	文字情報が少ない	相手が介助者と話してしまう
身体障がい	n=294	14.6	15.0	11.2	12.9	7.5	7.5	3.7
知的障がい	n=124	53.2	46.0	54.0	19.4	4.0	4.8	9.7
精神障がい	n=308	22.7	24.7	21.4	8.8	5.5	2.6	1.9
難病	n=138	14.5	9.4	6.5	8.7	1.4	2.2	2.2
発達障がい	n=79	57.0	54.4	58.2	15.2	6.3	3.8	7.6
高次脳機能障がい	n=16	43.8	56.3	43.8	25.0	6.3	6.3	—
無回答	n=26	15.4	15.4	7.7	—	—	3.8	—

		公共施設に要約筆記者がいない	音声情報が少ない	公共施設に手話通訳者がいない	その他	とくに困ることはない	無回答
身体障がい	n=294	4.1	2.7	2.7	7.1	52.7	8.5
知的障がい	n=124	6.5	5.6	2.4	8.9	12.9	10.5
精神障がい	n=308	1.0	1.6	—	9.4	45.5	9.1
難病	n=138	—	0.7	—	8.7	65.9	5.1
発達障がい	n=79	2.5	3.8	—	10.1	16.5	5.1
高次脳機能障がい	n=16	6.3	—	—	18.8	25.0	—
無回答	n=26	—	—	—	—	42.3	34.6

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

身体障がいのうち、視覚障がいについてみると、21人中8人(38.1%)は「案内表示がわかりにくい」、4人(19.0%)は「音声情報が少ない」ことで困っている状況がうかがえる。また、聴覚障がいについてみると、25人中14人(56.0%)は「文字情報が少ない」、11人(44.0%)は「問い合わせ先の情報にFAX番号やメールアドレスの記載がない」、8人(32.0%)は「公共施設に要約筆記者がいない」ことで困っている状況がうかがえる。

＜情報入手やコミュニケーションをとる上で困ること／視覚障がい・聴覚障がい＞ (%)

		複雑な文章表現がわかりにくい	難しい言葉や早口で話されるとわかりにくい	話をうまく組み立てられない、うまく質問できない	案内表示がわかりにくい	問い合わせ先の情報にFAX番号やメールアドレスの記載がない	文字情報が少ない	相手が介助者と話してしまう
視覚障がい	n=21	4.8	4.8	4.8	38.1	4.8	—	9.5
聴覚障がい	n=25	36.0	68.0	24.0	36.0	44.0	56.0	12.0

		公共施設に要約筆記者がいない	音声情報が少ない	公共施設に手話通訳者がいない	その他	とくに困ることはない	無回答
視覚障がい	n=21	—	19.0	—	14.3	33.3	9.5
聴覚障がい	n=25	32.0	8.0	28.0	12.0	4.0	4.0

(11) 災害時の対策、緊急時の対応等について

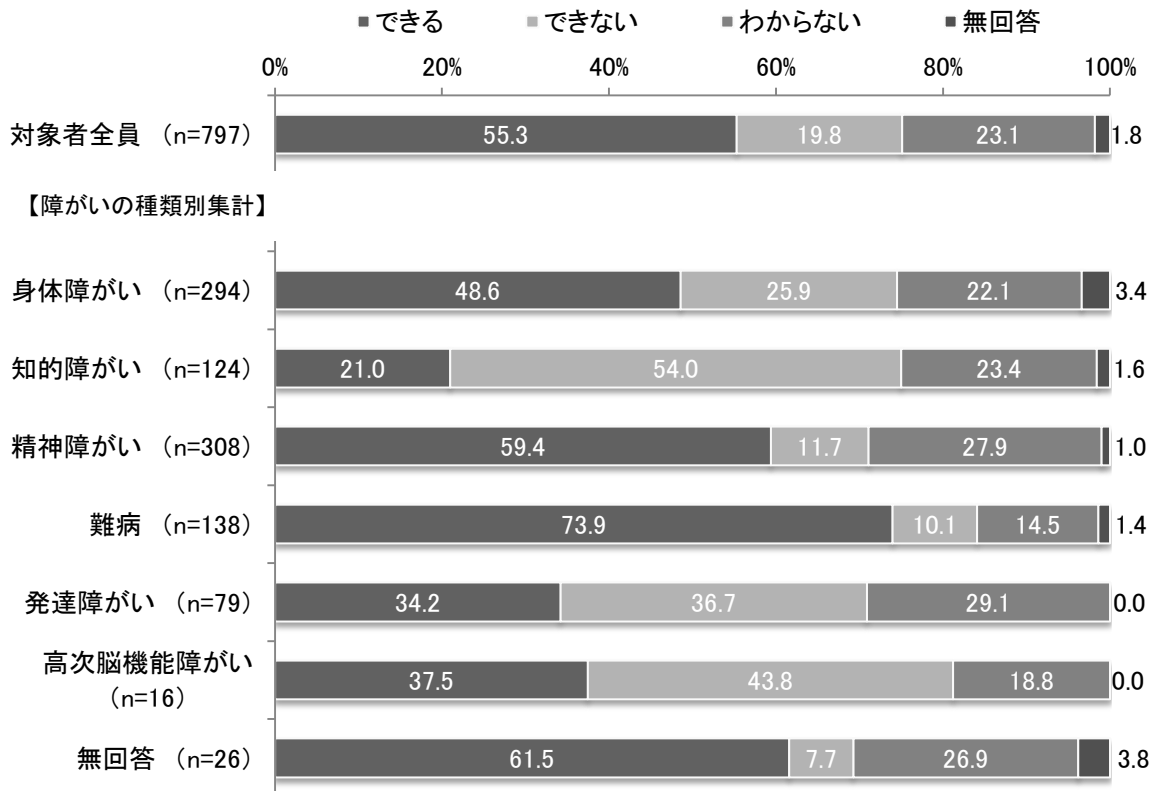
ア 災害時の単独避難の能否

問 38 あなた(あて名の方)は、火事や地震などの災害時にひとりで避難できますか。(○は1つ)

火事や地震などの災害時にひとりで避難「できる」人は、55.3%である。

障がいの種類別にみると、ひとりで避難できる人の割合は、身体障がい 48.6%、知的障がい 21.0%、精神障がい 59.4%、難病 73.9%である。

<災害時の単独避難の能否>



イ 近隣援助者の有無

問 39 家族が不在の場合やひとり暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(○は1つ)

近所に助けてくれる人が「いる」人は、20.1%である。

<近隣援助者の有無>



ウ 「避難行動要支援者名簿」についての考え

問 40 災害時に行政や地域などから支援を受けるため、あらかじめ個人情報(名前、住所、世帯の状況、障がいの状況、緊急連絡先等)を市に提供することについて、どう思いますか。(○は1つ)

「避難行動要支援者名簿」作成のために個人情報を市に提供することについては、37.1%の人が「最小限の情報(名前、住所程度)ならかまわない」、32.7%の人が「必要な情報なので、積極的に提供してよい」と回答しており、合わせると約7割の人は個人情報を提供してもかまわないと考えていることがわかる。

障がいの種類別にみると、精神障がいでは「個人情報なので知らせたくない」と回答した人の割合が22.1%と、他の障がいに比べて高くなっている。

＜「避難行動要支援者名簿」についての考え＞ (%)

	必要な情報 なので、積 極的に提 供してよい	最小限の 情報(名 前、住所程 度)ならか まわない	個人情報な ので知らせ たくない	その他	わからない	無回答
対象者全員 n=797	32.7	37.1	13.8	1.6	11.3	3.4

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	37.1	40.1	9.2	2.0	6.8	4.8
知的障がい n=124	41.9	35.5	5.6	0.8	11.3	4.8
精神障がい n=308	29.9	31.2	22.1	1.6	13.0	2.3
難病 n=138	30.4	47.8	7.2	1.4	11.6	1.4
発達障がい n=79	41.8	34.2	8.9	1.3	13.9	—
高次脳機能障がい n=16	75.0	12.5	6.3	—	6.3	—
無回答 n=26	11.5	34.6	19.2	—	23.1	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

エ 「ヘルプカード」の認知状況

問 41 東京都では、障がいのある方が災害のときや日常生活の中で困ったときに、まわりの人に自分の障がいへの理解や支援を求める際に利用できるよう、緊急連絡先や必要な支援内容などを書いておける「ヘルプカード」を配布しています。あなたは、この「ヘルプカード」のことを知っていますか。(○は1つ)

ヘルプカードを「実際に持っている」人は約1割(10.9%)で、約6割はヘルプカードのことを「知らない」(61.0%)と回答している。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは約3割が「実際に持っている」(31.5%)状況である。

＜「ヘルプカード」の認知状況＞ (%)

	実際に持っ ている	あることは 知っている が、持って いない	名前は聞 いたことが あるが、ど のようなも のかよく知 らない	その他	知らない	無回答
対象者全員 n=797	10.9	17.3	8.0	0.4	61.0	2.4

【障がいの種類別集計】

身体障がい n=294	9.2	17.7	7.8	0.3	61.6	3.4
知的障がい n=124	31.5	21.0	7.3	0.8	36.3	3.2
精神障がい n=308	9.1	18.2	7.8	0.3	62.3	2.3
難病 n=138	7.2	14.5	7.2	—	69.6	1.4
発達障がい n=79	26.6	25.3	7.6	1.3	39.2	—
高次脳機能障がい n=16	18.8	12.5	6.3	—	62.5	—
無回答 n=26	3.8	3.8	11.5	—	76.9	3.8

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

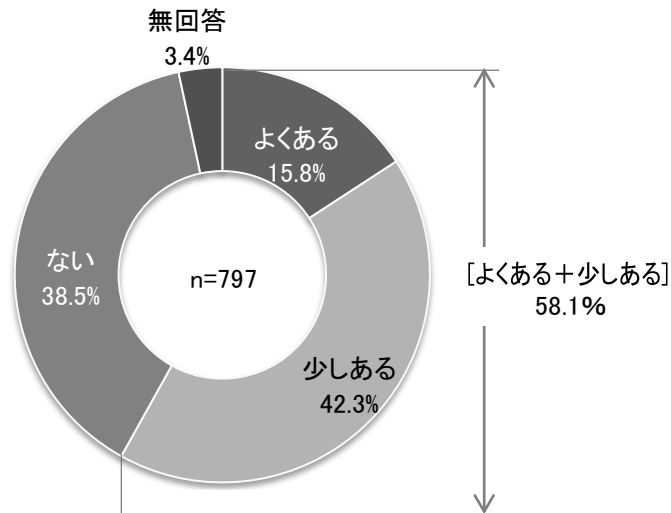
(12) 差別や権利擁護について

ア 差別を感じた経験

問 42 あなた(あて名の方)は、障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをしたことがありますか。
(○は1つ)

差別を感じたり、嫌な思いをしたことが「よくある」人は 15.8%、「少しある」人は 42.3%で、合わせると6割弱の人には障がいがあることで、差別を感じたり、嫌な思いをした経験があることがわかる。

<差別を感じた経験>



障がいの種類別にみると、差別を感じたり、嫌な思いをした経験がある(よくある+少しある)人の割合は、身体障がいでは 58.8%、知的障がいでは 76.6%、精神障がいでは 61.7%、難病では 40.6%となっている。

<差別を感じた経験/障がいの種類別>

		よくある	少しある	ない	無回答	よくある + 少しある
身体障がい	n=294	14.3	44.6	37.4	3.7	58.8
知的障がい	n=124	25.0	51.6	19.4	4.0	76.6
精神障がい	n=308	18.5	43.2	35.4	2.9	61.7
難病	n=138	7.2	33.3	56.5	2.9	40.6
発達障がい	n=79	30.4	45.6	22.8	1.3	75.9
高次脳機能障がい	n=16	6.3	56.3	31.3	6.3	62.5
無回答	n=26	19.2	26.9	42.3	11.5	46.2

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

イ 「差別を感じる対応」と「気づかひや思いやりを感じる対応」の内容

問 43 平成28年4月から施行された「障害者差別解消法」に関連して、今後の市の取り組みに役立てるため、実際にあなたやご家族等が体験した「差別を感じる対応」と、「気づかひや思いやりを感じる対応」についてお聞かせください。(自由記入)

「差別を感じる対応」や「気づかひや思いやりを感じる対応」については、具体的に以下のような記入があった。

① 差別を感じる対応

<外出時の周囲の人の言葉、視線、態度から>

- ・ 外出時にじろじろ見られる。(30代女性、身体・知的)
- ・ 人にじっと見られることがある。(40代女性、精神)
- ・ 差別というより、ヘンに気を遣ってくれるような感じ。腫れ物にさわるよう。(50代女性、身体)
- ・ 障害をからかわれる。(40代男性、精神・発達)
- ・ 見た目にはわからないことがあり、怠けているように受け取られることがある。(40代女性、難病)
- ・ レジやトイレに並んでいると、時間がかかる人が前にいるなあと、イライラされる。(40代女性、身体)
- ・ 買い物しているときや、レジでお金を支払うときなど嫌な顔をされたことが多々ある。(20代男性、知的・発達)
- ・ コンビニに買い物に行ってお金を払うときに時間がかかって、もう店にこないで下さいと言われた。(30代男性、精神)
- ・ 通路のせまい店などへ車イスで出かけた場合すぐくじまにされる。(50代女性、身体)
- ・ 歩行中に「じゃまだ」と傘でつつかれた、または押された。(30代女性、知的・発達)
- ・ 心臓に持病があり、駅のエレベーターを利用したが、年配の方に「若くせにエレベーターに乗るなんて」と言われた。(30代女性、身体)
- ・ 障害者手帳を持っていないため、車イススペースに駐車させてもらえなかった。(30代女性、難病)
- ・ 市の行事で混乱した子どもに対し「うるさいので違うところにして下さい」とスタッフに注意を受けた。(19歳以下男性、知的・発達)
- ・ 通所バスの乗り降りの際、他の車にクラクションをならされて、乗り降りの時間をせかされた。(20代男性、身体・知的)
- ・ 子どもたちが多いイベントなどにいくと、珍しい動物をみるように、ジロジロとみられる。(20代男性、身体・知的)
- ・ 近所の子ども(小学生)がボール遊びしているときに出くわすと、わざとボールを当てられる。(19歳以下女性、知的)

<街中の環境から>

- ・ 身障者用のトイレがごく限られた施設(店など)にしかなく、出かけられる行き先も限られてしまう。(50代男性、身体・高次)
- ・ テレビで字幕が付いていないのが未だに多くて困っている。映画も同じ。(30代女性、身体)
- ・ 障害者トイレが少ない。又は別の場所にある。(30代女性、身体)

<交通機関を利用する際に>

- ・ 福祉券でタクシーに乗車したとき、舌打ちをされた。(60代女性、身体)

- ・手帳提示時にバス運転手に面倒臭そうにされる。(女性、精神)
- ・見た目が視覚障害者に見られないため、手帳割引(バス)で何度か運転手とモメた。(40代男性、身体・難病)
- ・障がい者手帳を提示したら、バスの運転士がため息をついていやいや料金の操作をしていた。(50代女性、精神)
- ・バス、タクシーを利用するとき、障害者手帳を提示すると、いやな顔をされることが多い。(60代男性、身体)
- ・電車・バスで座席を譲ってもらえない。(40代男性、身体・難病)

<医療機関を利用する際に>

- ・医者にかかった際、精神障害者ということ告げた途端、態度が変わった。(50代女性、精神)
- ・薬局で薬をもらうときに、自覚症状について聞かれたのでありのままの答えたら、「(薬を飲んでいるから)気のせいじゃないの」と鼻で笑われたこと。それ以来いつも以上に緊張する。(50代女性、精神)
- ・精神障がい者というだけで、一般病院のスタッフにかけ口(診察室のドアが開いていた)気持ち悪いといわれた。(40代女性、精神・発達)
- ・耳が不自由だと病院の医師が説明を簡略してしまう。(60代女性、身体)
- ・お医者さんが診てくれない。(40代女性、精神)

<学校の場合>

- ・学校で、友達に、いじめを受けた。(50代女性、知的)
- ・小学生のとき、いじめにあった。(保護者たちにも)(20代男性、知的・発達)
- ・小学生のとき、校医による健康診断で校医から「ダウンだ、ダウンだ」と普通クラスの生徒もいる中で言われた。学校に抗議の電話を入れたが、校医から謝罪もなく、悲しい思いをした。(19歳以下男性、知的)
- ・以前、学校で、まわりの人たちがあまり、話しかけてくれず、寂しい思いをしたことがある。(30代男性、身体・知的・精神・高次)

<就労・職場の場合>

- ・仕事場所が少ない。(40代男性、精神)
- ・なかなか就労できなかった。(40代男性、精神)
- ・就労には手帳がある・なしで病気をもって仕事をする事への理解や受け入れ場所(会社)がない。(30代女性、難病)
- ・仕事を妹とやる為と同じ日に登録会に参加したが、妹にだけ連絡が来て自分には一切連絡がない。(私は障がいがあることを伝えた。)(20代女性、精神)
- ・アルバイト先の面接で「服薬中」と答えただけで、採用試験に落ちた。(20代女性、精神)
- ・就労支援センターについて。転職希望を出していたが職員の判断が優先されてしまう。(20代男性、知的・発達)
- ・心療内科に通っていると言うと必ず面接で落とされる。(30代女性、精神)
- ・障がい者雇用枠で再就職の為、給与が低く、身分も非正規。(50代男性、身体・難病)
- ・入職後、まともな、教育をしてもらえなかった。(20代女性、精神)
- ・病気になったことで職場から、よく病気を口にされ仕事の制限をされるようになった。(30代男性、難病)
- ・勤めていた職場の同僚から陰口や無視。(40代女性、精神)

- ・ どうせあなたにはできないからと同僚から言われたとき。(50代男性、精神)
- ・ 職場では病気のことは同僚には言っていない。言いづらい。(50代女性、身体)
- ・ 職場で社員の人から冷たい態度をとられる。健常者の人とはあつかいが違う。(40代女性、精神)
- ・ 病気がある事が原因で部署を移動させられた。(病気のある人間はいらないとのこと)(50代男性、難病)
- ・ 以前の職場では、うまく説明ができないのをいいことにいじめがありました。(30代女性、身体・知的)
- ・ 以前の職場で障がいを理由に解雇された。(40代男性、精神)
- ・ 勤務先で、見た目は健康と思われていたが、通院や入院をしたことで会社を辞めさせられた。(40代女性、難病)
- ・ 以前の職場で通院のため休みを取ると社長から文句を言われ、最終的に辞めさせられた。(40代男性、難病)
- ・ 就職の面接で障がいがある事を伝え出勤日数や勤務時間の希望を出し事前に面接担当者の理解を得て就職したが、上司や同僚からの理解は得られなかった。約束していた勤務時間以上に働かされ体調を崩し欠勤し辞めざるを得ない職場環境になった。(30代男性、精神)

<障がいに対する理解不足や誤解から>

- ・ 薬(ステロイド)の副作用でムーンフェイスになり、それを知人や親せきの理解がないとき(太ったと言われるとき)、悲しい。(40代女性、難病)
- ・ 障がい内容の認識不足のため、過剰な対応をされてしまう。(40代男性、身体)

<施設職員、行政職員の態度から>

- ・ 作業所へ行ったとき、上から目線で見られるのがいやだ。(50代男性、精神)
- ・ 通所施設で職員が上から目線。(30代男性、身体)
- ・ 精神的にキツイとき、ケースワーカーの女性がわめきながらオレの目つきがキモチ悪いと罵倒した。(50代男性、精神)
- ・ 夜勤のスタッフの対応がきつい感じを受けることがある。(扱いかたが乱暴な場合がある)(50代女性、身体)
- ・ 市役所の相談窓口で手帳の更新の相談に行ったとき、めんどくさそうに対応されたことがあった。(60代男性、精神・発達)
- ・ 市役所に行っても必要な情報がもらえなかった(ただパンフレットをもらっただけではわからない)。(20代男性、精神・高次)
- ・ 市のサービス利用時に「減免で」と言うと、態度が悪い方になる。(粗大ゴミ申込み他)いちいち身体なのか精神なのか聞かれるのは苦痛。(40代男性、身体)

<家族の態度から>

- ・ 兄弟から意味もなく疎遠にされたとき。(50代女性、難病)
- ・ 実家の家族が理解してくれず、ただの怠け者扱いにされ、しばらく会っていない。(40代女性)
- ・ 両親が(他の兄弟は障害なし)コミュニケーションどころか話もしてくれない。「まわりの人」以上に家族からの差別がひどい。病気の理解もない。(40代女性、身体)
- ・ 冠婚葬祭に出席しないようにいわれた。(30代男性、知的・発達)
- ・ 弟が受験のとき、足音がうるさく、母から、旅館に泊れと言われ差別を感じた。(30代女性、精神)

<その他>

- ・ 不動産屋で賃貸アパートを探しているとき、無職であることを理由に何軒も断られた。(40代女性、精神)
- ・ 部屋を借りる時に視覚障害ということで断われた。(40代男性、身体)
- ・ 部屋の更新(契約)(30代男性、精神)
- ・ 不動産屋で生保であることや、精神通院ということでことわられたりした。(40代女性、精神)
- ・ 難病指定を受けているため生命保険に入れない。(40代女性、身体)
- ・ 民間のジムに入ろうとしたとき、他のお客様が嫌がるという理由で断られた。(30代女性、身体)
- ・ 自分が、障がい者だと言ったら、友達が急にはなれていった。(40代、女性、精神)

② 気づかいや思いやりを感じる対応

<街中で>

- ・ 自動でないドアの開閉をしていただいたとき。
- ・ 白杖をもっていると、路上自転車(放置)をどかせてくれた。
- ・ 道をすぐにゆずってくれます。
- ・ エレベーターのドアが閉まらないように開けてくれる。
- ・ 外出先で意識を失って倒れたとき、通りかかった方が付き添い、助けて下さいました。
- ・ 苦しくなりしゃがみ込んでいるとき、近くのベンチまで連れて行ってくださったとき。
- ・ 貧血で、道路でしゃがんでいたら、声をかけていただいた。
- ・ 外出先で転んでケガをしたとき、まわりの人が助けてくれた。
- ・ 階段とか下りられないときに、手をかしてくれたり、危ないときに手をかしてくれます。
- ・ 民間の飲食店に一人で行ったときに、座席に案内し、メニューを教えてもらえた(自分は視覚障害者)。
- ・ レストランで店員が扉を開けたままにしてくれた。
- ・ 買い物をしたとき、レジの人が心配りをしてくれる。(60代女性、精神)
- ・ 買い物のとき、セルフなのに袋に入れてくれたとき。(片手まひの為、助かった。)(40代女性、身体)
- ・ 買い物のとき、色や特徴、値段など教えてくれたり、使い勝手などきいてくれる。(40代女性、身体・難病)
- ・ 公共の場で息子が混乱しているとき、「何かお手伝いできることありませんか?」と声をかけていただき、まわりに散乱してしまった物(息子が投げた物)を拾ってくれたこと。(19歳以下男性、知的・発達)

<交通機関を利用する際に>

- ・ 電車で席をゆずってもらったとき。(50代男性、身体・難病)
- ・ 電車等、乗車中、人から「大丈夫ですか」と声を掛けてもらったとき。(40代男性、難病)
- ・ 公共の乗り物や場所で困っていたときに助けられたことがあります。(20代男性、知的・発達)
- ・ ヘルプカードのお陰で席をゆずってもらった。(60代女性、身体)
- ・ バスの乗車を断られたとき、乗客の方々が乗れるように手助けしてくれました。三鷹の駅員さんに、「どんどん出掛けて下さいよ、いつでもお手伝いしますから」と言っていたこともあります。(40代女性、身体・難病)

<医療機関を利用する際に>

- ・ かかりつけ医師の対応が非常に気持ち良くて、健康面で気づかいや思いやりがあった。(50代男性、精神)

- ・ かかりつけの精神科医が、うまく言葉を選んで話してくれる。(40代女性、精神)
- ・ 薬局の薬剤師さんが、服用している薬が他の薬との飲み合わせが難しいものなので、よく気をつけて調べて下さること。(50代女性、身体)
- ・ 病院の待ち合いなど席をゆずってもらえたり、辛いときなど声をかけてもらったり精神的に救われました。(50代女性、難病)
- ・ お医者さんが私の言葉を誠実に受けとめてくれて、医療を提供してくれる。(40代女性、精神)
- ・ 入院先では看護師、看護助手さんが根気強く、話を否定したりせず話を聞いてくれる。外来通院では活動療法科の臨床心理士、作業療法士の方が困り事や心理療法を通じて相談に乗ってくれる。(30代女性、精神)
- ・ 会話をゆっくり、はっきり口を開けてしてくれる病院で、丁寧にメモ書きして説明してくれる。(60代女性、身体)
- ・ 生保はひとりの人間としての権利だから、堂々としていていいんですよとドクターに助言されたとき。(50代女性、精神)

<学校の場合>

- ・ 子どもの小学校にエレベーターがないので、学校公開時、先生達が運んでくれた。まわりのお父さんやお母さんも手伝ってくれました。(40代男性、身体)

<就労・職場の場合>

- ・ 仕事場での時間等の調整をしてくれていること。(50代男性、身体)
- ・ 前の職場の同僚、上司は、無理しないでいいから働いて欲しいと言ってくれたし、カバーもしてくれた。(30代女性、精神)
- ・ 職場で、言いたいことを聞いてくれること。(40代女性、精神)
- ・ 症状が悪化した時に休むことができる環境の職場、スタッフ。(20代女性、難病)
- ・ 体調が悪いときに休息をとるように配慮いただいたとき。(20代男性、難病)
- ・ 歩行困難で通勤が大変になったとき、産業医のカウンセラーを受けさせてくれて、時短の提案をしてくれて、今も勤めていられる。(50代男性、身体・難病)
- ・ 職場で一緒に働く人から、重い物を運ぶ際には大丈夫？などと声をかけてもらい、本当に持てない物についてはその方が運んでくれました。(20代女性、身体)
- ・ 会社内で、作業室や居室のレイアウトが変わり環境が良くなったと感じました。(20代女性、知的)
- ・ 仕事で派遣先とトラブルを起こした際、会社から、解雇ではなく配置転換で対応してもらえた。(20代男性、精神)

<公共施設等で>

- ・ 補聴器を見て、大きい声で言ってくれる。(40代女性、身体)
- ・ 「耳きこえない」と身ぶりで表わしたら、すぐメモで筆談対応したり、笑顔で対応してくれた。(40代女性、身体)
- ・ 生活保護の相談を受けるとき、思いやりのある対応をされました。(30代男性、精神)
- ・ ケースワーカーの方の親切な対応がうれしいことがあった。(60代男性、精神・発達)
- ・ 市役所に更新の手続きに行ったとき、ゆっくり、聞きとりやすくソフトに対応してくれた。(50代女性、精神)

＜家族・友人の対応から＞

- ・ 夫は私の障害を気づかい、掃除、洗たく、病院などの送迎を積極的に対応してくれる。家庭生活の中でさりげなくフォローをしてくれている。(60代女性、身体)
- ・ 本当の事を伝えると、友人から、手伝えることがあったら何でも言ってねと言われたこと。嬉しかった。(60代女性、精神)
- ・ 友人が理解してくれ、いつも遊んだり会ったりしてくれる。(20代女性、精神)

＜その他＞

- ・ 市役所(60代男性、身体・難病)
- ・ ゆーあい、かけはしのスタッフの方(40代男性、精神)
- ・ ケアマネージャー、デイケアの人の気づかいがすばらしい。(60代男性、精神)
- ・ 工場の職員のスタッフが優しくしてくれた。例えば、夏の暑い時期、7月の真っ只中ポスティング行くときにドライタオルを首に巻いてくれたりしたことです。(30代男性、精神)
- ・ ほっぷの相談員の人から、はじめて自分の苦勞している気持を理解してもえたときはうれしかった。(30代男性、精神)
- ・ 就労移行支援センター、ウェルビー三鷹センター内を利用していたが、その中で、スタッフさんたちが私の話を親身になって聞いてくれ、支援してくれたことが、本当にありがたいと同時に嬉しかった。(30代男性、精神)
- ・ ハンディキャブ福祉有償運送のドライバー運転手さんの言葉かけ。(30代男性、身体・難病)
- ・ 障害者とわかってても、語りかけてくれる。(30代女性、身体・知的)
- ・ 事実をありのままに理解し、受け止めてくれる場合(いつでも)。(20代男性、精神・難病)
- ・ 優しい口調、態度で接してくれたとき。(30代男性、精神)
- ・ 色々な支援者が集まり、カンファレンスをやってくれ、精神病院を退院できた。(60代男性、精神)
- ・ 体調が悪いとき、家族からサポートを受けると思いやりを感じる。(30代女性、精神)

ウ 成年後見制度の認知状況

問 44 成年後見制度とは、知的障がいや精神障がいなどの理由により、判断能力が十分でない方の財産などの権利を守る制度です。あなたは、成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

成年後見制度について「名前も内容も知っている」人は 30.9%で、28.6%は「名前も内容も知らない」と回答している。

障がいの種類別にみると、「名前も内容も知っている」人の割合は、知的障がいでは 25.8%、精神障がいでは 27.3%である。

＜成年後見制度の認知状況＞

(%)

	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
対象者全員 n=797	30.9	35.5	28.6	5.0

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	名前も内容も知っている	名前を聞いたことはあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
身体障がい	n=294	36.7	34.0	22.4	6.8
知的障がい	n=124	25.8	39.5	28.2	6.5
精神障がい	n=308	27.3	35.4	33.4	3.9
難病	n=138	37.0	36.2	23.2	3.6
発達障がい	n=79	34.2	34.2	29.1	2.5
高次脳機能障がい	n=16	31.3	37.5	25.0	6.3
無回答	n=26	26.9	19.2	42.3	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

エ 成年後見制度の利用意向

問 45 あなた(あて名の方)は、成年後見制度を活用したいと思いますか。(○は1つ)

成年後見制度の活用意向については、36.5%が「わからない」と回答しているが、35.5%は「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」と回答している。

障がいの種類別にみると、知的障がいでは約半数の人が「今は必要ないが、将来必要になったら活用したい」(49.2%)と回答しており、「活用したいとは思わない」は1割未満(7.3%)にとどまっている。

＜成年後見制度の利用意向＞

(%)

	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用したい	活用したいとは思わない	わからない	無回答
対象者全員 n=797	2.0	35.5	21.3	36.5	4.6

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	すでに活用している	今は必要ないが、将来必要になったら活用したい	活用したいとは思わない	わからない	無回答
身体障がい	n=294	1.4	34.4	26.5	31.0	6.8
知的障がい	n=124	4.8	49.2	7.3	34.7	4.0
精神障がい	n=308	1.9	35.4	18.8	40.3	3.6
難病	n=138	0.7	26.1	30.4	38.4	4.3
発達障がい	n=79	1.3	57.0	10.1	29.1	2.5
高次脳機能障がい	n=16	—	37.5	18.8	37.5	6.3
無回答	n=26	7.7	26.9	15.4	38.5	11.5

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

(13) 将来の希望等について

ア 今後、希望する暮らし方

問 46 あなた(あて名の方)は、今後、どのような暮らしをしたいですか。(〇は1つ)

今後、希望する暮らし方としては、約半数の人が「家族といっしょに暮らしたい」(50.7%)と回答している。障がいの種類別にみると、知的障がいでは25.0%が「グループホームなどで暮らしたい」と回答している。

<今後、希望する暮らし方> (%)

	家族といっしょに暮らしたい	グループホームなどで暮らしたい	障がいのある人が入所する施設などで暮らしたい	結婚して家庭をつくって暮らしたい	アパートなどで一人で暮らしたい	その他	無回答
対象者全員 n=797	50.7	6.1	3.0	14.3	12.4	7.2	6.3

【障がいの種類別集計】

障がいの種類	n	家族といっしょに暮らしたい	グループホームなどで暮らしたい	障がいのある人が入所する施設などで暮らしたい	結婚して家庭をつくって暮らしたい	アパートなどで一人で暮らしたい	その他	無回答
身体障がい	n=294	55.8	5.4	3.7	9.5	11.9	6.5	7.1
知的障がい	n=124	48.4	25.0	8.9	4.8	4.8	4.0	4.0
精神障がい	n=308	40.6	3.6	2.9	20.8	17.9	8.8	5.5
難病	n=138	65.2	—	2.2	14.5	6.5	6.5	5.1
発達障がい	n=79	51.9	13.9	3.8	12.7	7.6	6.3	3.8
高次脳機能障がい	n=16	50.0	—	6.3	18.8	6.3	12.5	6.3
無回答	n=26	46.2	3.8	—	11.5	7.7	3.8	26.9

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

年齢別にみると、20代の28.3%、30代の27.2%は「結婚して家庭をつくって暮らしたい」と回答している。また、20代では「グループホームなどで暮らしたい」の割合が15.2%と、他の年代に比べて高い。

<今後、希望する暮らし方/年齢別> (%)

年齢	n	家族といっしょに暮らしたい	グループホームなどで暮らしたい	障がいのある人が入所する施設などで暮らしたい	結婚して家庭をつくって暮らしたい	アパートなどで一人で暮らしたい	その他	無回答
19歳以下	n=12	66.7	8.3	8.3	8.3	8.3	—	—
20代	n=92	33.7	15.2	2.2	28.3	10.9	5.4	4.3
30代	n=136	47.1	3.7	2.9	27.2	9.6	6.6	2.9
40代	n=211	52.6	5.2	2.4	12.8	12.3	9.5	5.2
50代	n=186	53.2	7.0	4.3	8.6	14.0	7.0	5.9
60歳以上	n=140	57.9	2.9	2.9	3.6	14.3	7.1	11.4
無回答	n=20	50.0	5.0	—	10.0	15.0	—	20.0

本調査の回答者別にみると、本人が回答できず別の人が回答した場合では、本人が回答した場合に比べて「グループホームなどで暮らしたい」(18.9%)や「障がいのある人が入所する施設などで暮らしたい」(12.2%)という回答割合が高くなっている。

<今後、希望する暮らし方/回答者別> (%)

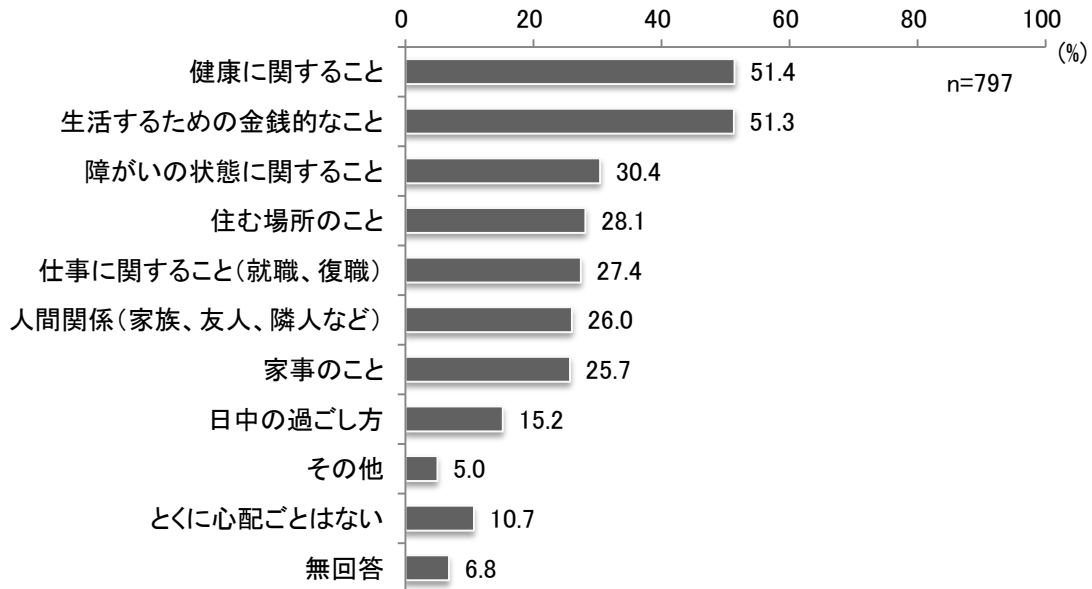
回答者	n	家族といっしょに暮らしたい	グループホームなどで暮らしたい	障がいのある人が入所する施設などで暮らしたい	結婚して家庭をつくって暮らしたい	アパートなどで一人で暮らしたい	その他	無回答
あて名の方ご本人様が、記入した	n=487	50.3	3.9	1.4	16.4	15.8	7.4	4.7
あて名の方から回答を聞いて、別の方が代筆した	n=67	49.3	13.4	4.5	9.0	4.5	13.4	6.0
あて名の方が回答できないので、別の方が回答した	n=74	51.4	18.9	12.2	4.1	—	6.8	6.8
無回答	n=169	52.1	4.1	3.0	14.8	11.2	4.1	10.7

イ 希望する暮らしをする際に心配なこと

副問 46-1 問 46 のような暮らしをするには、どのようなことが心配ですか。(○はいくつでも)

希望する暮らしをする際に心配なこととしては、「健康に関すること」(51.4%)と「生活するための金銭的なこと」(51.3%)をあげる人がそれぞれ約5割と特に多くなっている。

＜希望する暮らしをする際に心配なこと＞



障がいの種類別にみると、精神障がいでは「生活するための金銭的なこと」(62.3%)が、難病では「健康に関すること」(58.0%)をあげる人の割合が、それぞれ他の障がいに比べて高くなっている。

＜希望する暮らしをする際に心配なこと／障がいの種類別＞

(%)

	健康に関すること	生活するための金銭的なこと	障がいの状態に関すること	住む場所のこと	仕事に関すること(就職、復職)	人間関係(家族、友人、隣人など)
身体障がい n=294	51.7	45.6	32.3	28.2	20.4	19.0
知的障がい n=124	53.2	46.0	29.8	36.3	25.8	36.3
精神障がい n=308	47.4	62.3	36.7	29.2	37.0	33.4
難病 n=138	58.0	42.0	19.6	20.3	19.6	14.5
発達障がい n=79	36.7	55.7	34.2	41.8	36.7	35.4
高次脳機能障がい n=16	56.3	43.8	56.3	12.5	25.0	18.8
無回答 n=26	38.5	42.3	11.5	34.6	19.2	19.2

	家事のこと	日中の過ごし方	その他	とくに心配ごとはない	無回答
身体障がい n=294	22.1	12.6	5.1	10.5	6.5
知的障がい n=124	44.4	26.6	6.5	5.6	4.8
精神障がい n=308	29.9	20.5	6.2	8.8	7.5
難病 n=138	15.2	4.3	4.3	17.4	3.6
発達障がい n=79	45.6	27.8	6.3	5.1	5.1
高次脳機能障がい n=16	12.5	25.0	—	—	6.3
無回答 n=26	15.4	11.5	—	7.7	23.1

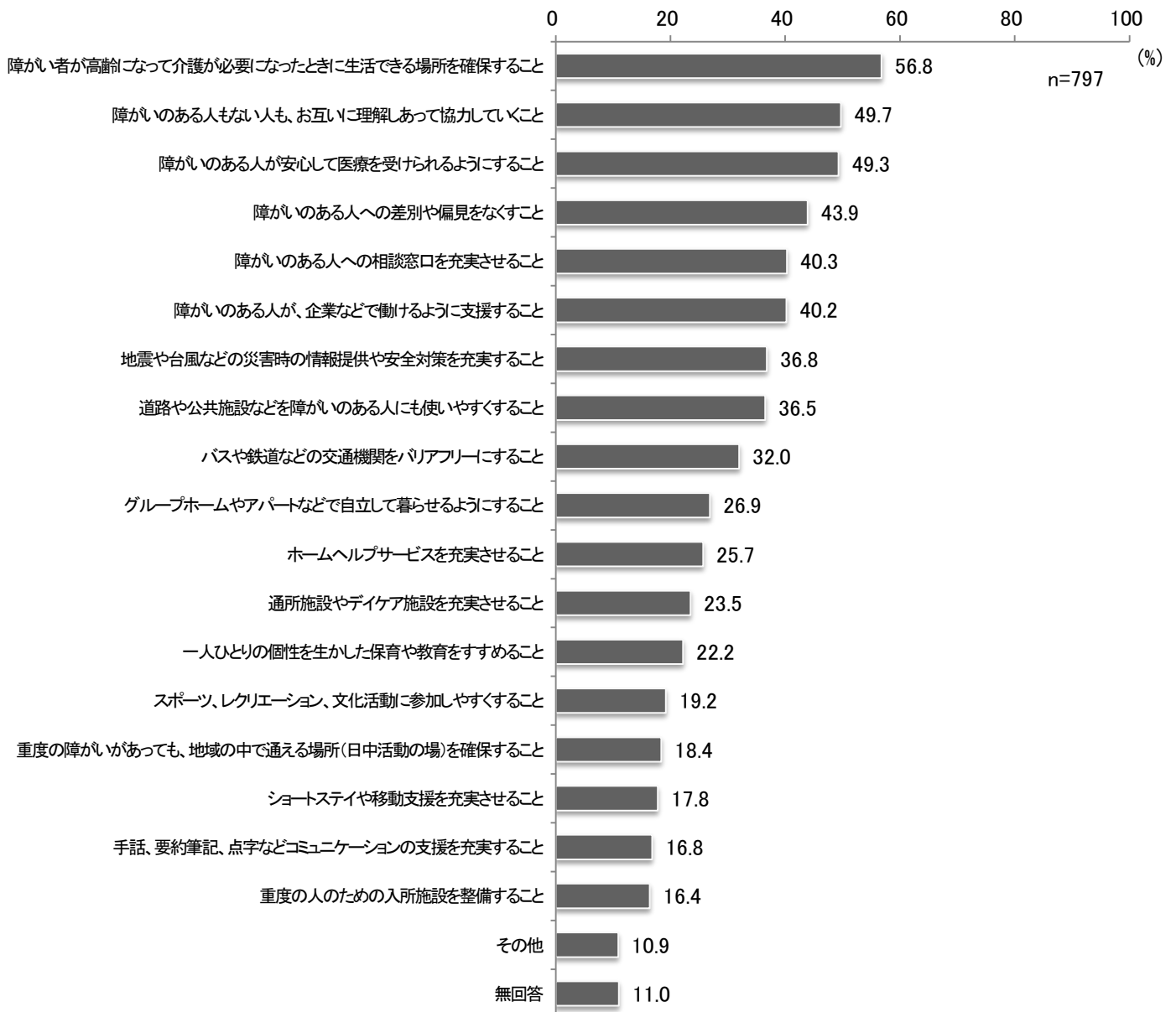
※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

ウ 今後、市に重点的に進めてほしい課題

問 47 障がいのある方への取り組みとして、今後、三鷹市に重点的にすすめてほしい課題はどれですか。
(〇はいくつでも)

市に重点的に進めてほしい課題としては、「障がい者が高齢になって介護が必要になったときに生活できる場所を確保すること」をあげる人が 56.8%と最も多く、次いで「障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと」(49.7%)、「障がいのある人が安心して医療を受けられるようにすること」(49.3%)と続いている。

<今後、市に重点的に進めてほしい課題>



障がいの種類別にみると、精神障がいでは「障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと」をあげる人が 53.2%と最も多く、「障がいのある人が、企業などで働けるように支援すること」(44.5%)が5番目にあげられている。また、知的障がいと精神障がいでは「障がいのある人への差別や偏見をなくすこと」をあげる人がそれぞれ4番目(知的障がい53.2%)、3番目(精神障がい49.7%)にあげられていることが特徴的である。

＜今後、市に重点的に進めてほしい課題／障がいの種類別(上位5項目)＞ (%)

	1位	2位	3位	4位	5位
身体障がい n=294	障がい者が高齢になって介護が必要になったときに生活できる場所を確保すること	障がいのある人が安心して医療を受けられるようにすること	障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと	道路や公共施設などを障がいのある人にも使いやすくすること	バスや鉄道などの交通機関をバリアフリーにすること
	61.6	48.6	47.3	46.9	40.8
知的障がい n=124	障がい者が高齢になって介護が必要になったときに生活できる場所を確保すること	障がいのある人が安心して医療を受けられるようにすること	障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと	障がいのある人への差別や偏見をなくすこと	障がいのある人への相談窓口を充実させること
	70.2	62.1	55.6	53.2	52.4
精神障がい n=308	障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと	障がい者が高齢になって介護が必要になったときに生活できる場所を確保すること	障がいのある人への差別や偏見をなくすこと	障がいのある人が安心して医療を受けられるようにすること	障がいのある人が、企業などで働けるように支援すること
	53.2	50.6	49.7	47.4	44.5
難病 n=138	障がい者が高齢になって介護が必要になったときに生活できる場所を確保すること	障がいのある人が安心して医療を受けられるようにすること	道路や公共施設などを障がいのある人にも使いやすくすること	バスや鉄道などの交通機関をバリアフリーにすること	障がいのある人もない人も、お互いに理解しあって協力していくこと
	54.3	53.6	49.3	42.8	41.3

※ 重複障がいの場合は、それぞれにカウント

「その他」としては、具体的に以下のような記入があった。

＜福祉サービスの充実について＞

- ・ 急用が入ってもショートは予約で人材もないし入れないことが多い。(女性 20 代、身体・知的・発達)
- ・ 軽度の人であっても受けられるサービス・施設等の充実。(20 代女性、精神・発達)

＜利用施設の充実について＞

- ・ 比較的若いうちに障害を持った場合でも、同年代が集まる施設を整備してほしい。(50 代女性、身体・高次)
- ・ 障害レベルが軽い人向けのケア施設を充実させてほしい。(40 代女性、精神)
- ・ 軽度身体障害者の為のグループホームの創設。(30 代男性、身体・精神・発達・高次)
- ・ 知的障害者用グループホームをつかってほしい。(20 代女性、知的)
- ・ グループホームを増してほしい。(住み慣れた地域で)(20 代男性、知的・発達)
- ・ 介護保険を利用して入所していても、地域の中で通える場がほしい。(50 代女性、身体・精神)

＜金銭的な支援の充実について＞

- ・ 手当の充実をお願い致します。(30代男性、身体)
- ・ 障がい＝貧困となりがち。金銭面での支えがより必要だと思う。(40代女性、精神)
- ・ 最低限ゆとりも持てる生活環境を整える為の金銭的な援助はもう少し考えてほしい。(60代女性、身体)
- ・ 補助金の充実をはかってほしい。(40代男性、精神・発達)
- ・ 医療費助成の拡大。(30代男性、身体・難病)
- ・ 税金をもっと減らしてほしい。(40代男性、身体)

<情報提供の充実について>

- ・ サービスの種類、内容、適用範囲をわかりやすく案内してほしい。(50代女性、身体)
- ・ 障害者へどんなサービスがあるかもっと積極的に公開して欲しいです。(30代女性、精神)
- ・ いろいろな、せつめいをわかりやすくしてほしい。(50代女性、知的)
- ・ じょうほうが伝わってこない。全然わからない。(20代女性、精神)
- ・ 障がいのある方達に親切な医療機関を公表してほしい。(50代女性、身体)
- ・ 聞こえないのでTELの使用ができない。聴覚障害への生活に関する補助が何があるのか知りたい。(40代女性、身体)
- ・ 回復に役立つ講座やワークショップ・カウンセラーの紹介。(40代女性、精神)

<相談体制の充実について>

- ・ 発達障がい(成人)に対応してくれる相談機関がないので作ってほしい。(40代女性、精神・発達)
- ・ 近所の人が相談相手となると秘密が守れない。(60代男性、精神)
- ・ 障害レベルが軽い人向けの相談窓口を充実させてほしい。(40代女性、精神)
- ・ 相談などの電話も土、日、祝関係なくやってほしい。(30代女性、精神・発達)
- ・ 相談窓口で電話をした際、もっと親身になって答えてほしい。(19歳以下男性、知的・発達)
- ・ 市役所へ行かなくても、ネット等で相談できる窓口がほしい。(40代女性、身体)

<保護者・介護者への支援について>

- ・ 介護で離職する事がないように、介護者側にも利用できるサービスの提供と情報が伝わりやすいこと。(40代男性、身体)
- ・ 障害者の家族をケアしてくれるシステムができてくれたら本当に有り難く思います。(30代女性、精神)
- ・ パートナーが大変そうなので家族会があればと思う。(40代女性、精神)

<生活環境の整備について>

- ・ とても歩きにくい歩道を平らにしてほしいです。車いすの方やお年寄りの方がとても歩きにくい。(30代女性、難病)
- ・ エスカレーターが左側に立つようになっているが、いつも右手で手すりにつかまれなく(左手が使えないため)大変不便ですし、危険です。右側にも立てるようにしてほしいです。(30代女性、身体・知的)
- ・ 新宿駅のように大きな駅の総武線三鷹行きのホームへは、階段しかなくて困難です。(50代女性、身体)

<居住環境の整備について>

- ・ 公営住宅に入りやすいようにしてほしい。そして家賃の免減をしてほしい。(30代男性、精神)

<就労環境の整備について>

- ・ 仕事につくためのサポート。(40代女性、精神)

- ・ 仕事場から、パワハラや、差別が、なくなるように介入してほしい。(30代男性、難病)
- ・ 1日4回薬をのんでいて眠気とだるさで寝たきりになっている。幻聴がひどいが、働く場所はあるか。(40代女性、精神)
- ・ 身体は健康なのに精神が病んでいる場合、役所にも企業にも一般にも理解されづらい。対人恐怖症の人にも利用しやすいネット環境、就労場所の確保も考えてほしい。(30代女性、精神)
- ・ 精神病を患ってからの、再就職がどうやって進めていくか、サポートを受けたいが、どうしていいかわかりません。そういった機関を作っていただくか、案内していただきたいです。(30代男性、精神)

<災害時対応の充実について>

- ・ 災害時の薬の供給が早く届くよう段取りしておいていただきたい。自分でも備蓄はしているが長期間になると底をついてしまうので。(20代女性、難病)

<差別や偏見の解消、理解の促進に向けて>

- ・ 区別→差別になる見方を変える考え方をかえるやっかいもの扱いしない。(50代女性、精神)
- ・ 差別や偏見を無くすこと。(50代男性、精神)
- ・ 障がい種別に理解してもらうこと。(40代女性、身体)
- ・ 学校教育で障がいの教育を行い(ビデオとか)知識を与えてほしい。知ることにより、身近に感じることにより、差別や偏見は減っていくと思われる。(30代男性、精神)
- ・ 小学生・中学生・高校生・大学生などにボランティアを体験して、理解を深めてほしい。(50代男性、身体・難病)
- ・ 一見してわからない内臓系の障害なので全て障害者サービスにあてはまらない。見た目ではわからない事を、理解してもらえる活動を希望する。(30代女性、身体・難病)
- ・ 言葉、文章等うまく表現できず誤解されやすいので、本人の気持ちよく聞いてほしい。一番困る事がうまく表現できないため、だまってしまうので気長く聞いてほしい。(50代男性、知的・発達)
- ・ 大学の生徒と時間が重なり優先座席にも座られていて、席が空いていない事が多い。生徒で健康な人には優先座席だけでも空けて欲しいと思う。ヘルプカードの事を広める活動もして頂きたい。(30代女性、難病)
- ・ 障害者本人の困り事に際しては、視線を、同じにして気持ちに、共感して欲しい。(40代女性、精神・発達)

<共生社会の実現に向けて>

- ・ 障がいのある人を中心に健常者は不便でもあたり前と思える社会。(50代男性、精神)
- ・ 学校でも社会でも、子どもの世界でも大人の世界でもはびこっている“横並び”“同調圧力”の打破。(30代男性、精神・発達)
- ・ 障がいの有無にかかわらず、思いやりのある社会になってほしい。(50代女性、身体)
- ・ 社会に馴染めるようになりたい。社会から、うとまれる存在がいやです。(40代女性、精神)
- ・ 手話や点字を障害がある人ない人問わず学べる場所を設置する。(40代女性、身体・難病)
- ・ いつまでも社会の一員である事を忘れないでいてほしい。(20代男性、身体・知的)

<その他>

- ・ 国と都と市のすることの役割分担をすると良いと思う。(40代男性、身体)
- ・ 障がいのある人が地域でしあわせに暮らし続けられるように福祉を充実させてほしい。(20代男性、知

的・発達)

- ・ 通所作業所などの職員の方の人としてのレベルアップ。(50代男性、身体・高次)
- ・ 市議会議員さん方も障害者の中に入って見てもらう機会がもっとあればいいです。(50代男性、身体・高次)
- ・ 地域で自分を担当して支援をしてくれる方がいるなら、事前にその方とコミュニケーションを取っておきたい。支援を受ける時が初対面では気を使い遠慮してしまって支援をお願いしにくい。(60代女性、身体)
- ・ 一人暮らしの障がいのある人へのサポート支援を充実させること。(40代男性、知的)
- ・ 一人でも生活出来る環境にして欲しい。(60代女性、難病)
- ・ 障がいがあっても、それなりに楽しめるような居場所づくりやレクリエーションの場と指導者の養成。(40代男性、知的・発達)
- ・ 障がい者に“生きる楽しみ”や“生きる価値”、“やりがい”を感じさせるような施策。(40代男性、身体)
- ・ 精神分野は差別する人が多いので、同じ悩みをもつ人達との交流の場が欲しい(無料で)(20代女性、精神)
- ・ 障害のある人が結婚して家族を持てるようにしてほしい。(40代男性、精神)

(14) 意見・要望等

調査の終わりにあたり、市の政策や生活ニーズについての意見・要望についての自由記入欄を設けたところ、数多くの意見・要望が寄せられた。内容はきわめて多岐にわたっており、本報告書では紙面の都合上すべてを掲載することはできないが、その一部を紹介することとする。掲載にあたっては、特に多くの方から寄せられた意見・要望や、調査票の設問からは浮き彫りにされにくい課題・問題点を中心に、より代表性・具体性のある意見・要望を、できる限り原文に近い表記で紹介するように心がけた。

<環境整備に関すること>

- ・ バリアフリーの店舗が少なく(段差、トイレ、通路、スペース)、買い物や外出に行ける場所が限られている。市から補助を出すなどして、店舗の改築を促進して欲しい。(50代女性、身体・高次)
- ・ 人見街道の歩道がせますぎる。たまに白杖の人が歩いているが、人通りも多く僕だったら怖くて歩けない。(30代男性、精神)
- ・ 駐車場から建物に入る導線などを短くて済む(あまり歩けないので)よう考えてほしい。(50代女性、身体・難病)
- ・ 歩道の段差を低くしてほしい。公衆トイレを増やしてほしい。(50代男性、知的・精神)
- ・ 夜間の自転車の無灯火運転を厳しく取り締まってほしいです。特に無灯火の人は、運転も乱暴(すつとばす)。こちらは弱い視力で、どきどきしながら歩いているのに、本当に恐いです。(20代女性、身体・難病)

<相談に関すること>

- ・ 気軽に相談したりする場所がない。ヘルパーさんを利用しているのでそこで聞くことも多く、市役所に行っても窓口で最小限のことしか聞けない。(20代女性、身体・知的・発達)
- ・ 市役所に相談に行っても、気持ちの良い対応で的確にアドバイスもしてくれる。(60代女性、身体)
- ・ 急に具合が悪くなったときの移動手段や、日中過せる所、家事のお手伝い、仕事をするなど、どこに相談したら良いのかもわからず、困っています。(30代女性、身体)
- ・ 窓口のカウンターがオープン過ぎるので社会保険事務所の様な仕切板を取付けてあると良いと思います。(60代女性、精神)
- ・ 体調も悪くなりがちで市役所に行くことができない。ネット窓口で相談できる形になると非常に助かります。(40代女性、身体)
- ・ 役所や施設に行く機会が取れない人向けにPC、スマートフォンなどで相談できるネットサービスの充実。(40代男性、身体)
- ・ 電話の相談事では無理なんじゃないかな。私が市役所に出むくのが大変なんです。(50代男性、身体)

<手続きに関すること>

- ・ 老眼のため字が読めません。手続きの書類などは再度、書いたりしないで済む手続きをして下さい。(男性、身体・知的・難病)
- ・ 市役所からの郵送対応を増やしてほしい。平日は取りに行けない。土日もなかなか時間はとれません。(30代女性、難病)
- ・ 支給認定の手続きを市政窓口でもできるようにしてほしい。更新時の診断書提出の費用負担が重い。現行の2年に一度を3~5年程度にしてもらいたい。(40代女性、精神)
- ・ 市役所の職員の方はいつもていねいに分かりやすく対応していただいととても助かります。(30代女性、精

神)

- ・ 歩行が不自由で車を利用している方の駐車代請求方法については、仕事で窓口の時間に出向くのが大変難しいです。(50代女性、難病)
- ・ 福祉の補装具(義手など)を申請する際に、都度、判定機関に指定された平日に仕事を休んで伺う必要があります。ネットや休日サービスを検討いただきたい。(40代男性、身体)
- ・ 自立支援医療の認定期間が1ヶ月のため、その都度市の窓口で申請書を受け取り、2年に1度、診断書を添え、申請に行かなくてはならない。医療機関で交付してもらえるのなら、市の窓口で1度行けば終わるのに。(60代女性、精神)
- ・ 体調が悪くても申請しなければならないことが多く、もっと医療機関などにかかりやすい手続きの援助や簡便化を諮ってほしい。(60代女性、身体)

<情報提供に関すること>

- ・ 様々な事情により情報入手が困難な人や助けを求められない人への福祉情報提供に力を入れてほしい。(20代男性、精神)
- ・ こちらが聞く前にいろいろな、サービス、援助があることを伝えてほしい。(50代男性、身体)
- ・ 誰でも同じ情報が、こちらが動かなくても知ることができるようにして下さい。(50代女性、身体)
- ・ 自分に必要な情報だけがのっている冊子や紙があるとありがたい。(20代女性、身体)
- ・ 障がい者が受けることのできるサービスや制度を、多くの人が見ることのできる機関などで、情報として得ることができれば良いと思います。(30代女性、精神・発達)
- ・ 市の政策についての情報入手の方法が少なすぎる。市報以外のモノがほしい。(40代男性)
- ・ 三鷹安全安心メールの様に、福祉に関するメール情報を配信してほしい。(50代男性、身体・難病)
- ・ 聴覚障がい者は耳からの情報入手、連絡等は無理なので連絡、問い合わせ等ぜひ全面的にメールでのやり取り方法を取り入れていただきたい。(60代女性、身体)
- ・ カタカナ語を日本語で伝えてほしい。(30代男性、身体・難病)
- ・ 障害者の施設やアンテナショップ等があるのはとても良いですが、もっとそれらの宣伝をして欲しいです。(40代女性、身体・難病)

<各種サービスに関すること>

- ・ 高次脳機能障害で言語、記憶に障害があるが知的障害も含んでいる。家で住み続けたいとの強い希望を持っており、その実現のためにはホームヘルプサービス、生活の支援、指導をして下さる方がぜひ必要。(30代男性、身体・知的・精神・高次)
- ・ 要介護2の母と精神障害の姪と弟と暮らし、透析をしながら仕事と家事をこなしているが、兄弟は家の事をやらず、母や姪は家事ができない。しかし「一人暮らしではない」との理由でヘルパーを利用できない。(50代女性、身体)
- ・ ショートステイを重点的に使いやすくしてほしい。一部の人達だけが利用している状況と聞く。(20代男性、身体・知的)
- ・ 家族に急用が出来た時に1～3泊できる場所があれば、家族共と普通に近い全体的な生活ができるのではないかと思います。(30代男性、身体・難病)
- ・ 移動支援をもっと使用したいけどガイドヘルパーが足りないといってことわれることが多い。(30代男性、知的・発達)
- ・ 通院する機会が多く、車椅子使用のためタクシー移動が多い。タクシー券の支給が少なく、困っている。

(50代女性、身体)

- ・ カウンセリングは保険がきかず、高額なので市で補助があったら利用したい。(30代女性、精神)
- ・ 脳梗塞の後遺症で左半身麻痺が強く、デイケアに通っているが、理学療法士、作業療法士の訓練をもっと受けたいと思います。病気の後遺症改善のためのリハビリにも、力を注いでほしいと思います。(50代男性、身体・高次)

<施設の整備に関すること>

- ・ 重度の障がい者やその家族にも安心して将来を見据えられる様な入所施設作りを真剣に考えてほしい。(30代男性、知的・発達)
- ・ 車いす利用者、肢体不自由者の利用できるグループホームを作してほしいです。(20代男性、身体・発達)
- ・ 知的障害者のための施設を充実してほしい。作業所・グループホーム・入所施設・高齢者用入所施設等。(20代女性、知的)
- ・ 若年性認知症の人が日中に(専門の方の)ケア(指導)もあり、安心して過ごせる施設があるとうれしい。(60代男性、精神)
- ・ 休日、祭日もデイケアで受け入れてもらえる場所がほしい。(60代男性、精神)

<経済的な援助に関すること>

- ・ 収入が少ないので、補助金の充実をお願いしたい。(40代男性、精神・発達)
- ・ 自立支援医療費(精神通院)支給認定受給者証交付者もバス、電車等の料金半額を受けられると通院面や買い物等で非常に助かります。(50代女性、精神)
- ・ 身体障害5級も手当が出るようにしてほしい。(50代男性、身体)
- ・ 自立支援や年金などの更新のときの診断書が高いので、金銭面でも支援して欲しい。(50代女性、精神)
- ・ 金銭的にも大変厳しいです。せめて医療費全体の見直しをはかってもらいたいです。(30代女性、精神・発達)

<教育に関すること>

- ・ 地域で生きていくために知って下さる方をふやすためにも、義務教育(中学)までは市内で受けられるようにしていただきたいと思います。(19歳以下男性、知的)

<就労に関すること>

- ・ 企業で働くことも大切だが、公共(市役所など)で働く場を研修してほしい。(30代女性、精神)
- ・ 私は20年にわたる職歴があるが、支援者から福祉的就労を勧められる。障がい者であるというだけで職種が限られるのはおかしいと思う。(40代女性、精神)
- ・ 就労支援スタッフの支援技術レベルアップを向上して欲しい。(40代女性、精神・発達)
- ・ 就労支援センター、ハローワークは相談の窓口だけでなく、就労先を増やすために企業に営業に行くべきと考えます。(20代男性、知的・発達)
- ・ 「むうぷ」のような、自立支援の仕事場(居場所)をもっとたくさん作ってほしい。私は「むうぷ」へ一年行くことによって、体力、気力、仕事への意欲を回復することができました。(60代女性、精神・難病・高次)
- ・ 障害者への就労支援が中途半端です。もっと安心して長く支援してくれる施設がほしいです。(30代女性、身体・知的)
- ・ 特定疾患手当受給者である私にとっては利用できるサービスはほとんどなく、就職の面でも相談できる窓

口が少なく苦勞しています。(30代女性、難病)

- ・うつ病患者に対する就業場所の紹介、面接時に企業側へ精神患者であることへの理解、同意の上での採用を証明する書類の作成、採用条件に通院が理由にならないことの記載を義務化。(30代女性、精神)
- ・病気があるために仕事を変えることができない。次の仕事場が病気を理解してくれるかどうか不安で、同じ仕事場で働いている。しかし、現在の職場はパワハラや差別で、とても病状を安定させておける状態ではない。誰に助けをもとめていいかわかりません。(30代男性、難病)

<障がいに対する理解や権利擁護に関すること>

- ・障がい者の人権と尊厳を十分に保障する、市政を今後とも行ってください。(40代男性、精神)
- ・一般の人達にも障がい者の事をもっと理解してもらえるように交流の場をひろげていく事が大切だと思う。(50代男性、身体)
- ・「共生」に向けた市政運営は、市職員の意識向上がまず第一歩であると思います。(30代女性、身体・知的)
- ・発達障害は見た目では全く分からない障害です。早急に発達障害者への手帳の整備を心より思います。(30代男性、精神・発達)
- ・さべつしたまわりの人たちをどうかしてください。わるぐちばかりいわないでください。(30代女性、精神)
- ・バスを息子とよく利用するが、時々困ることがあります。私は身障者1級1種で、付き添いも運賃が半額と説明を受けたが、時々「介助の証明書を見せて下さい」とか、「小学生は付き添い＝介助にならないので、運賃は半額にはならない」などと言われます。その度に嫌な思いをします。どうしたらよいですか。(40代女性、身体)

<非常時、緊急時の対策に関すること>

- ・具合が悪くなったときに、すぐに医療機関に連れて行ってほしい(緊急性がなくても)。現在では救急車に頼るしかない。(60代女性、身体)

<将来の不安などに関すること>

- ・親なき後も安心できる様な政策をとってほしい(親も子も安心できる)。(30代男性、知的)
- ・高齢になった家族も安心して死んで行けるよう、障がい者が地域で暮らして行ける道筋を確立してほしい。(40代男性、知的・発達)

<家族・介護者への支援に関すること>

- ・障がい者本人の支援も大切ですが、家族支援も必要です。同じ障がい児を持つ先輩保護者からのアドバイスや寄り添いがあると心が晴れて本当に必要な情報も得られ、がんばれます。(19歳以下男性、知的・発達)
- ・障がい者本人だけでなく、家族構成に合わせたサービスがあるとうれしいです。(40代女性、身体・難病)

<スポーツ施設等の利用に関すること>

- ・障がい児向けのスポーツ教室はあるけれど、障がい者向けのスポーツ教室がない。運動をさせたいと思っても、なかなかないので残念です。ひとりで行ける場所でもう少し普段、スポーツをさせたい。(20代男性、知的・発達)
- ・三鷹市のプールに障害者用ロッカー(個室)があると助かります。一人で着替えが難しいため。(30代男性、身体・知的)
- ・三鷹市内で車イス(脳性マヒ全介助)でもプール利用ができれば嬉しいです。(20代女性、身体・知的)

- ・ 高次脳機能障害の活動、トレーニングの場所がない。(20代男性、精神・高次)

<交流の機会に関すること>

- ・ 障がいも人によって様々だが、当人もまわりの人にとっても共有できる場が多くなってほしい。サークル活動やコミュニケーションがとれる集まりなど。孤立してしまうのが一番怖いと思います。(40代女性、身体)
- ・ 同じ障害者同士が集える居場所をもっと作って欲しいです。(30代女性、精神)

<アンケートに関すること>

- ・ このようなアンケートはとてもありがたい。ペーパーだけでなく、施設などに直接話を聞きに来てほしい。(30代男性、身体)
- ・ 「障がい者支援課」という封筒を個人あてに一方向的に送ってくるのはセンシティブ情報の観点から問題。こういう手紙を受け取った人の身になって行動して欲しい。「福祉支援課」とか組織名改めるとか「健康福祉部」という封筒作るとか「障がい者」という言葉に敏感にならなければいけない社会にまだいるのです。(40代男性、精神・発達)

<その他>

- ・ 障害者も健常者もなく、共生できる社会になればよいと思う。差別の無い世の中になってほしい。(50代男性、精神)
- ・ 健常者、障害者が分け隔てなく自然に生活できる社会になって欲しい。(60代女性、難病)
- ・ 交通事故で中途障害の人が多。その対応が不足している。(50代男性、身体・高次)
- ・ 障がい者の福祉サービスをよりよいものにしたり、要望が直接伝わるように、障がい者と市側の懇談会のようなものがあると良いと思います。(60代女性、身体)

